

昭和9年(1934)設立

財務省許可 社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

[政権交替] 経済金融政策の新展開

日本再生への戦略

[時局論壇] 世界経済危機Ⅲを避けよ

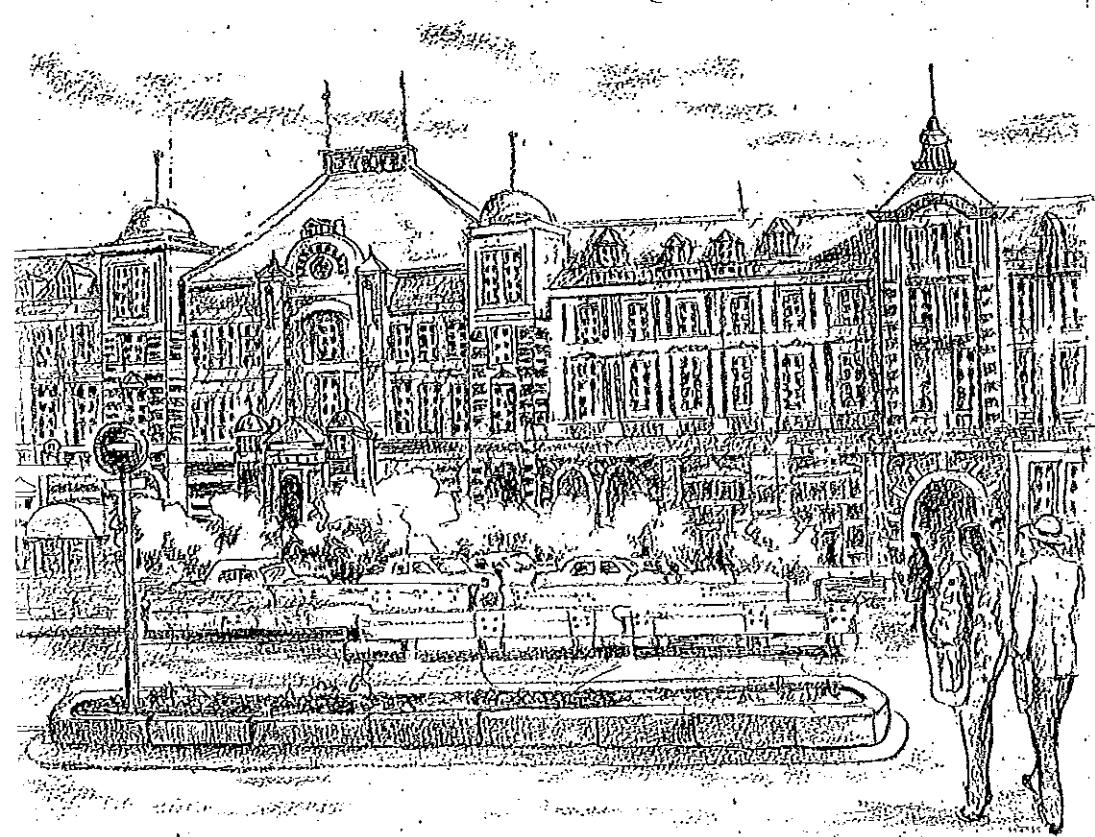
技術変化と格差 市場の復元力

第64巻1号

25年 1月号

国会図書館永久保存書

原 真人
月尾 嘉男
岡部 直明
小林慶一郎



復元された東京駅

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以つて、文化科学への触発は閃きを以つて発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知をもってこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操をもって、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊嚴をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

社団法人 昭和経済会

社団 法人 昭和経済会の案内

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年（昭和九年）五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生選送基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

新 春 一 月 号 · 目 次

卷頭言 佐々木誠吾 (3)

〔政権交代〕
経済金融政策の新展開 アベノミクス
原 真人 (79)

日本再生への戦略 月尾 嘉男 (81)

〔時局論壇〕
情報化、『貧困のわな』覆す
篠崎 彰彦 (87)

〔時局論壇〕
世界経済危機Ⅲを避けよ
岡部 直明 (93)

〔時局論壇〕
日本財政 危機回避の条件
横山 彰 (97)

〔時局論壇〕
世界経済危機Ⅲを避けよ
昭経俳壇 遠藤 蘆穂 (124)

後記隨想 佐々木誠吾 (130)
表紙絵のことば 関根 常雄 (143)

謹賀広告 (145)

〔時局論壇〕
技術変化と格差 市場の復元力
小林慶一郎 (103)

特別賛助会員 (150)

〔時局論壇〕

株式市場再生と自社株買い

翟 林瑜 (108)

わが回想記 堀江 忠男 (114)

蘭子の心情 ランコ岩本 (120)

わが回想記 堀江 忠男 (114)

掛軸へいりて
者をことばべ
那智の瀬戸
かく

卷頭の章

佐々木誠吾

謹賀新年

掛軸の上より太く書きおろし春をことほぐ
ぐ那智の滝かな

梅の香のいづくともなく匂ひきてわが山里
の恋しかるべき

あほぎみる富士の高嶺の白雪に初の明りの
映ゆるあさかな

平成二十五年元旦

街の大改造計画　（京橋交差点街）

昭和経済会の事務所からほど近い京橋三丁
目の交差点が、今、大再開発地域に指定されて
触手を動かされてから六、七年がたつでしょう

か。一角に散在していた大小のビルが一つ一つ
地上げの対象になつて解決するまでに長い年
月がかかりました。一丁目1番の区画には古く
からあつた協和銀行京橋支店の入つた京橋三
丁目ビルと、片倉工業ビルと、蛇の目ミシンビ
ルの3社だけで解決のつくものでしたが、隣接
の2番の区画は簡単なものではありませんで
した。一区画とも同じ面積でそれぞれ1000
坪ぐらいの面積ですが、一方の番地の土地は地
権者の数が多く、簡単にとはいかなかつたよう
です。大小さまざまに、ちまちまとしたビルが合
わせて二〇社ほどが、乱立して立つていたもの
でしたが、地権者とほぼ話がついていつたので
しょう。辛抱強い交渉が続けられていきました。
小さなビルが一つ一つ解体されて、大きな重
機が現場に入つて毎日轟音が響いていました。
破壊的な、殺風景な街の様子がいつまでも目に
入つてきて、しまいに街 자체がこのままいつま
でも続していくとしたら想像すると、嫌悪感

すら覚えてきました。地元にいて事業を続けていく人たちにとっては、もういい加減にしてくれと投げやりな言葉の一つも吐きたくなるような心境でした。関係のない地区のお店が何軒か店を閉めていつたところもありました。商売が成り立たなくなってしまったのかもしれません。買収の対象になつているなら、いい条件の提示もあってわたりに舟ということなのでしようが、そうではなくてとばつちりを受けて迷惑千万といったところなのでしょう。持ちこたえていれば、大規模開発はそこだけに止まらず、これから周辺に波及していくかも知れませんし、新しい街づくりが完成すれば、おのずと資産価値が上がるかもしれません。しかし遠い将来のことかもしれません。こればかりは運としか言いようがありません。

更地になつて建物の建築表示が出されたのは平成二十二年四月九日でした。建物の名称は「京橋二十一・プロジェクト」でした。設計施

工は清水、大成の共同企業体です。二区画を分けて従来、中央に都道が走っていましたが、これを払下げてもらい二区画を統合して一区画とし、利用面積をさらに広く拡張し、その上に巨大な建物を建築することになりました。従つて敷地面積は八一三一m²で、坪にして二四六〇坪の広さです。建物の敷地面積は五六一七m²、坪にして一七〇二坪になります。約七五八坪の敷地が、ビルの周りを囲んで遊びの場所として提供されることになつて、都心の構想のビルとしては、地上から広い解放感がうかがえるものです。

標識によると 建物は地下四階、地上二十四階 その高さは一二四メートルです。平成二十五年三月末となっています。現場はほぼ予定通りに工事が進んでおります。建物の使用目的を見ると、多目的ビルということがわかります。事務所のほかに、店舗、診療所、集会室、展示場、のほかそれに見合つた駐車場などがありま

す。ビルの延べ面積は十一万七五〇〇m²、約三万五五五〇坪という広さです。着工が平成二十

二年九月で、いま外に出て確認してきましたが、

清水、大成の共同企業体で間違ひありませんでした。銀座中央通りを挟んで向き合つた東側の区域を含めると、開発規模は二割五分増すことになります。この区域は第一生命が所有していました。

最大の興味は、この「京橋二十一・プロジェクト」の建設に要する資金です。私の概算で一兆六〇〇〇億でしょうか。土地代が坪当たり五〇〇〇万として一兆二五〇〇億、建築費が坪一二〇万として四二六〇億という内訳になります。開発計画に手が付けられてからざつと六年間ですが、ばらまかれたお金が一兆二五〇〇億という経済効果は計り知れません。加えて周辺地域の環境整備も逐次急ピッチで行われています。又これに刺激を受けて老朽化した建物も解体、再建築が進められていて、波及効果の範

囲はさらに広がっていくものと思われます。

新・東京駅のお披露目

この十月には東京駅が長い歳月をかけて復旧と全面改装の工事が完了し、百年前の創建当時の面影を再現し、新しくお披露目されました。大正ロマンの花が、大東京の中心の東京駅に大輪の花を咲かせ、古き良き時代の再現に成功しました。これより先、丸の内ビル街は、大規模の開発が行れてきており、センスにあふれた高層ビルが立ち並び、商業施設の大規模な設置が集客力を高めて連日の観光客で新たな名所となっています。都市の面目を世界に知らしめて発展する東京は、そのまま日本の経済発展を世界に発信していることになります。加えて近年、日本橋、八重洲口が、丸の内の大改造計画に触発、呼応して見事な力強い発展ぶりを呈してきて、現代的なデザインを持つたビル建設が急ピッチで進んできました。このたびの京橋ビルの

大建築は、丸ビルと日本橋、八重洲界隈を結び付けて、さらに銀座の街並みに続いていくものとなっていました。西に延びる官庁街も機能的に立ち並んでいます。広大な敷地の皇居を控え、風光明媚な大都会の魅力はさらに高まり、世界に向かってその景観は、富士山と並んで日本を代表する莊麗で豊かな国土の象徴となるものです。

この大型の多目的複合ビルが完成すると、このビルと向き合つて、富士屋ホテル側に近三商事の所有地があります。三方を道路に面した形の良い地所ですが今は広い駐車場になつています。名門の近三商事は昭和経済会の会員です。日本橋室町に所有するビルは重莊華麗なビルで東京都の有名保存建物に指定されています。昭和八年に竣工しました。敷地二〇〇坪八階建ての堅牢優美な建物は、きやしやな周辺の建物を圧して余りあります。この建物の設計は、か

の有名な村野藤吾博士のもので、近代モダニズム

ム建築を代表するものとなっています。施行は竹中工務店です。玄関ロロビーのドーム型の高い天井には一面にガラスモザイクが貼られていて、見事な装飾が圧巻であります。昭和経済会の人たちには、何時でも見学の機会が与えられています。ところで近三商事殿が所有する京橋のこの場所には昔五、六件からなる商店が立ち並んでいましたが、すべて近三商事の地所を借りていた人たちでした。三、四年かけて立ち退け交渉をした結果、借地権をすべて買い戻して上物を解体してきれいな更地としました。この一角に佐藤建設が事務所を構えていました。同じ昭和経済会の会員で話がスムースにまとまり立ち退きの仲立ちを務めた私は大変喜ばれました。長年当地で事業を継続してきた私にとって周辺は庭みたいなものです。

昭和経済会のオフィス

昭和経済会の事務所は、京橋交差点から百メ

ートルほどの所に位置しています。八重洲富士やホテルを目指して来れば、すぐにわかる場所です。商工中金本店の横玄関と向き合つた城辺橋ビルの七階にあります。私が理事長を務めて以来仕事の効率化を図るため、それまでにあつた銀座一丁目の武蔵やビル六階から移つてきました。移つてきてから四〇年近くになります。

このビルは戦後昭和三四年に建てられたものです。オーナーは戦後の都市発展に尽力した城戸さんです。その間都市の発展も目覚ましく、地下鉄も浅草銀座線から、今では日比谷線、有楽町線、千代田線などが開通して久しく、最寄りの駅にはそれぞれ徒歩二、三分であり、交通至便なところです。私は独立して所帯を持ったころから生まれ故郷の浅草猿若町から世田谷の等々力に移住しました。以来、東横線経由・地下鉄日比谷線で銀座まで乗つてきて、そこから東京駅方面に向かって賑やかな外堀通りを通りてオフィスに通つております。たまに銀座

中央通りを通つて来たり、並木通りを経て来ることもあります。いずれも毎日の通勤経路は、ありがたいことに華やかな銀座通りを爽やかに歩いてくるので、気分はいつも青春時代です。銀座プランタンの店内をそのまますり抜けて、歩いて知らず内に出勤してくるようなもので、大変恵まれたラッキーボーイであることに違いないと、満足し感謝しております。

新しくできたビルにはブティックのきらびやかなブランド店が数多く出店しているのを初め、最近では、グルメと銘打つレストランや老舗の料理屋が出店し、それも国際色豊かに郷土色を売り込んで、消費派の趣向を満たしてくれています。そのためでしようか、老若男女を問わず、朝から開店を待つ列ができ、日暮れを待つラッシュの時間帯には大勢の人が列を作つて順番を待つ有様です。こうして見ると日本の消費欲はまだまだ盛んだと思いました。東北大震災が起きる前は、日本を訪れる外国人

観光客で國中があふれるばかりでしたが、皮肉な結果でニッポンは痛恨極まる運命に襲われてしまいました。大震災では大きな影響を受け、分けても東電の原発事故で放射能汚染の影響で潮が引くようように、外国人観光客が減つてしまつたわけですが、國の威信も大きく落ち込んで國民の二重三重の苦渋はしばらく忍耐を以て耐えていかねばなりません。そうした深刻な時期ですが、一方で少しでも華やかな復興、発展の道筋を薦進し、大都会から自然に湧き上がつていく底力を示して、經濟停滞の撃破の突破口となれば、平和と繁栄を目指す日本の信念と自信を示して、世界に率先垂範を示していくのではないでしようか。

十月十七日

国際通貨基金の総会

国際通貨基金の年次総会が先般、東京で開かれました。各国から二万五〇〇〇からの人たちが参加して熱心に討議がなされ、決議文が採択

されました。世界經濟の減速が確認され、世界は、各國とも厳しい財政、經濟運営に直面していかねばなりません。しかし政府に經濟運営を託すのではなく、そうした時こそ民間企業がこそ創意工夫して新たな經濟の起爆剤となるべき新境地の開拓に邁進し、新しい有効需要を喚起して、勤めて行く時ではないでしょうか。私たちは口をそろえて云つた時があります。小さな政府と行政、無駄のない彈力的な、活力あるクリーンな社會の構築こそが必要であります。均衡のとれた理性的な社會を想像していくこと、經濟的汚染から守り、破壊から秩序を守り、人權を貴ぶ社會こそ後世に残していく我々には使命があります。經濟的汚染とは有害無蓋を含めて經濟活動から生まれる、殘骸の処理です。。それらを再生して資源の無駄使いをなくすこと効率良き産業の育成が、新たな分野の技術を掘り起こしていきます。こうした危機に立つことこそ、人間にとつて反省と自覚を

促す絶好のチャンスであり、人類が継続して豊かな明るい神の国にちなんで進んでいく道しるべとなるでしょう。世界銀行を含め、国際通貨基金の年次総会がこの時、日本で開かれわれわれの指針が示されたことに、世紀に臨んで大きな意義があることに気付かねばなりません。

会議に参加した多くの人が、街の美しさ、力強さ、人の往き来の慎ましさなどに目を注ぎ、東洋の最果ての國の賢者の姿を心に浮かべ、一様に感嘆の声を上げております。そうしたことには、この國の独特な力を象徴するものだということです。明治維新のさなか、日米友好通商条約の調印のため日本代表団が、ニューヨーク・マンハッタンのブロード・ウェイを行進していく様子を、アメリカ建国の詩人・ホイットマンが堂々と歌っています。「日本から来た東洋の賢者の面差し深い、寡黙な人間が今ブロード・ウェイを行進していく」と。百年間前の変わらぬ姿を想起し、情愛に満ち思索的な日本人の高

邁な精神構造の持ち主を垣間見たのでしょうか。余りにも飛躍すぎる論法かもしませんが、しかしホイットマンの慧眼は間違つてはいなと思います。

昔の京橋界隈

戦後の荒廃から立ち上がって再建の道を進んで六七年、現在の東京は輝かしい街並みに変貌しました。そしていまだに進行しつつあります。それは第三の波となつて民間の手によつて東京改造計画が進行中です。百年前に建てられた優美な東京駅の再現は、日本人の東洋的、伝統的な感覚と、美意識を象徴するものでしよう。周辺はそれに呼応して、ますます発展の度合いを深めていくものと思われます。華麗に完成しつつある丸の内界隈と、東京八重洲口界隈がつながり、京橋二一一・プロジェクトが結び付き、銀座地域に抜けていくコースは準備万端です。陸続と大きな人の流れを見て取ることができ

ます。わが昭和経済会は言うなればそのど真ん

中に位置して八〇年近く稳健にして自由と平和主義をかざしてたゆまなく活動し、公私経済の発展に寄与してきました。そしてさらに変貌の激しい内外の情勢に機敏に且つ正確、大胆に対処して、これからも諸問題の解決に当たり、会員諸兄の役に立ち、社会の要請に努めてまいることを標榜しております。

昭和経済会の活動拠点が中央区銀座並びに八重洲に創立以来あることも誉れであります。先代の足立理事長は創立場所を日本に中心地の東京を選び、その中心地の中央区に設けることを決心し銀座一丁目に設けました。その志と慧眼たるや、不動の信念は敬意に値します。会は戦前、戦中、戦後の激動期を潜り抜けてきました。私が昭和五六年一月理事長を拝命し、活動の効率を図るため事務所を現在の八重洲二丁目に移しました。ここに来てから三一年がたちますが、日夜研鑽、努力の山積する絶好の場

となつております。

昔、銀座一丁目に洋画専門で封切り映画を上映していた「アトル銀座」がありました。映画の好きだった兄に連れられて足しげく通った思い出があります。ディズニーが制作した「バーニー」を初めて見て興奮していました。ワイドスクリーンを最初に使つた劇場としても有名で、多くの観客が動員されました。「おかしな おかしな、おかしな世界」という映画が上映されましたが、ダニー・ケイが主演したミュージカルで、上映中私は終始笑いつばなしであつたことを覚えてます。毎日が楽しい青春真っ最中の頃でした。そのアトル銀座と向き合つて武蔵屋ビルがありました。このビルの六階に昭和経済会の事務所がありました。このビルのオーナーが一階に武蔵屋家具店を開いていました。このお店が家系的には親戚関係にあつたことも不思議な縁であります。

伝統的な、美術工芸的な高級の家具ばかりを

製造販売しておりました。江戸時代から続く老舗です。この店の若旦那にお嫁さんを紹介したのが私の父でした。お嫁さんになったのは、私の母の妹の長女でした。台東区の竹町で代々岡村家具店を経営している家で、親戚になります。

父が仲人をしたお札に、武蔵屋さんから結構なお札の品物をもらいました。それは大きな杉雅板を作り出す杉の大木は、日本中探しても探し当てるのできないものです。お金に変えられない豪華な家具に、父もびっくりしていましたが、さすがに老舗の祝儀は乙なもので物凄いものだと感服しておりました。その大机は私が所持を持つて世田谷の等々力に引っ越ししてきましたときには母を説得して貰つてきましたが、現在もこれだけは父、母の形見として大事にしています。ことがあつて和室に持ち出すときがありますが、堂々として風格があり、家自体が一段と落ち着いて飲む酒もうまく、和歌もしきり

に詠めてくるのが不思議です。おまけに床の間に会津八一の和歌と筆の掛け軸をかければ、一段と風雅の世界に我が身を置くことができるというものです。

華やかだった銀座界隈

開発プロジェクトで解体された建物の中には、堅牢で古いビルが時代の変遷をとどめて惜しまれるものもありました。片倉工業のビルは古く、古色蒼然の感がありました。裏通りの一階には理髪店があつて、長年の名物の一つであります。赤、青、白のランタンがくるくると回っていました。身なりをただした紳士諸君が整髪を終えて颯爽と出てきましたが、当時「あこがれのハワイ航路」をうたつていた歌手の岡晴夫のような感じの紳士が整髪を終えて出て来ましたが、柳谷ボマードがてかに光つていました。青い山脈をうたつていた藤山一郎のような人もいました。雰囲気が一様なのが面白

かつたような感じがしました。地下一階には古くから美人喫茶があつて店内が赤一色のじゅうたんで華やいだ雰囲気を醸して一種独特な風情がありました。和服を召した美人がしやなりしゃなり広い店内を巡つて、お客様の注文を受けていましたが、結構な数のホステスが接客していく、しばらくしてから世の中で美人喫茶が大いに人気を博して繁盛したところでした。美人喫茶の草分けだったことになります。当時はまだ大正ロマンといったものが残されていて目の保養には充分の機会を提供してくれた、結構楽しい穏やかな世の中でした。ですから数寄屋橋交差点先には有楽町ビル六階にチャイナタウンという大きなキヤバレーがあつたりして、赤坂にはミカドがあつたり、そうした世相のシンボルにキヤバレー太郎の異名をとつた福富太郎が銀座に六つも、七つも店を以て華やかな銀座を演出していました。もちろん銀座五丁目から七丁目には高級クラブが店を張り、その繁

盛ぶりで世の中の景気、不景気がわかつたものでした。金田中や河庄といった料亭も華やかに日本的な情緒を演出していました。平成二年からの引き締めでバブル経済が終焉し、経済停滞が始まつてデフレ不況が蔓延化すると、今やそうした店の多くは消えてなくなりました。ただ一つ堅実經營に徹し、世の勤労男子諸君に唯一の朗報を保ててくれるのは、操業八〇周年を迎える銀座の白いばらだと云います。先ごろ長年勤めた店長が定年退職して皆に惜しまれて店を去りました。東京新聞が取材に見えて、店長の退職を惜しむ記事を掲載して花むけとしました。私はそれにちなんで和歌百首を真面目に詠んで、名門の短歌同人誌・淵に発表し、その人となりをうたつた次第です。それは勤労精神を謳歌し、世の男兒諸君を励ます歌でもあります。皮肉にも聞こえますが、多くの方々から称賛の声をいただきました。落ち着いて考えてみると当然の評価をいただいたものと思つ

ています。世の中は日進月歩で、経営様式も生活様式も様変わりです。街の様子も当然変化を遂げて、栄枯盛衰、浮き沈みの激しい時代となつてきました。こうした時代こそ各人、各企業は持ち味を生かし、言うなれば歴史と伝統を堅持して、世の発展に寄与していくかねばなりません。

廃れる倫理観

中小企業が生き残りをかけて技術革新の波に乗って独自の分野で技量を發揮し、新しい企業もどんどん生まれてきました。大企業は資本に物を言わせ企業の吸収合併を繰り返して合理化を図り、競争力を高めて市場を席巻しつつあります。事務機器を挙げてみてもファックスが進み、携帯電話が普及し、パソコン、インターネットの爆発的普及で、スピードと省力化が昔に比べまさにここ十年の間に、天と地の差がついてしまいました。効率化、画一化は現代の

生活、現代の企業、現代社会の中に広く深く浸透して様態は一変しました。大学を卒業した友人が私鉄会社に就職し、改札で切符切りを初めて半年間、更に便所掃除をして訓練したことを見出せば、今切符を切る人はいません。時代についていけない人もたくさん出てきました。機械化や省力化の波は当然のことながら、雇用市場に影響を及ぼし、万年失業状態が続いていることになります。金持ちが貧乏人を助ける経済社会の構築をしなければなりません。鄧小平後、資本主義的経済運営を取り入れた中国は近代化の道を邁進し、結果GDPで日本を抜き世界第二位の地位を手にしました。しかし発展の過程でほころびが徐々に露出し、民衆の間にとめるものと、そうでない貧乏人との格差拡大がきました。この所得格差をいかに埋めていくかが今の中国の最大の課題であります。こうした傾向が中国社会の不安要因で、かつてのように拡大する市場に参入し、企業がうかつに中国進

出をするわけにはいかなくなつてきていています。ピグーに代わる新しい意味でも厚生経済学もそうですが、後世のための大膽な社会スキームの提唱と実施が緊急の課題です。

世界的な視点から見ても、無駄を省くことも課題です。戦争など、ましてやシリアのように内戦状態を続け、市民を容赦なく殺戮して平然とし、大国は見て見ぬふりをして平然としているなど言語道断であります。シリアのアサドのような人間が世界を跋扈するなど、まさに地獄の沙汰であります。世界の良心はいつたいどこに行つてしまつたのでしょうか。正義も平和もあつたものではありません。アサドのような体たらく者を、無法者を、無頼漢を一刻も早くこの地上から抹殺すべきであります。ドイツのヒトラーのような虐殺趣向者で、獰猛、狂人の類いであります。さもないとあつした人間であつても権力さえ握つてしまえば何をなしても構わぬという思想が、人々の間に蔓延していかないとも限りません。恐るべき風潮であります。

戦争ほど無益で無駄なものはありません。非人道的な悪行であります。利益を生む戦争商人の存在もあるかもしれません、もとより悪徳商人であります。与えられた経済行為には、もとより有効な生産的消費があるはずであります。眞の企業家精神こそこの世に勝利を博すような価値観と思想を育てなければなりません。それは、生産者にもよく、消費者にもよく、世のなかにもよい商品を作り出していく企業家です。この思想のもとに円滑に経済が回転していく上にこそ、正しい経済発展の原理が我々人間社会に生かされていくのであります。

もの作りの原点確か

同じようなことを渋沢栄一が言つていたよう思います。金融経済と物づくり、物品の生産こそは現代の最重要課題であります。日本人はこの「ものづくり」に長けており、その志と

精神は他国の追随を許しません。手先の器用さと緻細な感覚、経験から割り出した緻密な計算と作業、そして集中力と忍耐強さは日本人の特性であります。そこに商人としての良心的なそろばん勘定が加わって三方よしの経済観念が湧いてきて、好ましい循環が行われていきます。精密機械の優れた技術は、豊かな想像力とともに繊細緻密な職方根性から生まれてきたものです。精緻な計算は試行錯誤の経験から生み出されたものです。五重塔の建設も宮大工にとつては設計図面は必要ありません。勘と道具の手探りの使い分けだけです。それは限りない創造性を生み出して、味わいのある個性を発現していく手立てともなります。結果に置いて現代の先端技術を以てしても、太刀打ちできない建造物を立ち上げてしまうのです。そうした職人は少なくなりましたが、天性の技は、その精神は心身に受け継がれてきています。それが日本の科学技術の発展に大きく寄与しているのである

ります。山中教授のノーベル賞にもつながるものであります。

投資の有効活用によつて経済の循環が促され、周辺各地に波及効果をもたらすことが出来れば、景気回復の起爆剤となつて日本経済も活路を見出していくことでしょう。東北大震災の復興予算の実行が、直ちに景気刺激になるとは考えにくい要素もあるので、ちょっととしたきっかけで、新しい都市開発が各方面に投資を促すことにもつながっていきます。今、消費者の関心が都市に集中してきている感じがします。今日十月二五日、夕方六時近くに帰途につきましたが、途中銀座プランタンの前を通り過ぎていきましたところ、大勢の若い女性たちが群れを成してお店の中に吸い込まれていく光景に出会いました。更に多くの女性がお店を取り巻いて列を作り、入店の順番を待っているのです。女性はそれぞれ招待状を手に持つて、プランタンの「お客様謝恩大セール」と銘打ったプラン

タンの商戦に飛びついていたところでした。この日はお店が五時閉店となつて、全店が招待客のために設けられていきました。外堀通りの北口から入店して、西口から出るといったコースで、係員が多くのお客さんを誘導していました。この若い女性たちの購買力は驚異的に映りました。売り出す商品も上質なものを安く提供するといった主旨のようです。女性だけしか入れそ
うもないので、しばらく表に立つてその圧倒的

様子を観察していたところです。街がきれいになつて有名ブランド店が、軒を連ねて出店し競争しあう雰囲気になると、センスと美しさと若さを求めて多くのファンが詰めかけてくるでしょう。その相乗効果は物凄いものがあります。

戦後の混乱期

そうした効果を待つて来年二月には、いよいよ京橋三一プロジェクトには所業施設が華やかに出店することでしょう。交通的利便性加

え、都心に上級の高度先端の医療技術を持つた診療機関も設置されるとのことです。来年三月末には竣工する予定になっていますが、今日現在、構造的工事は9割型完成しております。あとはじっくりと内部の設備工事や内装工事にかけられることでしよう。

工事現場を囲む高い塀には京橋の変遷と銘打つて、街の変化の様子の写真を拡大し、時代を追つて楽しく掲げてあります。明治三五年の時には、京橋大通りにはフランスの凱旋門をもじつたものでしようか、「東京凱旋門」が威風堂々と建っていたことがあります。明治42年の写真には、京橋の堀割には伝馬船が係留されて、釣り宿があつたりしました。道行く人も着物姿の女性や、作業着姿の仕事師など、馬車をひく人もいて、随分と古びたのどかな光景で当時の流行と風俗などもうかがえて、今ではとても想像できないものです。過去の歴史を少しでも振り返つて、反省の上に立つて先人の教

訓をそこに求めるることは、進歩発展する人たちにとつて常に、原点に立つ姿勢として尊ぶべきものがあります。

第二次大戦の終了までに東京は米軍の重爆撃で、完膚無きまでにたたかれて、ほぼ不毛の地と化しました。残骸は目を覆うばかりの悲惨さで、一面焦土と化し、一時は原爆投下の広島、長崎の悲惨な状況と変わることはありませんでした。張られた写真にはさすがにその頃のものは掲載されていません。想像ですが一枚の写真が貼られるときれば、硝煙の立つ焼け野原に、薄汚れて憔悴しきつた少女が、生きる希望を失つて呆然と立ちすくむ姿ではないでしょうか。思うに日本の為政者は国民にとつて気違ひ沙汰の政治を敷いていたものです。やつていたことは今のシリアのアサドと何ら変わっていませんでした。内戦こそなかつたものの、多くの国民の生命、財産を奪つてもはや再起不能とまで言われていた日本と日本人でした。しかし

先に述べたホイトマンの詩を読むまでもなく、日本人の正義と不屈の精神は、國民をしてこの國土の焦土から見事に立ち上がらせました。三〇〇万の日本人が戦争の犠牲になっています。はやりの帝国主義的政策とも云うのでしようか、アジアに進攻していく統治下に置いた植民地と投下資本はすべて失い、進攻して奪った土地はすべて失い、外国に滞在していた軍人や商人や、入植者たちは命からがら本国に戻つてきました。しかしその本国たるや、経済はずたに切り裂かれ、生き残つた國民は、女子と老人と子供だけという貧乏のどん底に投げ込まれて、食べるがやつとの世相でした。

いつまでもぼんやりしているわけにはいきません。焼けただれた地面に雑草が生えていくように、焦土に人々は懸命な再建のつるはしを振り上げました。工場では生産の機械の歯車の音が鳴り始めました。荷物、商品を運ぶ人力車の復活もありました。リヤカー、大八くるまが

物品を運び始めて、公設闇市を作つて活躍しました。ほしがりません勝つまでは をひつくり返したような戦闘力が、民主主義と自由の薰風に乗つて澎湃と湧き上がつてきました。再建への大いなる道であります。自分たちで作り上げていく、新しい理念の下での国家建設であります。国民に労働意欲の実感がこもつてきました。

元気な担ぎ屋さん

戦後の混乱した一時期、闇米列車が各地から東京に向かつて必死の光景を演じながら走つていました。闇米を担いで汽車に乗る婦人たちは、途中警官の取り締まりにもひるまず、田舎から都會に食料を運び出しました。なかでも東北線と常磐線が都民が食べるコメを運んで必死の活躍をしていました。必死になつて戦う相手とは、なんと日本の警察官でした。一足早く父のもとに一人上京した私は、常磐線の列車のなかで、騒然とした光景に出合いました。土

浦あたりから闇米を背負つた女たちが大挙して汽車の中に乗り込んできました。利根川をわたくつてくるあたりから、松戸駅で取り締まりの一斉立ち入り検査が入るという情報が入ると、女たちは背負つてきた大事な闇米の袋を窓から外に向かつてどんどん放り投げていました。地上には仲間の者たち数人が懸命にその袋をかき集めているのです。松戸駅に着くと案の定五、六人の警官が血相を変えて乗り込んできました。野菜だけはカムフラージュに持つていましたが、米は全て途中で外に投げ出していたので没収されないで済んだのでした。「坊や、お米は持つているかね」と警官が私に聞きました。「持つてなんかいないよ」と、ふてくされて答えたことを覚えています。おんなの意地と知恵が、警官に勝つたのです。しかしこの闇米がなかつたら、国民は餓死したりしたことでしょう。戦後、国家のために闇米は喰わないと宣言した裁判官がいました。一途なその人は餓死して死

んでしまつたことが大きく報道されました。正義とは何かを考えさせられました。勇気を出してコメを列車の外に投げ捨てていったのも、乗り込んできた警官に取り押さえられました。いためです。

戦後輸入されたイタリア映画の「にがい米」のワンシーンを思い出しましたが、生きるために体を張つていく強いおんな達の姿を見て胸を打たれた記憶があります。おんなと警官たちの知恵比べ根比べの闘争が繰り返されていました。こうしたことが列車の中で毎日行われていたのです。そうしたいいろいろな混乱の中から、

やがて自然的に市場が開かれて、取締法もだんだん

だと有名無実のものと化して自然消滅したり、廃止されていきました。統制が撤廃されていつて、そこから次第に自由市場が広く行き渡つていくようになりました。上野のアメ横は戦後の自由市場を無政府的に認めていたもん歩ですが、豊富に出回る商品は戦後に余つた軍需

品の副産物や、配給の横流しや、アメリカ軍の物資の横流しが中心で、すべて闇価格でした。そして次第に物の取引が活発行なわっていきました。都会には、それぞれに合つた建物がどんどん建築されていきました。都会の復活と、再建の音は全国に響いて広がつていきました。都民の不屈の精神が発揚されたのです。こうした動きの素朴な活況さについては、写真の説明がありませんでした。時代がやや安定したころの昭和29年以降に写真の掲示は移つていきました。

都電

京橋の中央通りを走つていく都電が大きく映つています。このころは木製の都電も走つていました。標識は二十二番で千住から新橋間を走つていた線です。木製の電車は動いている最中にぎしぎしと車体が鳴つて揺れながら走つていきましたが、人によつては薄意味悪く感じ

たことでしょう。スピードを上げて走つていくときは、左右に揺れて確かに壊れてしまうかもしれないと思う時がありました。当時は都内を網を張ったように都電が都会の街の中を走つていて、都民の唯一の交通手段になつていました。しかしその後の猛烈な自動車の普及で都電が邪魔扱いされるようになつて廃線が相次ぎ、軌道が次々に撤去されていきました。自動車の氾濫は排気ガスによって環境を破壊し、今では都民生活を圧迫するほどに悩みの一つですが、クリーンな交通手段の復活に熱い視線が注がれてきています。都電と自動車の共存共榮を図つていくことは、穏やかな時代の復古調と相まって、都会の美観を作る要因でもあります。外國では古くからあるトラムが大切に残されて、都會の大きな交通手段になつています。オランダのアムステルダムで軽快な車輪の音を聞きながら観光を楽しみましたが、実際に合理的で楽しい乗り物です。京橋を走ついく都電の写真

を見ながら、當時を懐かしく思い出していました。今年は各地で路面電車の敷設百周年を祝う行事が行われる予定ですが、これから都市はこの路面電車を有効に復活し、ないしは新たに敷設していく運動を広げていこうではありますか。都市計画に積極的に組み入れてクリーンで効率の良い潤いを添える乗り物は、この路面電車にほかなりません。東京都は一時は、全盛期には、網の目のように張りめぐされました。目先の胆略的な思い出ほとんどが廃線になつてしましましたが、都心を流れていた河川を埋め立てていつてしまつた悪政と一緒で、戦後の都市計画が失敗を犯した殘念なことです。

私は少年時代早稲田中学に通っていました。浅草聖天町の停留所から、この二十二番の都電に乗つて日本橋に行き、そこから今度は十五番線の早稲田行きに乗り換えて終点まで乗つて、毎日通学していました。ほとんど毎日が朝の通

勤ラッシュで込み合つていきましたが、デッキにつかまつて風を切つて乗つていくのが楽しみでした。運転手とはすでに顔なじみで私が最後に乗つたのを確かめ、安全を確認してからいつも走り出していました。こうして朝のスリルに満ちたゲームを楽しめるのは、二つ目先の浅草松屋前の停留所まででした。その先は交番の巡査が目を光らしているので、とがめられるのを避けていたからです。その後は浅草橋乗り換え、そしてまた廐橋乗換とルートも激しく変わつていきましたが、それほど新しく路線が復活していく証拠でもあります。もちろん街並みの風景も、戦後からの脱却を示すように大きく変わつていきました。

青い背広で

そのころから半世紀たつた今、京橋三十一プロジェクトの現場は、大きな音おたてて完成の道を急いでいますが、完成の暁には巨大な建造

物が、優美な外観を呈してお目見えすることでしょう。さすれば周辺一帯は見違えるような景観を呈し、東京の一大ブランド地域に変貌して内外から多くの人たちが押し寄せることがでしょう。新しい時代の幕開けを、昭和経済会の事務所の間近に興奮して期待し、いつも眺めているところです。私も半世紀の間生活を共にしてきただけに、第一の故郷の変貌と発展に大いに関心を以て期待しているところであります。

昭和に初期に明るく変わつていく様子を希望を以て歌つた、はやり歌があります。佐藤惣之助が作詞し、古賀政男が作曲した「青い背広で」という歌です。この二人の名コンビで作られたこのうたは、一世を風靡しました。これをうたつてご紹介しましよう。いや歌うのではなく、単に文字としてご紹介します。軽やかな青春の日に立ち返つて歌つてみると、今の難しい世の中のことなど忘れてしまいうような軽快な歌です。「青い背広で心も軽く 町へあの娘と

行こうじゃないか 赤い椿でひとみもゆれる
若い僕らの生命の春よ」 思い出しましたか。
偶然にも私は今日、青い背広を着てきておりま
す。そのせいでしょうか色彩は目にもすがすが
しく気分爽快です。ところで歌ですが、当時の
浮足立つた感じはわかるけど、如何にも古いで
すか。そうでもありません。AKB48のよう
に足腰のばねが利かなくなっているご仁には
もつとも無理な話になりますが、一番を続けて
みると以外にも現代に通じるものがあります。
進んで行ってみましょう。

「お茶を飲んでもニュースを見ても 純な
あの娘は仏蘭西人形 夢を見るよな泣きたい
ような 長いまつげの可愛い乙女」 長いま
つげといえば今の若い女の子に随分と流行し
て、みんなの目がパチチリしていて人形のよう
にも見えます。ところがこの風潮は若い子に限
つたことではありません。結構な年配の人も平
生長いまつげをつけて顔だちをはつきりさせ

ている方が多いようです。古い歌ではあります
が、今般方にとつても昭和初期に流行った名
歌として、今も変わらぬ銀座の柳の下を歩いて
いくのも、時代の持続性があつて安心できるか
もしれません。このところの女性の美容術も特
段の進歩をとげて、服装のみならず、エステの
普及で顔ばかりでなく肉体の美容までに浸透
し、健康趣向の施設はいたるところにできてい
ています。安易に出店できるからでしょうか、
誰にでもできる指圧マッサージの進出が目立
つてしております。医療関係の街への進出も頗
著です。高齢化の対応を巡って当然の成り行き
ですが、こうして見ると今日ほど美容健康に高
い意識を持つ時代はなかつたのではないでし
ょか。しかしこうした傾向は決して喜ばれる
べきものではなく、一国の経済力の非生産部門の
滅殺を招き、生産力を阻害する結果にもなるの
で油断は許せません。前進的競争力を高めてゆ
くには技術革新への投資、開発部門の拡充、若

年層の経済活動への積極的参加を促していくかねばなりません。そのための政策は明確でなければならず、又長期的には基礎教育の専門化と、学術研究の基礎を進めることであります。

画家の関根常雄さん

先ほど画家の関根常雄仁兄が見えました。月刊誌・昭和経済の表紙絵について旅情を込めて書いてこられた絵と、表紙の絵についての隨筆の原稿を持つてきました。今回は伊豆の熱海の街並みを、熱海城から遠望した角度で松枝越しに書かれた秀作に接し、思わず惹き込まれて鑑賞しておりました。誠実さと温厚な人柄の関根さんの作品には、繊細優かいばなタッチで筆が走り、いつも自然を愛した情景がほのぼのと描かれていて心打たれます。私は少々時間があつたので近くの富士屋ホテルの二階にあるレストラン、ウヰステリアでお茶とケーキに誘いました。東京駅が創建百年を迎える装

なりましたが、林立する丸の内の高い建物の全容がはつきり望める都会の景観を眺めてもらひながら、いろいろと話題が尽きなく話が弾んでおりました。不思議なもので関根仁兄とあつていると心が自然と和んできます。曇りない関根さん的人柄が私をしてそうさせるのでします。昭和経済に入会して二十五年になるそうです。おこがましいことで恐縮ですが、寺島祥五郎先生から昭和経済会に入会を勧められたとき、私のことを絶対に信用できる人だから入会しなさいと勧められたという話を初めて聞きました。ありがとうございました。私が寺島先生について確信を以て信じていたのと一緒でした。寺島先生は逝去されて十五年になるかもしれませんのが、その聲咳に接して思えば胸が熱くなるのです。立派な素晴らしい人に出会えたどいつも感謝の念を抱いています。そして今寺島先生のような関根仁兄と胸襟を開いて話をしごとに指導をいただいているこの長い関係

を不思議な紳と思いながら、人知では計り知れない世の中のつながりを感じていました。新年の表紙の絵について事務局で話をしていましたが、江の島から見た風景に富士さんを合わせると素晴らしいという話題にもなりましたが、新幹線の発着する様子を見ていたら、ふと思いついたことがありました。富士屋ホテルを出るとき、関根仁兄に「東京駅がいいですね、夢と希望を乗せて、大正ロマンも追つて」といったところ仁兄は立ち止まって、「そうしましよう、東京駅が新年にぴったりですね」ということになりました。

さて、都會の地域を問わず街の活気が湧いてきました。事務所の周辺を見渡すと、まだまだ開発の予定地があります。中小のビルの集合化も政策的には大事です。またふと見渡しただけでも、旧都厅の跡地には広大な敷地があります。丸の内・鍛冶橋駐車場に活用されており、中国、韓国からの観光客が、大勢見えていたときは連

日超満員の盛況でしたが、今は閑散としています。この敷地に加えて旧都厅で丸紅が入居するビルを初め、無印の入る屋やなど有楽町駅に連結させる手立てもあります。東京駅の大復元を完成したからには、これを起爆剤として百年の眠っていた意識の転換が必要です。創造性にとんだ東京の中心地の拡張でしょう。世界に向けて今、大東京再生の波はこれからも大きくなっています。内外に広く、意義ある波及効果を發揮していくことでしょう。

*

更に最近は銀座界隈に面白い傾向がうかがえていながらにして郷土色を堪能できることです。全国の都道府県がこそって銀座に進出して、産物の販売に力を注いでいることです。以前から沖縄県は銀座一丁目の外堀通りに面して贅沢に店舗を構え、沖縄物産を大々的に宣伝し販売していますが、すぐ隣には高知県の物産

販売所の出店がありますし、近くに岩手、秋田、青森、福島などなど列挙したらきりがなくほんどの県が個別的に出てきているのでしょうか。賑やかなこと銀座ならではといったところで、私のオフィスのすぐ下には高速道路が走っていますが、今回、その下に事務機器を扱つた会社が入居していましたが、移転した後茨城県が進出してくるようです。今盛んに工事が行われています。看板によると名称は、茨城マルシェです。この調子で行くと銀座は全国の県単位での物産展示即売所が出店することになるかもしれません。今までになかった新しい機能として、新しい名所として、東京の銀座の名前は、全國的に発信の威力を發揮して広がっていくことでしょう。

私の昼食

私が昼食に出かけるのは仕事の関係でゆつくりして食べることが出来ず、専ら早食い、早走りの毎日です。選ぶ場所は手つ取り早く、立

ち食いです。立ち食いは三か所に決めております。一つは有楽町駅のガード下にある新奇という名の店です。のれんを分けて入るとうなぎの寝床のような店内ですが、奥の正面には大きな厨房があつて、うどん、そば、らーめん、カレーライスといった食べ物で注文をすると手際よく出来上がつてきます。私は専らカレーライスを注文してきます。ライスを半分にしてもらい、カレーライスの上に別注で、生わかめをたっぷりと積んでもらいます。ここのかレーの味は下手に味付けを加えないで大変においしく、店の人は昔からの持ち前の味で変わつてないということでした。確かにその通りで昔食べた素朴なカレーの味で、これぞ本格派といつてもいいのではないでしようか。これにジャガイモが入つていれば、子供のころに食べた味をそのまま味わえることになり郷愁を感じておふくろの顔も浮かんできて懐しさがこみあげてきます。お客様の中で生わかめを載せて混

せて食べる人は今までにないそうで、店の大旦那が生わかめを混ぜて食べるお客様は私だけだといつていきました。長年ここで商売しているけど私のようなのは初めてだそうです。それを聞いた私のほうびっくりしてしまいました。こんなうまい食べ方もあるのに、それに生わかめは体に健康的で、一石何鳥にもなります。立ち食いでなければ女房も彼女もこの店でごちそうしてやりたいと思うくらいです。ホテルで出されるカレーと、この店のカレーと並べて料金は同じといわれて好きな方をとつて召し上がるくださいと言われたら、躊躇なくこの店のカレーをとるに違いありません。お客様が隙間なく入って来て蕎麦やラーメンをとつていくところを見ると、カレーと同じようならまさで繁盛しているのだと思いました。

この先ガード下一带は、終戦後の闇市を思わせるような雰囲気で、一杯飲み屋がたくさん軒を並べて雑然とした雰囲気ですが、これと向き

合つて立派な近代的国際ホールがそびえているのが滑稽であります。そこでは国際通貨基金の年次総会がつい最近開かれたばかりでした。世界経済の減速に対応して世界が共通した認識のもと財政再建と景気回復に足並みをそろえて経済、財政の舵とりを申し合わせたばかりです。終戦後七十周年近くが過ぎようとしていますが、有楽町ガード下の街の様子の雑然とした雰囲気の、当時と変わらないことに先ず以驚きを隠しえませんでした。

立ち食い蕎麦屋さん

二件目の昼の立ち食いは、恵みやという立ち食い蕎麦屋です。事務所を出て銀座中央通りに出ていく手前右にある間口二間の小さなお店です。旦那がひとり、手伝いの女性がひとりでやっている立ち食い蕎麦屋です。旦那がひとりで素早く仕事をこなしているときもあります。そば粉百パーセント使用と書いたのぼりが店先に三

本立っています。瞬間茹で上げが名物で、十割そばと大きな字で染め抜いた旗が立っています。十坪ほどの店内ですが、奥の狭い厨房で旦那が能率よく働いています。湯だつた大きな窯の上にそばを切る機会が据えてあり、あらかじめ練つておいたそばの玉を機械のつぼに入れると、あつという間に練られたそばが窯の中に落ちて行つて、瞬間に茹で上がつてくる工程です。これを素早く掬い上げ、真水で良く濾して上手にざるに盛つてお膳に揃えて出してくれます。文字通り練り上げ、茹でたてのそばそのものです。そばに締めた力が含まれ、滑らかな舌触りは格別で風味満点です。お客様に人気があり遠くから食べに来る人もいます。田舎そばと命名したのを初め、田舎的な雰囲気と味が楽しめて醍醐味があります。その田舎的を味わうには大盛りのもりそばを注文することでしょう。びっくりするほどの盛り付けで、相撲取りが食べるような見事な盛り付けです。この店はもり

そばが専門で、他のものを注文しても出てきません。注文すれば付け汁に大根おろしと卵、ところが出てるだけです。好みに合つて、風味満点のそばの格別な味わいを、立つたままで堪能できます。聞きつけて遠くからわざわざやつてくる人もいます。私のオフィスに見える得意先の人は、その前に必ず恵み屋のそばを食べてからくる習慣になつています。どうも私に会う楽しみと、そばを食う楽しみとで浦和からしばしば見えるのです。健康的に食欲を満たしてくれるからでしよう、はつらつとした姿で、男前を前面に押し出してやつてくるので明るい雰囲気になります。こちらがいつも明るい雰囲気でいるので男前の高橋さんも一段と明るい雰囲気が増していくのかかもしれません。今しがた恵み屋のそばを食べてきましたというのが最初の挨拶になつています。

さて三軒目は、今盛んに大工事が進行中の京

橋大開発プロジェクトの現場の前です。丁度、蛇の目ミシンの本社のあつたビルの前で、お隣が川京という名の古くからの鰻蒲焼の店です。お隣舗道の脇に、うどん、そばの文字を染め抜いた旗が一本立っているだけで、屋号は無印です。間口一間半、奥行二軒くらいでしようか。そこに一人の真面目な青年がすべてを取り仕切つて黙々と働いています。およそ店に見えたお客さんとは言葉を交わすことなく、食べ終えればさっさと帰る人ばかりなのです。通りがかりの人が大部分で、ここに行きつけてくるお客さんは限られているでしょう。そんな中で常連で定期的に来るお客様は私ぐらいでしよう。私は生来凝り性なたちで、いいとなると徹底してのめり込んでしまう傾向があります。このお店も気に入つて注文するのは決まっています。うどんに生わかめを二人前乗せてもらい、ごぼうのてんぷらを一個つけて、その上から濃いめの熱い汁をかけてもらつてオッケイなのです。極めて

簡単な調理方法ですが、いずれも共通した点は出来上がりが早いことが特徴です。それでいて好みに合ったうまい味が楽しめます。値段は超低下で、びっくりしてしまいますが、つまり庶民的な、否、リーズナブルな価格です。仕込みは各種のてんぷらを揚げたりして予め準備をしておき、全てこの青年がひとりで素早くこなしています。先日は富士やホテルの方と顔があつてしましました。舌の肥えたホテルの職員が来るのでから、味は青年がそれなりに自慢のできるものなのです。私はいつもお昼の時間を外して、すいているところを見計らつていくので、いつも寡黙な青年に声をかけて話し合ってきます。青年は喜びの笑みを満面に浮かべて、寸時ですが私はこうして会話を交わして帰ります。これは青年へのあいさつであり、感謝であり、励ましでもあります。ビルの完成が時を追つて近づいてきます。二十四階の屋上は何になるでしょうねというので、遊技場でも

いいけど二十四階となると風が強いし危険だから閉鎖されてしまうのじやないかな、屋上には出られないだろう。ビヤホールなど夏場だけでも楽しめるといがねえ、その代わり最上階の二十四階にはおそらく眺望台とレストランが豪華に開業するかもしないねといったのですが、青年は太陽光電のパネルを全面に置くといいですねというので、流石だ、そこまでは気が付かなかつた、ビルの電気消費量の何割かを自己のビルで賄えるわけで、この青年の発想に従つて太陽光電の施設に活用すべきだと思ったのです。

うなぎ屋さんと証券会社

ところがまことに不思議な縁の話になりますが、この狭い店の場所にも元、丸金証券の京橋営業所があつて当時独特な相場観を以て厳しい株式の世界で活躍していた人がいました。当時は大学を出ると石炭を含めた鉱山会社、、

砂糖会社、証券金融会社等々時代を反映した人気会社に就職していく学生諸君がたくさんいました。優秀な学生が競つて炭鉱会社や砂糖会社や造船会社に就職していましたが、その後の世の中の変化で散々な目にあつた人たちもたくさんいて悲喜こもごもの世は、相変わらず続いて行く宿命に置かれているのは仕方があります。先見性を發揮して先を見越して進んでいくことが出来ればこれにこしたことはありませんが、世のなかはそういうまくはないかもしれません。先見性が誤つていて狂つた方向に歯車が回つていつてしまふと飛んでもない憂目に出会い、そのまま虐げられた運命にもてあそばれることになつてしまします。そうした人たちを今までにたくさん見て来ました。一時の高級に目が眩み難関な試験を突破していくたのですが、その後の人生は苦難続きで氣の毒でした。逆に放置された小さな文房具会社など、その後は計算機器に転身して大変身したケース

が、一例ですがたくさんありました。もしかするとホンダオートバイの会社もそうだったかもしれません。私の友人で日産自動車に行きましたが、そのお父さんがこの丸金証券の京橋営業所の所長さんをしていた鈴木さんがいました。実質社長さんだつたようです。間口二間、奥行五間ほどの小さな店で営業をしていました。普通の電話が三本あって、二本の電話はお客様さんとのやり取りに、もう一本の電話は注文を通す専用に使かっていました。注文を受けると注文伝票をきつて、専用の電話で本店の株式部につなげて注文を出していました。極めて人間味のあるれたやり方でした。市場でも場立ちと称する人がいて、手ぶりで確認しながら売買の商いをまとめていたような時代です。この小さな京橋営業所では、奥さんともう一人の職員の三人という組織です。丁度私はその頃、先に述べた武蔵屋ビルで、昭和地産という会社の専務をしていたので、親友からの紹介で近くなの

で寄ってみました。友人のお父さんは、明るく力強く、学識、見識豊かな人だと直感的に感じていました。奥さんと一緒になつて朝早くから夜遅くまで働いて熱心な人だと思つていました。当時は四大証券が右肩上がりの経済発展を享受して、その中で戦っていくには独自の相場観と顧客へのサービスに徹していくなければなりません。株を進めてもうけさせなければ、ご自分の商売が成り立つていません。大事な財産の運用を兼ねているわけです。野線を引いて独特な分析をして株式のトレンドを見、成長性も含めて優秀な株式の買い時を見つけるわけです。

勉強になつた株やさん

私の場合は土地の投資が長期間にわたつて戦略を練るので、習性として株式に対しても長期投資が基本なのです。従つて一旦買い付けた株式はそのまま保持することがあつても売却をしないまま長い期間が経過してしまうケー

スが多いのです。資本主義経済では株式の果たす役割は重大ですが、株式を発行して大衆資本主義の奔流に乗つていく企業は成功して財を成すことは至極当然ですが、株式の売買を通じて財を成すことに成功した話はあまり聞きません。どちらかというと財産をすりつくして貧乏のどん底に身を落す場合が多いのが通説です。つまり株式投資も、多分に投機性があつて利益追求に走ると限度がなく人間の性丸出しとなつて醜態を演じる結果になるのでしよう。そんなことで、丸金の鈴木さんは私に健全な思想を以て物事を教えてくれました。

ところで鈴木さんは友人のお父さんだけあつて人格識見の高い教養人でありました。個人企業的な規模ではありますが、証券業を実質経営する立場として、相場の世界の厳しさを身を以て経験してきた人でした。赤いダイヤという小説がありましたが、小豆相場などは派手に動いて一攫千金を夢見た連中がうごめいてい

る世界です。相場を当てて財を成した人、失敗して身を落した人さまざまです。お金の世の極限を示してすさまじい限りです。そうした世界に挑んでいる鈴木さん、それだけに話す事柄も相場の世界につなげて立て板に水のごとく、まるで講談を聞くような感じで含蓄がありました。世間のことから人生のことまで幅広く、興味津々の話題にとんだことでした。相場に当たつたようなときには一服代わりに隣の鰻屋の川京からうな重の出前を頼み、見えたお客様には大判ふるまいをして景気を上げ、祝いと悦に入つていました。こうした時は自分が客に勧めた株式が値上がりしてお客様に喜ばれているときとか、大口の注文を受けたような時が多いのです。商人としては当然のことでしょう。同時にお客様に勧めた株はいつも枕にして寝るところで言つっていました。お客様の中には、片倉工業のビルの隣にあつた木造小屋の二階に間借りしていた丸美屋食品の社長さんがい

ました。この方はその後大出世した人物の一人です。私はあるとき日本精鑄という株式を勧められて購入しましたが、性分で四〇年前に勧められた株を、少しづつ買い増しして多い時には五〇万株に達したこともありましたが、いまだに手放さずに持っています。会社の総務の方があいさつに見えたりすると情が湧いて付き合つてしまふようになります。当時ペイ助だつたその人はなんだか将来立派な人間になるような雰囲気を感じていたので、なおさらです。私が思つて期待した通り、ペイ助君は三〇年たつた今を見ると、大いに成長して幹部として立派に職責を勤めています。私の勘と見込みは間違ひありませんでした。こうして今では数銘柄の株式を大事に所有していますが、株は上がつても下がつても余り気にせず配当を楽しみに持続してきております。しかし面白いもので、その株が上がつたりすると気分よく、精神衛生、上大いに役立っています。鈴木さんからは息子

健康の秘訣

が親友の間柄だということで大変お世話になりました。分けても鈴木さんとの会話には、处世術とか、人生訓とか言つた教訓的な知識が含まれていました。

たとえば肛門は五臓六腑に通じるといって健康的実践訓を習得したり、人の行く裏に道あり花の山とか、木の葉が沈んで小石が流れるとかいつた相場道を以て渡世術を端的に論してくれたり、含蓄のある人柄は大いに魅力があり、泰然自若な人柄でした。昔風な人で味わい深いものがありました。というのも、例えて言えば私は小さい時から小児ぜんそくで苦しんできましたが、社会に出てからは鈴木さんの云われた健康法を自ら実践してとうとう治してしまって、健康な体のもとを築くことができたのです。今でも寒風のもとでも全身に水をかけて皮膚を鍛えてきて以来風邪を引いたことがあります。雪の積もった庭に出て、息子と娘を両脇せん。

に抱えパンツひとつで写っている写真があり
ますが、これは圧巻であり傑作の一つとして今
も威光を放っています。子供ににらみがきくだ
けでなく、自分自身に対する質実剛健、切磋琢
磨、努力研鑽、そして鍛錬修行といった言葉と
なって迫ってきます。どえらい写真を撮つてし
まつたものと思いますが、この写真を見ている
と、だらしない恰好はとれずに緊張して、いつ
も岩に向きあつているような感慨を以て自分
自身を奮起させてくれるのです。父親はこうで
なくてはなりません。今では年寄りの冷や水で
はありませんが無理を避けて、そう云われなく
ても済むように自分にかなつた訓練をして、健
康維持に心がけています。適切な知識を得ても、
それを実際に試してみて実行しない限り机上
の言葉に終わってしまいます。學習と実践こそ、
実学のもといではないでしょうか。そこで十一
月十六日に解散となりましたが、自民党の天下
取りが確実視されてきて、経済を先取りした株

式がそれ以来値上がりしてきてすでに六〇〇
円近く連騰しています。鈴木さんがここにいた
ら千載一遇のチャンスとみて猛烈な発破をか
けて薦進しているかもしれません。相場はよう
やく戻つてきたと売り抜けていくでしようが、
人の行く裏に道あり花の山でしそう。熟達して
年季の入つた鈴木さんの事、生きていれば安倍
さんの首相は確実で猛然と買つて出ているこ
とでしよう。

人生を苦労してきた鈴木さんは、相場の世界
にまだ生きているかもしません。

カフェフレディと精神衛生

話の道をそれてしましましたが、昼食時に幸
いにして時間のある時は、昼食を終えた後に、
これも行きつけのなじみの店ですが、近くの喫
茶レストラン・カフェ・フレディーに寄つて香
り豊かなおいしいコーヒーを飲んできます。ブ
ティックで女性専門の用品の展示販売のお店

といつていいでしょうか。きれいで清潔で静かなのが店の特徴です。女性専用の店だからといって別に男子禁制の店ではありません。自由に出入りしていいのですが、男性にとつてなかなか入りづらい雰囲気がありますが私は店員と親しんでいて顔見知りなので平氣で出入りを許されています。というよりは入つていくと優しい笑顔で迎えてくれるので、小さな椅子に座つて居眠りしたり、書きものをしたりして、つい晴れ晴れとした気持ちになつて快適な自分の時間を自分なりに楽しんでいます。頭は使いようで、いつも自由を満喫して、次の労働のステップに備えてくるのです。こんな些細な時でも自由はどんなにか人の生き方を活性化して、健康維持に役立つているかがわかつくるものです。感謝しなければなりません。そうです。私の昼食は立ち食いだけではありません。富士屋ホテルの二階のレストラン・ウイステリアでハイカラに済ますときもありますし、ここ

私の住みか

私は世田谷の尾山台に居を構えて四〇年近くになります。最近の街の発展ぶりは目を見違うものがあります。そのせいで、周辺宅地の値段が今年に入つて一割は人気的に上昇しております。これは資産価値が上がって目に見えぬ経済発展の良好な現象です。概ねこの尾山台周辺は樹木が多く環境と品の良さは定評がありますが、一昨年の春、駅近くにスーパー大型店が進出しました。品物がよく値段が安いことでカフェ・フレディーで済ますときもあります。そうして昼食をお付き合いするときもありますので、ご心配なきようお願い致します。況や、都合がよければ、夜のお付き合いも健全に安心して遂行していくことは云うを待ちません。ただし余り遅くなるのは、出来るだけ避けるようにしています。翌日の勤務に差し支えてしまって、そこから抜け出すには並みの努力ではありません。

定評があります。加えてこの周辺には高齢者が、しかも所得の高い高齢者がたくさん住んでいるようです。そして循環バスがこの辺りを中心と広く走っているのが魅力で、時間と金に飽かせて元気な高齢者がここに買い物に来るのであります。時間帯にもよりますが、ほぼ終日満員の客でごった返しています。その分従来あつた商店街は客を奪わられて店を閉めるところも出て競争の厳しさを物語ついて深刻な面がありましたが、押しなべて良好な影響を地元にもたらしています。地元にもとからあつた小売店もスーパーに負けじと改善に努めて、逆に売り上げを伸ばしている店もあります。最近は驚くほど医療施設が多くなつてきています。新規建設の現場もたくさん出てきました。土地に魅力があつてか、この地の不動産業も物件確保に懸命です。地価も堅調で資産価値が上がることは消費者、生活者にとつても喜ばしい結果を生んでいます。こうした風潮や傾向が、つまり全国的に

及んでいけば庶民の間にも活気がみなぎつてきて、デフレ脱却につながっていくはずです。単純な経済の原理です。申し訳ありませんが、日銀の追加的金融緩和だけでは、歯が立ちません。不動産価格が上がりつくるかどうかが、その強力、且つ決定的な判断基準となるでしょう。それには譲渡所得の軽減措置をはかることでしょう。

自由が丘は若者の流行の発信地ですが、その分競争も激しく、それに付れて店舗の変化も激しさを増してきています。尾山台、等々力周辺の良さが發揮されて、個性的環境がプラスに現れる状況になつてきました。住人としてはこうした傾向が広く各地におよんでいくほしいと思います。デフレ脱却は日銀がいくら金融緩和に走つても効果が上がりません。こんなことは17年前にわかつていたことですですが硬直した観念が災いして国民はその後も苦渋を強いられてきています。なんと愚かなことでしよう

か。土地の価格が上がらない限り、本当のデフレ脱却と景気回復は望めません。その頃の昔、

だらだらと行くしかないのでしょうか。

政治評論家の早坂さんを呼んで話をしてもらつたことがありました。決して大言壯語するわけではありませんが、わが尾山台駅周辺の爆発的活気が日本全国に及べば、世界経済をけん引するだけの日本の景気回復は夢ではありません。今日本人はモノ余りの状況で、しかも先行き不透明なので金を使おうとはしません。企業も設備投資を行おうとはしません。こんな雰囲気の時に金を潤沢に供給しても昔のように物のない時代でしたら別ですが、物価の上昇目標を勝手に設定しても、値段が上がるはずがありません。日銀の自閉症的金融政策を以てしては、依然として社会不安を助長するのみでしょう。困った人たちです。彼らに我が身を振り返って考えてみれば答えは自ずと判るはずです。老化して硬直した頭かもしれません。だとしたら、この先も

豪気な石原さん

十月二十五日には都知事の石原さんが知事を辞任し、新党を立ち上げると記者会見で発表しました。八十歳にしては実に若い感じですが、おそらく短期決戦を狙つて勝負に出たに違いないく、老いの一徹で氣概充分といったところですが、果たして状況はそうはうまくいくでしょうか、疑問が残ります。自らはこの沈没寸前の日本を傍観していられないと切羽詰まつた心境のようです。発作的とは言いませんが、青天の霹靂かもしれません。都政については十三年間、石原さんはよくやつてきました。ぐうたらな中央政府を叱りながら、地方自治の精神を高めてきた功績は大きなものがあります。初期のころはよかつたのですが、どうも軽薄な着想で始まつた銀行の経営が裏目に出で、行政手腕もそれから下火になつていつたようです。良く

も悪くも太陽の季節、巨大な都の組織の職員をよく切り盛りしてきました。私の体験では、都の官僚組織も徒者ではありません。役人の旧泰然の牙城を崩すには相当のエネルギーを要します。私が都知事だとしたら、権限を以てもつと手厳しく都の行政を改革したことでしょう。石原さんは一面、人の良さがあつて、叱り飛ばした後、照れ隠しに「ここ恥じらうこと」があります。これは心理的にも石原さんの弱さであり、一貫していないところがあります。声のでかい人は気が小さいといわれますが、それとよく似ています。脇き目を振ることが多くそれだけ都政に省く時間も削がれ、それを補佐してきたのが実質、猪瀬さんでした。石原さんはもつと都政に専念すべき点もありました。役人意識が高く、都民に対する都の職員のサービス精神の向上のための涵養に手を抜いてきたかもしません。しかしさすがに役者だけあって発言は時局をとらえて、はつきりして聞くものの心をと

らえて十分などころがありました。飛びすぎて右傾がかつたところは唯一欠点ですが、過激な言動がその印象を強めて損をしています。ですから分かった人には、派手な振る舞いに比べて大したことをしてこなかつたという人もいるのです。所詮太陽の季節だけということなのでしょうか。

石原さんは今のところやることがなくなつてしまつたので、急速、方向転換をしたのかかもしれません。日本維新の会の波に乗つてあわよくば党首になつて、さらに突き進んで時代の寵児を目指し天下を取ることが最後の御奉公というつもりかもしれませんが、うかつに乗つて梯子を外されなければいいと思つています。世の中の流れを変えるには相当の意気込みと、エネルギーと時局の判断が必要であります。都知事にあつてこそ、その発言も重みを増すのですが、一介の浪人に成り下がつた場合、発言力はがた落ちとなるでしょう。老骨に鞭のたとえ

の通り、立ち上がりニッポンの党首になるかも
しれませんが、そこから小異を捨てて大同につ
けと言われてみても多くの人は信用するでし
ょうか。老いの一徹としか聞こえてこないよう
な気がします。日本の維新の会の風に乗ってい
こうとしても、こちらのほうも俄か仕事で固ま
らず、ふにやふにやの状態でまだ政党としての
組織も機能もまったく準備ができておりませ
ん。政府は自己矛盾をきたした野田さんが、す
でに脳梗塞を患つていて、何時心臓発作を起こ
すかわかりません。民主党も分裂状態に近い様
相です。こんな時慌てて都知事を辞任した石原
さんが、都政を投げ出した張本人と揶揄される
ことのないよう、慎重な言動が必要で、ゆめゆ
め晩節を汚すことのないように願いたいもの
です。

猪瀬さん

私は猪瀬副知事とは昔、都の行政姿勢に具体

的に改革を迫つて会つたことがありました。都
の役人組織の芽城は固く、副知事とはいえこれ
を打ち破ることができませんでした。指摘した
ところは私の正義にかなつたものであり、五〇
〇億以上の都の予算の不必要性を的確に述べ
たものでしたが、これを強いていこうとすると
関係者に多大な影響を及ぼすことを案じて私
の判断で引き止めました。猪瀬氏は明晰な頭脳
の持ち主で信頼があります。選挙まで僅かな間
ですが、彼がその意を継いで賢明な判断をして、
これから都政に邁進していくでしよう。しかし
都の巨大組織を牛耳るまでは並大抵のこと
ではできるものではありません。猪瀬さんに
とつて強力なブレーンを周りに置いておかな
いと、できるこではありません。猪瀬さんが
正義だとして、局長クラスを皆自分の配下に收
め号令一発従わせるくらいの権力を持たない
限り、思うことの改革は大してできずに終わつ
てしまいます。組織の抵抗は、それほどすさま

じいものなのです。石原さんはそうした用意をしてきたでしようか。彼は意地悪な性格もあって、評価の高い猪瀬さんを押してはいますが、自分を超すほどの力量才覚の發揮されることは内心は望んでいません。猪瀬さん一人の活躍だけでは、都の役人組織に向かつて放つ一発はイタチの最後つ屁にも等しく、象に向かつた蟻の一刺しでしょう。それほど組織の牙城は強大です。意志堅固の改革派です。今までも可也のスピード感が会つて仕事を処理してきていますが、腹心、子分を上手く抱きこんでいるかが問題でしょう。派手な行動派で演出する石原さんと違つて実務型です。官僚を使うに当たつて、信頼感は厚いのですが、石原都政の残務整理が山ほどあるので疲れないことです。

都の官僚組織も、中央の官僚組織も国民から見れば同じことで、改革刷新の必要性は同等とみなければなりません。中央から地方へ、単に権限の委譲を促すだけの運動ではありません。

小さな政府と行政で、効率を量り国民のコスト負担を軽減する仕組みを考えるべきです。利権と規制に胡坐をかいて、権力の温存を図ろうとする役人の発想は中央も地方も同じことです。そうした動きを阻止し改革することで、民間の活動を最大限に引き出していくことが本来の目標であり、使命でなければなりません。そもそも今の政治家が中央、地方を問わずだらしないから、こうした動きにもなるのです。私は大阪市長の橋下なにがしについては一切言及していません。あの人物を知らないからです。幕藩体制の旧態然とした中央の、霞が関の官僚組織をぶち壊さない限り日本の将来は希望が持てないというところは一致していますが、誰しもがそのことについてはわかっているのです。事実はその通りでしょう。それを警鐘乱打して時代の寵児とも感じますが、大胆な発想は誰しも考えることですが、評論家ならまだしも、要は政治家としての決断と実行がものを言い

ます。

同時に數を以て武器としなければならずとは云え、佐渡へ佐渡へと草木もなびくではあります。が、一つの流行り主義、事大主義で、我も我もとすり寄つていく姿を見て、雑魚ばかり集まつて人材不足は目に見えています。今日本人の自尊心の欠如と節制のなさを嘆くのです。関心がないわけではありませんが、日本の中央政治のだらしなさが、こうした動きを許すことになつてゐるのかかもしれません。日本維新の会とはいつても大言壯語に終わつてほしくはありません。そもそも現代に勝海舟の船中人策などと、あまりにも古めかしく、ビジョンはそうでしょうが、組織の巨大化して複雑化した現代社会に果たして適応されるのでしょか。その具体的提示が、可能な提示が必要です。そうでないと次第にかすんでいつてしまふ感じです。橋下さんのやんちや坊主に大の男がくつついしていくパロディーそのままの演出

に、かつては劇場政治がひところ揶揄された時がありました。小泉チルドレンのあのはしゃぎ切つた婆さん連中や、若いあんちゃんのその後を見ているとうんざりするのです。そうした政治の、その手法を見ていてオーソドックスでないところが気になります。次第に浮薄で、さりとて寝技に長けてくると飽きが来て、ひとりのフィーバー振りが収まつてきたようですが、こうした日本の動きこそ危険極まりないものと私の勘ですが、感じております。

なんだか解らない維新の会

ラブコールを送る同志で基本政策が一致しないところがあるのも不安があります。石原さんは些細なことと発言しましたが、連合を組もうとする政治集団の間で、現在重要な政策に隔たりのあるのを見過することはできません。たとえば消費税の問題、脱原発の問題、憲法改正の問題など今の政局を揺るがしている最大

の懸案事項であります。肝心な、消費税引き上げ反対と、脱原発を掲げる日本維新の会と、みんなの党は、両者ともほぼ接近しています。しかし、立ち上がりにつばんと石原さんが合流して、その延長線上で、正反対の政策を掲げる橋下、渡辺らと大連合を作ると思卷いていますが、果たしてうまくいくのでしょうか。小異を捨てて大同につくと、そんな一時の妥協の上に盤石の連合ができるでしょうか。もしそうだとすれば国民の目をこまかすにもほどがあり、結果は茶番劇に終わることでしよう。所詮、烏合の衆で、何の成果もなくほころびてくるでしよう。揺さぶられながらも時間を経てたどり着いた期待の二大政党でしたが、民主党のだらしなさ

で見事に裏切られました。願わくば二大政党の政体を以て、政権の移行が民主的にスムーズに行われることが理想ですが、せつかくのチャンスを皆殺しにぶち壊した民主党の旦那さんたちは、煮ても焼いても食えないしろものばかりで、国民の期待をまつたくつぶしてしまったことになります。全員が落第、ということになります。そこで政界に第三極の台頭が熱い視線を浴びてきました。民主党はダメだし、自民党にも苦労してきたといつても期待が持てないし、他にも小沢が率いる生活の党があります。あと5名が離党すれば政権与党の民主党は衆議院で過半数を割ってしまいます。不信任案の通過は可視射程となりました。野田さんのやつれた表情は次第に憔悴した態で、内憂外患のこの時期、綱渡りの政局運営が続いています。困った日本の指針なき現実であります。

指導者の交代

十一月に入るとアメリカ大統領選挙が全米で投票が始まります。又中国の全人代の会議が開からて、胡錦濤の後継者の指名が行われます。米・中の二つの超大国の指導者が新しく生まれて、文字通り世界を二分して静かな、熾烈な経

済戦略が繰り広げられていくでしよう。ヨーロッパで起きた金融危機は根本的な解決を見ないまますゞり続けていますが、これに中国の国内での経済減速が大きく響いて、内外に不穏な空気が漂っています。中国の資源領域の拡張政策は今後も続いて行くでしょう。国家間の緊張の高まりが生じないようにしなければなりません。唯一アメリカ経済がいろいろの統計からして将来に希望の持てるような兆しがあります。中国経済の減速が大きなブレーキをかけるようだと、世界経済の回復に水を差される結果にもなります。米国ではオバマの再選が有望でしょうし、中国では習近平の選出が確実されています。特徴的で興味のあるのは米・中の新しい指導者を決める手法であります。もちろん民主主義政治の行われているアメリカの指導者の選出方法は、国民によつて選挙を通じ国民の意思が決定されるわけですが、中国は共産党一党独裁政治であつて、中央政治局員

によつて、勢力争いによつて指導者が決まるといつても過言ではありません。中央の七人の常務委員が政策決定に携わり十三億四千万の人々を支配していく仕組みです。急激な勢いで経済大国にのし上がつた実績は驚異的ですが、どうしても軍人や官吏の汚職が絶えず、加えて貧富の格差が広く深く拡大していることは致しません。この矛盾をいかに解消していくかがこれからの中の發展を占う試金石となるでしょう。一方アメリカも経済力を持つ中間層が大きな分布から縮小して、低所得層の拡大と失業の問題をいかに解消していくかが課題となっています。いずれも国内に所得格差をはらんで、階層の軋轢が表面化していくことは大きな国内問題であります。政策論争も専らそうした問題に集中して鮮明なことが特徴です。

爽やかな秋空が続いて、私はいつものように銀座4丁目で地下鉄の日比谷線を降りました。そして銀座松屋通りに面して王子製紙本社の前にある、谷口さんのその後のことが気になつて、お店の跡を見てきました。銀座プロントを営業していたころは、昭和経済会の会合に良く使わせていただきましたし、私の朝の出勤の時は、少々の時間があれば寄つてみて渋いコーヒーを飲んで出勤したものです。頭が冴えて、その後の仕事がはかどつて、気分爽快な一日を過ごせてきました。店を閉めてから一年余が経ちますが、その前は、映画「ティファニーで朝食を」ではあります、しゃれた感覚で銀座の朝をゆっくりと味わいながら来たものでした。懐かしい思いで、今朝その場所に寄つてみてきましたが、ビル建の現場は見事に進行中で、地下室の基礎部分が出来上がつていました。私は喜びを共有すると同時に安心しました。谷口さんはビル建さんを決心されて、誠にめでたい限り

と思ったのです。銀座松屋通りは、この一部分がとても洒落た雰囲気で、居並ぶ店舗が小奇麗で明るく、センスあふれる様子に随分と変わつてきているように感じました。竣工した暁には、もしかすると一部に感じの良い喫茶店が又できるかもしれません。谷口社長は以前、それが楽しみでプロントを開店させたのですから。おかげで私はその間一番いい思いをさせてもらつたのではないか。先代は、昭和経済会の創立者の一人としてその名を留め、伝統と歴史と品格の会にふさわしく、更には現・谷口社長は昭和経済会の最も親しく支持をいただいている会員であり理事であり、以て人格者と心酔しているゆえんです。今日は奇しくも京橋大開発プロジェクトにちなんで論陣を張つて締めくくりとしようと思いながら、出勤の途中ふと思いついて銀座プロントの元あつた松屋通りの場所を訊ねてみました。澄み切った秋空の光を体に浴びながら、そのとき谷口コーヒーポレ

ーションのビルの現場を見て感無量、わがことのように希望と期待に胸をわかせ、若やいで出勤する朝を体験してきました。十月二六日

+++++

内外の経済政治情勢と、

新年度の経済展望

上記の演題で年末の講演親睦会を一二月四日に八重洲富士屋ホテルで行うことにしました。NHK解説委員の山田伸一さんを招いての有益な講演会です。今また、激変する世界経済情勢です。EUの金融危機を初め、各国とも経済の減速が懸念されています。

アメリカの景気回復の指標も一進一退を繰り返していますが、足取りの強さに期待します

よう。EUはじめ中国の減速が世界に与えることは避けられませんが、それを補つて新興国の発展に期待し、企業は新技術の開発に新しい市

場の拡大を求めて果敢に挑戦しなければなりません。新しい産業の掘り起こしと、新規参入の促進、興隆も期待されます。

日本は政治の混迷が続いて、これは慢性化されていて仕方がありませんが、経済世界に負っているわけにはいきません。デフレ脱却に全力傾注は相変わらずのうたい文句で行きますが、しかし金融政策だけでは片手落ちです。デフレ脱却を示す強力なものは、土地価格の底打ちと上昇が、大きなインパクトとなるはずです。土地の有効活用と土地取引の活発化、そのための税制上の改革と規制緩和で、持続可能な明日の日本が、この大胆な発想の転換が基本的に重要です。このはつきりした革新と決断が、われわれの命運にかかるています。

平成二年に始まつた総量規制以来、その大胆な軌道修正が出来ないので、いまだに後遺症に苦吟しています。企業家は、消費者はその亡靈に付きまとわれて、びくついて動きが鈍くなつ

ているのです。資産価値の低迷と下落は、土地だけではありません。周り巡つて株式市場の低迷に続いているのです。消費の低迷と減退を食い止め、企業の設備投資が促されるような世の中にしなければなりません。経済成長を維持、促進し合わせて財政再建に手を付けていくことが必要です。長引くデフレ不況の中で懸命に模索し活動する企業家の姿を、船中八策で天下をとつたような妄想にかられないで、地に着いた庶民のための、若者のための明るい政治をしてもらいたいものです。

又アメリカのオバマ大統領の再選も決まり、中国の胡錦濤の後に習近平国家主席も決まりました。世界の二大国の指導者も決まり、いよいよ新しい国際政治の展開が期待されますが、おりしも日本も十一月十六日に国会が解散し、一二月十六日に総選挙が実施されます。こうした時期に山田先生を招いて広く含蓄ある有益な話を聞いていただきます。

日本の良識と英知を代表するNHK解説委員の、山田伸一氏に新鮮なお話を聞いていただきます。

+++++

昭経俳壇の選者

遠藤廣穂先生のご逝去

私が高等学院時代からその教鞭に浴し、畏敬してやまぬ遠藤嘉徳先生が去る二十四日午後四時十一分、逝去されました。享年九四才であります。突然の訃報に接し私は傷心の念やるかたなく、ただひたすら黙想して、つつがなき黄泉の旅路のを祈るばかりであります。

先生は遠い昔、奥さんが亡くなられた同じ日に、天国に行かれたとのことです。口には出さ

なかつたことながら、やはり長いこと愛おしく思ひ続けてきた奥さんのもとに手を差し伸べていかれたのでしよう。そうに違いありません。先生は母校の早稲田大学が誇る優れた英文学者です。勇ましい、厳しい教師のように見えましたが、控えめで謙虚なところが垣間見られました。がり勉の生徒よりも、不良気味の扱いにくい生徒のほうが先生の気にあつて、気持ちの優しい奴が多いといつも私に言つていました。がり勉で青白い、独りよがりで意地悪な、秀才ぶつた生徒よりも、不良気味で扱いにくくい生徒を、正しい方に仕向けていくのが教育だと、そうした信念の一端を見せた証拠かもしれません。真面目な生徒は手を煩わさないから、目を向けないでも済むといったことも言つていました。放つて置いても悪いことはしないから安心なのだとも言つっていました。しかしその結果、先生の帰結は、点数至上主義、成績至上主義よりも人間教育こそ基本でなければならぬと

いう信念だつたのでしよう。今でいえば登校を拒否、街にたむろする不良少年、乱暴を働く少年、引きこもりの少年などが、そうした対象かもしれません。常に社会問題を起こして良き秩序、慣習を乱してよしとする、今でいえば暴力破壊グループを指すかもしれません。今の教師は、こうした問題から目をそらし、逃げていく傾向にあります。先生はそうした面でも眞の教育者であつたということができます。先生の心根の優しさは、「よしのり童うた」にも見られます。先生は優れた童謡作家でもありました。幾多の名作を残し、多くの人たちに歌いつがれてきています。先生の手づくりの小さな冊子を昔貰いました。三冊作られたうちの一冊ですが、私はこれを大切に持つております。

先生は少年のころから俳句に絶大な興味を注がれ、ひたすらその道で努力研鑽を積ませてきました。雅号の蘆穂は斯界で名声を博しており、古くから「木太刀」の総帥同様の務めを果

たして活躍され、各句会の指導にも赴いて尽力されていました。私は、先生の俳句歴が斯くも古く、情熱一途であったことは在学中はもとより、つい最近になって知ったように思います。そう言えば築くことがありました。昭和経済の中にある昭経俳壇についてのことです。昭経俳壇の俳句について大きな関心を示されていることを知つてからです。

一方で平成八年に刊行された「蘆穂俳論集成」は俳句研究の真髓を理論的に究明、著述したもので、多くの俳句愛好者を初め、研究者の指導書となつてているものであり、誉れ高き名著であります。

ご自身が主宰される句会「南天の実」は創刊以来五十刊余を数え、その中には先生の名句がきら星のごとく收められています。蘆穂先生は平成十七年三月（題六巻三号）から、体調を崩されたまえの選者、清水溪子先生から昭経俳壇の選者を引き継いでくださり、爾来、今日

まで熱き良き、指導を得てまいりました。前号は、先生の回復を願つて臨時発刊となりましたが、投稿者の俳句について病床から不自由な体を押して校正、ご指導をされました。今その朱色の文字が先生の絶筆となつてしましました。

昭和十四年十一月二十日に発刊された南天の実第三十一集が書棚にあつて目についたので、取り出してめくつてみました。此の良夜と題した中に、肩に手を置いて去りゆく秋の風と詠んだ一句が目につきました。自然の季節の描写に作者の洗練されたところねを示して余りあります。先生の人柄がいかにもにじみ出た一句です。他に、用済みて畦に不貞寝の捨案山子　浅間晴秋七草の裾野かな　などがあります。私の好きな先生の一句なのでここに載せてみました。

私はかつて、五十六巻九号の巻頭言で新しく選者となられた遠藤先生についてご紹介しま

した。読み返してみると、実に詳しく心を込め

て書いた文だと我ながら感心して読み返して

みました。あの時先生は、「これは私の弔辭に

読んでくれ」と冗談に申されました。先生

の人となりを語りつくしていると私も思いました。

した。いずれ機会を見て掲載し、かつて先生が

申されたように、先生へのお別れの言葉とさせ

ていただきたいと思っています。

今日、ご子息の遠藤英徳さんから一枚のファ

ックスが届きました。二人のお孫さんの成長を

楽しみにして生きてこられましたが、一二月の

結婚式を待たずに天国に行かれた父を悲しん

でいました。先生がその結婚式に寄せて詠んだ

句が遺作となつたと伝えてくれました。俳

句に喜びを得て、生きがいを感じて生涯を全う

された先生らしい生き方に感動を覚えずには

いられません。

合掌。

結婚を喜び祝う俳句

高砂や爺婆師走の孫を待ち

夢を見る雪の浅間根小鳥二羽

蘆穂

*

追悼句

孫残し旅立つ蘆穂師浅間雪

浅間嶺の雪豊かなり蘆穂師逝く

信州の雪降る里の人形館

亡き妻を追ふ命日の蘆穂師かな

最後となつた遠藤蘆穂先生の お孫さんの

信州はリンゴの花の夢路とも

追悼歌

蜂吐いて緋牡丹くずれ蘆穂師逝く

人生は師も不可解と華厳滻

せがれ嫁孫の二人や踊りの輪

高砂や爺はそばにて小菊かな

南天の実を持ちて行く小鳥二羽

孫娘二人に別れ今日の月

孫一人爺は見てるぞ天の川

あづく日を待たず爺は逝く菊人形

孫娘余は天国で見る月夜

先生の一句に人生は不可解とされば凡人の致し方なし

先生の訃報を聞きぬ子息よりまさかやは
と覺へ口惜し
螢雪の日より逝くまで師に習ひ送りしわ
は幸いなるや
生涯を己ながらに道を行き意を全うし蘆穂
師逝きしも

滌壺は水をまとめて送り出し蘆穂先生のい
さぎよきかな

人生は不可解と詠む一句にて華厳の滻を季
語に入れけり

コーヒーのカップに触れて秋の日の日差し
に揺れし師の白き顔

穴八幡神社の坂を学び舎に続く螢雪の功の
道かな

過ぎ去りしことあざやじかに浮かびきぬ遠

藤先生の影をしのべば

五平次の櫂を漕ぐ船に乗るに大學教授とと
もに遊ぶに

五平次の漕ぐ船に乗り沖合に酒枝、平田、大
内とわれ

桐の葉の色づきてまふ中庭に夕べかたむく
月の西の端

柿の葉の色づき染めて散りはてむ空を突き
さす霜枯れの枝

沖合に出で糸をたれ幾ばくの時に釣り上ぐ
金目鰯かな

先生の逝かれし後の選者にて述べる間のな
き年の暮かな

モンシェリの喫茶店にて藤田師とともに入
りしは螢雪の功

ひたすらに続けて今に来し方を振り返り見

ハイデッカー哲学を説く藤田師のわが高等
学院の三年の時

その時のわが論文を読みて問ふなほ実存の
不可解なりと

ぬ昭経俳壇

われもまた俳句を詠みて幾星霜ちりも積もりて山となしも

先生の俳句の粹に迫りきて色艶くは綾にうつれり

意外にも和歌や俳句を詠むひとの辺りにくてあやしかりけり

実存の哲学を説く樺山師タベに遅く意味にせまりて

青春の学び舎の日の意義深く悔いることなき今に至るや

先生のことを偲べばさまざまに他の教師とともに浮び来

貧乏のつらさを知りて少年の日々を思へば働きゆかん

どぜう蟹たにしを探りてこれを食む夕餉の家の道なつかしき

銀色に光るすすきの穂にふれて学び舎のみち通ふタベの

学院と遠藤先生とのつながりの強きほどなしに我は在りしも

道野辺の黄菊を摘みて持ち帰り母が茹では美味き味なり

あの頃と今を比べて今生の機械的にて味気なきかな

さまざまに深く付き合ふ先生とその面影の

熱く迫りく

を一時延ばして師の句を読めり

あの時にさらに習ひて先生にわが昔日の思
ひ止まさる

先生にお世話になりしこと多くすがしく子
弟の間あひ良きかな

ひとり又ひとりと此の世を去るひとの近ご
ろ聞くはさびしかりけり

この夏の暑さの師にもこたへけむ脳梗塞の
かるく襲ふは

さがみ野と信州の間を往き来てふるさと
を追ふ少年の師よ

先生のみたまは遠きふるさとの上田の里に
妻とおるかも

リハビリに励む先生の
報せえて百瀬の年の師をよろこぶに

知らぬ間に山茶花の花咲き初めてさびしき
庭に明かりともしぬ

先生の根気に寄せて回
復を願ひて朝に夕に祈りけり

先生の病を知りて添削

仕事師の隣りの庭に朝早く鉄の音を鳴らし
おるなり

先生のただひとりゆくその道をすべてみた
して天つ国へと

これからの落ち葉を避けて大櫻枝をはらひ
て空の青きに

植木屋の庭にあはせてさすがなり処々に名
木植えてそろへし

裏窓に月のひかりの射し入りて寄す波青く

部屋に浸かりぬ

ふるさとの囲炉裏をかこみ朗らかに佐藤春

夫と語りけるらし

いつも師はおもてに立つをはばかりて影の
力となりて到るを

愛妻をなくして確か四十瀬ごろ身の寂寞に
耐へ過ぎてきぬ

先生の夫人にかつてまみえしは武藏小山に
住みし頃かと

清らかに人形館を建てし地にリンゴの花の
今にかほるは

読本にジエームス・ウォルコットの小説を四

人姉妹に惚れこがれけり

先生の学習につき人の世のことも学びて今
にありしも

学び舎の時より師事す先生に遠藤、大内、平
田、植田氏

植田氏の創刊の淵を引きつぎて会津八一の
うたを広めん

かすがののこよいのつきのほがらかにさざ
なむてらの やねをてらせり

みちのべにたつみほとけに菊の花そなへて
ゆきし旅をゆく人

あなたのし踊る人形の輪にいりて「よしのり
童」の歌を唄ふは
先生が童の唄を歌ふとき汝が妻もまた唄ひ
おどれり

班鳩の里をとめゆく道すがら心にうかぶ遠
藤師のこと

人形のやかたを建てしるさとのアルプス
の雪けふも仰ぎつ

さよなかに棚の人形が踊りだす月に鐘うつ
ときにはせて

汝がつまの黄泉に発つ日に夕立の激しくふ
りて離れがたきに

汝が妹の先に旅立つ悲しみに耐へて幾とせ
すぎて覺へり

し行くなり

雪解けのせせらぎの水くみあげて夕餉にそ
なふるさとの家

学び舎の荒れたる廊下の板を踏む音のリズ
ムに先生と思ふ

先生の教えたつとき眞実のいついぢこにも
生かし学べり

学院長の竹野長次師と語らひて時岡先生も
そばにおりしに

学院の小誌に実存哲学を記す我が意のいま
だわからず

文学論著はす竹野院長の高邁の志に教え高
きも

教育者なり先生の生涯を悔ひなく俳句に詠
みしその日々

院長より卒業証書を授かりて右総代にて学
窓を出づ

学び舎の時ゆ習ひて師の道の南天の実をつ
いばみて來し

右総代卒業式の証書受け贅れをのちに生か
しからむ

竹野師の古文研究の大家にて高邁の志に風
格ありし

幾そたび訪ねて見んと思いしか無沙汰をわ

るわれなり
修学の旅に佐渡島の尖閣湾見る浅見氏と写

びて過ぐる幾歳

汝が妻の影をしたひて幾とせの逝く日にあ
はせ師は逢ひたまふ

海女二人樽舟をこぐ荒磯のしばしばもぐり
波に浮かび来

人としていかにあらむを師は伝へそれを活
かしてわれはあゆめり

新潟のみなどを出でて佐渡おけさ踊るさな
かに搖るる船かな

わがうたを浅見先生が万葉の調べありしと
ほめたまひけり

修学の旅につきそふ先生の日頃の癒しと思
い出の記に

浅見氏の文芸論に心醉しペンを走らせ書き
おきにけり

大佐渡の山並み青く朝の日の輝く間にそ舟
にわたり来

たどたどし言の葉を追ひ浅見師の教えへを
しるす學習の日よ

修学の旅に遠藤先生と佐渡尖閣湾に立ちて
臨めり

尖閣の江に荒波の吹き寄せていわほに高き

しぶき吹きあぐ

荒波の入り江に寄せてしばしのち潮吹きあげて海にかへりぬ

樽船をこく海女ふたり波に消へあへなくし
ばしただよひにけり

磯浜に踊るおとめの輪になりて相川音頭の
しらべ悲しき

あなかしこ朱鷺のつがいの松の枝に止まり
てたてば麗しきかな

豪快におどる品よきをのこらの相川音頭の
しらべ哀しき
教室のこはれし窓にひかりさし英語の授業
の夕べ映えしも

高木より達者をうかがふ電話にて朋友なり
て熱き思ひす

思ひ出をたぐる遠藤先生の面影しのび過ぐ
る秋の夜

先生のサイラス・マナーの小説を朗々と聴く
英語講読

板の間に踊るおけさの踊り子の足ふみなら
し声あはせけり

あこがれのハワイ航路の唄を聞き佐渡連絡
船に乗りていく良し

学び舎の学習院の森近く窓べに水の音ききて
学べり

学習院女子学生が手を振りてほほえみかけ
る学び舎の窓

に立てる先生

洞爺湖の沖の小島にたどりつき昭和新山の
けむり立つ見ゆ

学窓の思ひ出おほく修学に北海道の地の果
ての旅

火の山に立つ黒煙の空を突き洞爺の湖の面
に映えしも

北海の色の青さに荒波の自然のあやの妙に
ひかれり

地の底ゆ湧く火の帶の下りきて樹木を倒し
湖にそそげり

上野発夜行列車の青森に直き連絡船に乗り
ていく旅

新しく火の山の先燃え尽きて黒き岩場とな
りて伸び行く

思ひよす乙女にたよりつづらむと船のデッ
キに立てる夜の月

星空の瞬く北のさいはてに北斗の星のでか
く浮かべり

月に飛ぶかもめは船に乗りつぎてこの海峡
を越えてくるらし

北海をわたる船にて夜を過ごす月のデッキ
に到るも

小夜ふけて荒波高き波の音に早や海峡の央

先生の戦地のことは一言もなき不思議さと謎のひとつに

北海道旅路に未知の国を行くこちに揺れし初の身のうち

修学の旅に佐渡島と北海道ともに行く師の思ひ出ふかき

学び舎をいでし時よりわれのこと師は思ひてか導き給ふ

我が夫婦結婚披露によろこびて帝国ホテルに来らる先生

師の妻をおくりし時のお淨めに友ら酒飲み騒ぎける夜

相模原駅の近くの居酒屋に友ら酒飲み深夜

帰宅す

先生の戦地のことは一言もなき不思議さと謎のひとつに

終戦の混乱の世に教育の職につきしは故のあるべし

先生の文に心の奥に秘む熱き思いの伝わりてきぬ

わらべうた歌ふわらべに声あはせ歌ふわが師の心すみたり

行く年を過ごす鄙路に咲く花の童の口もとなればいとほし

先生の教えを守り今にあり質実剛健の搖るぎなき意思

戦ひに出征軍人と出陣に支那に過ごせる時

もあるらし

われもまた戦火を潜り身を守り生きしは全
て神のみ手にて

戦争に口を閉ざして黙すのみ苦痛の時もあ
りて然るも

ある時は軍服布の切れ端を継ぎて背広を着
る師もありぬ

凄惨を極む戦場に立つ人の夕日に向かひ何
を語らむ

迫りくる戦車にあわや轢かる身を友は引き
ずり下ろす穴へと

砲弾の近くに落ちて戦友の瞬時に姿無きに
悲しむ

暫壕へ飛び込むわれがあとに来る重量戦車
のわれを轢きゆく

戦友の深傷を負ひて倒る身を抱き起してや
担ぎ行くなり

頭の上を敵の戦車が轟音を立て走り行く暫
壕の我が身の

戦争の非情を伝へ黙するを以て世の民に知
らす先生

焼夷弾爆撃のなか逃げまくるあちこちの道
えり分けて行く

焼け跡に立ちて眺むるわれが身に疑ふべく

版を重ねり

もあらず朝の陽

援軍を待てば来たれり満身に傷を負ひたる

孫の雛二人のこして世を去りし師の寂しさ
の如何にありしや

ここだ兵士よ

先生の授業にリトル・ウーメンズ今読み返し
偲ぶよすがに

信濃路のふるさとを行く師を迎へ山並み青
く光る秋の日

文学のかほりにふれてほのぼのと燈火親し
はなれとながつま

む秋となりけり

ふるさとの童の唄を歌ふ師の声きこえくる
はるか山なみ

先生の俳句にいたく心醉し南天の実をひら
き読むなり

学院の良き伝統を築く師のこれから世に
生かし行くべし

師を思ふわが和歌によす我がなさけ俳句の
道につきて深きも

俳句でふ短きうたに身を投じ長寿をとげて

発刊すその都度句集を送り給う南天の実の
逝きしわが師よ

+++++

衆議院解散　野田さんが突如表明

今日三時から始まつた野田首相と安倍自民党総裁との党首討論で、野田首相は安倍自民党総裁に対して特例公債の発行の条件について三党合意がなされたが、衆議院の一票の格差是正と定数削減について遅くとも次の通常国会までに可決するとの確約が得られれば、衆議院を十六日に解散すると表明しました。突然の意表を突いた野田首相の発言ですが、これで衆議院の解散は確定されたものとみて差し支えありません。野田さんは、よくぞ決心しました。天下取りに臨んで情勢がどんどん不利に展開していくような状況で、私は忸怩たる思いでおりましたが、これで乾坤一擲、大勝負に出た野

田さんに喝さいを送りたいと思います。党内でも逆風が強く、形勢不利と見た野田さんの決断で明後日、あさって解散となつたのでしよう。爺さん連中がしきりに年内解散反対を唱え、あらさまに首相交代を口にする始末で、政府与党の体を成しておりません。自民党の安倍さんも、タイミングをとらえてよくぞ野田さんを追い込んで衆議院の解散発言を引き出しました。解散の日を十六日とするという野田さんの発言に意表を突かれて安倍さんも頓珍漢な答弁をして、鬼気迫る様相の首相から答弁になつておりませんと言われたりしましたが、党首討論は両者とも堂々たる立場の表現に終始して、勝敗のつけがたい名役者を演じて歴史に残るものとして圧巻でした。党首討論に立つた安倍さんの体調は、確実に自信に満ちたようで安心しました。

頭の毛はびつしりと詰まつていて黒々として若々しい感じで結構であります。ただ心配な

のは国家主義的な、國粹主義的な言動を吐くのが珠に傷で聊か気になるところです。情報通信が格段の進歩を遂げ、これだけ世の中が平均化され標準化されていく背景を考えてみれば歴然です。単純かもしませんが今の世の中は、やたらに傾斜するのは好ましくありません。

軋轢、対立を生むだけで右にしろ左にしろ言動を慎重にする必要があります。敢えて中道の穩健な思考、思想が理にかなつてどちらにも就くことが出来て、弥次郎兵衛の身の軽さ、彈力さが何とも言えない味わいがあります。例えば靖国参拝の件になると国論も二分され、近隣諸国にも反対運動が起きて、いろいろな場所に波及していきます。尖閣諸島のことでも、すでに日・中の間に緊迫した状況を作つて両国の貿易はストップ状態で莫大な損失を生じてきております。領海水域には常態的に中国の監視艇が数隻航行して、日本の監視艇と睨みあつたまま並航しています。仮にホースで水を掛け合つ

ている程度ならいいのですが、どんなことがきっかけでドンパチ始まらないとも限りません。まづいらごめんであります。艦艇に乗つて監視している両方の諸君には申し訳ないが、まかり間違つても弾を打ちあうことのないよう隠忍自重してもらいたいと思います。

仕事をしていたら丁度事務局の中村君が、テレビが始まっていますよと知らせてくれました。三時三十五分から始まる一二チャンネルのテレビ東京の経済番組は、都合がつけば必ず見ることにしています。四時近く終盤に近かずいたころ、明子がただ今ニュースが入つてきましたといつて、野田首相の衆議院解散表明のニュースを伝えてくれました。そうかと驚きながら、びっくりニュースと同時に、家内が風邪気味の明子を心配していましたが、テレビの明子はメリハリがあつて、元気に明るく務めを果たしていることに私は安堵したのであります。

ところで野田さんは一生懸命、内外の局面に

対応しているのに、どういうわけか正当な評価をされないで、日を追つて人気が低落していくのは七不思議のひとつでありました。山積する課題を丁寧に解決していっているのですが、ねじれ国会が災いしているのでしょうか、国会運営がままならず、党内の力学的構造から、求心力が発揮されず、加えて慌てて登用した閣僚人事でもずつこけ場面が多く、人気凋落に拍車がかかっていったのでしょう。首相の任命責任を問われている野田さんは気の毒ですが、就任する大臣ががらつぱちで、でくの坊で、阿呆が多すぎます。つまり馬鹿が多いと言うことです。人物本位でなく相変わらずの派閥力学の配分で決めるからでしょう。しかしこれも側近に利発な腹心を欠いた結果であります。自ら天下の宝刀を抜いて解散権行使して、時局打開に決然として立ち上がった野田さんは、ようやく自らの存在感を示してあっぱれでした。

現状の財政再建は急務でしたが、消費税率の

値上げに踏み切ったことが大きな誤算であつたかもしれません。しかし景気回復に勇気を以て法人税の税率引き下げに踏み切れば、これほど世論の不信を買わずに済んだでしよう。必要な政策であるにもかかわらず、国民負担を強いた反応が大きく映つて、単純にバランス感覚を欠いたことになりました。これを補う意味でしようか、一票の格差と定数は正と国會議員の定数削減、歳費二割カットが本国会で結論が出なければ来年の通常国会でまとめるということを約束してくださいと畠み込んで、結果は安倍さんからオッケイをえました。そこでそれまで議員の歳費削減は自らも痛みを負うべきとして二割削減を決めたいとのことで、誠に筋が通つていてわかりやすい話であります。

EUでもそうですが財政再建と並行して経済の成長戦略も取り入れて雇用創出に配慮したものでなければ旧態然の政策を踏襲するだけで、世の中に活気が出てまいりません。消費

税率の値上げだけに終わって、これを補う諸政策を実施しないことがいけなかつたのではないか。これによつて小沢グループの離党を促すことになり、党内融和を図ることに失敗したのが今日の決心を誘発していきました。それに民主党政権になつてから歴代首相はあまりにもひどすぎました。鳩山といい、菅といい、そのつけが野田さんに回ってきたのです。鳩山は普天間基地の問題で物議を交わし、菅は危機管理の欠如で東電の原発爆発事故を誘発していました。周囲の反対を押し切つて現地調査といつて、ヘリコプターで原発事故上空を飛来して、いたがためにベントを開けることが出来ず、爆発が起きてしまつたのです。簡単に例を挙げましたが一人とも思いつきの行動をとつた結果が、その後に置いて大きな問題に発展して國益を損ない、國民に対し大きな損失を与えることになつてしまつました。

国会と政治

政治と国会に移りますが、眞面目で誠実な姿勢と対応は、肩をいからさず、野田さんの信条で好感が持てましたが、現実の政治はそれだけでは國民の支持を得ることは難しいのです。さすがに総理になる人にはそれなりの人格識見、力量才覚の備わつた人がなるもので、中には鼻持ちならない鳩山とか菅などが突然変異みたいて出てきて國民に多大な損害を与えたりますが、今日の野田さんと安倍さんなどは総理、總裁としての風格をそれなりに持つた部類に入る感じです。個人的には信頼に足る政治家として好感が持てるものです。とりわけ野田さんは東京は墨東の下町育ちであり、どじょうを名乗るだけあつて庶民感覚を持つた味わいがあります。学生時代は小生の後輩に当たり、財務大臣なども務めたりした関係上、親近感が先に走つてしまふのでしよう。政治の世界は金と利権の世界であり、政治家は概してろくでもない人間が紛れ込んでいるのが多いのです。顔の良

し悪しは、人の良し悪しで決まるといいますから、民主党内を見回してみても自民党を上回る物凄い、いい加減な顔をした品の悪い連中が有象無像です。自己保身に発して党利党略に翻弄し石原さんはじめ新党立ち上げで乱立氣味ですが、少数政党が大同団結を連呼する有様で政界は魑魅魍魎に走つていくありさまには慨嘆を禁じえません。国民不在の離合集散を繰り返す日本政治の未熟さは如何ともしがたき現象です。利益誘導型のこうした人間を選んだのも、所詮は国民の一人ひとりの責任です。選挙のたびに思い起こすのは人気投票みたいな内容に終始して、芸能イベントな結果になることは誠にいやらしく嫌悪感すら覚えてきますが、国民自身の責任も問われても不思議ではあります。いつも裏切られていますが、諦めず心して大切な一票行使しようではありませんか。

予定される選挙では、毎度のことですが国民の良識と品性も又、問われています。時は内外

ともに重大な局面に向かつていて、政治の空白は許されません。年内解散、年内総選挙、そして新しい気持ちになつて新しい歳を希望をして迎えることになります。もやもやした空気を引きずつて新しい年を迎えるよりは、年内に決めることを決めて新しいスタートに立つて疾走する決心の年とするほうが、健康的であり、精神衛生上も好ましいことになります。薄くなつてきた野田さんの頭髪も、これ以上の進行を食い止めて、この際は早めに養毛剤を刷り込んで蘇生を量れば剥げにならずに、この先も立派な役者として勤めることができるでしょう。まだだふさふさした髪の毛ですが、油断をすると取り返しがつきません。仕事の重圧で、剥げは加速すると素早く看過しがちです。若禿の顔にしては、まだ勿体ない気がします。又過重な職務で生活は不規則であり、偏食もあるでしょう、スリムな安倍さんに比べて少し肥満気味でずんぐりむつくりになつてきましたようで、注意を

促したいところです。田中角栄はもともとウイスキーがぶ飲みのが災いして脳梗塞を誘発し子を早めましたし、大平芳正は太り氣味で高潔発でやはり脳梗塞で倒れました。政治家は馬力に過信して身を誤ることが多いので、心臓破りの丘を突つ走つて憤死するのです。野田さんはもとからずんぐりむつくりだと云う人がいましたが、何となくファットに感じるところが危ないのです。注意にこしたことはありません。

野田さん自身もそうでしょうが、次の選挙で

又復活してくるかどうかは別にして、世界の超二大国の米・中の指導者もオバマの大統領の再選、習近平の国家主席就任と、新たな政権樹立を果たした時でもあり、我が日本も首相交代で新政府と新内閣のもとで新時代の構築に向かつた方がさっぱりしていいような気がします。國民にとっては期待を削がれた民主党政権ですが、この際きれいさっぱり引導を渡し、新規まき直しで足元を固めて行くべきでしょう。そ

うです！、國民のほうも一刻も早くこのもやもやした雰囲気を払しょくして心機一転、内外に進路を明確にして、世界の動きに遅れを取らずに、國民の信を得た、少しでも高邁な政治家に對して新しい政権樹立に邁進してもらいたいと思います。 十一月十四日

国政選挙 政党乱立

議会は先週の十六日解散投票日は一二月十六日と決まりました。疾風解散、神風解散、竜巻解散、と諸説紛々ですが、間髪を入れずあつという間の解散ということで民主、自民による党首討論は國民の納得のいく立派なものでした。そこで短時間の論議で、ともかくお互いが議論しあつての解散に合意したのですから、私は話し合い解散だといっております。しかもテレビを通じて國民の前で堂々の丁々発止の中

で公然と決められたことであり、国民の参加の上でもあります。気迫に迫る野田さんに、受け立つた安倍さんも氣負うことなく冷静沈着で対応でき、二人ともあつぱれでした。こうしたことであれば二大政党が本筋なのですが、現実は狼狽する議員の続出で少数政党の乱立気味で手が付けられません。泡沫議員もいるので、この際きれいさっぱり、切り捨てる必要です。

ところで都知事を止めた石原さんは立ち上がりニッポンの平沼さんたちに参加して党首になつて太陽の党と党名を変更しました。老齢化が進んで立ち上がるることもできない有様ですが、元気な石原さんが刺激を与え、若い橋本さんに盛んにけしかけた結果、太陽の党は今度は維新の会と合併することになり、石原さんは改めて日本維新の会の党首になつて選挙戦に臨むことになりました。一二転三転する有様で、なんだかさっぱりわかりませんが、終始はしや

ぎっぱなしの二人で、これで日本の政治ばかりでなく、世界に向かつた政治ができるのでしょうか。なんだか軽はずみな連中ばかりそろつてきて、心もとない気がしてきました。私は今まで維新の会と橋下なにがしについては論評を避けてきましたが、橋下さん個人の言動を量りかねていたのです。基盤と正体がはつきりしていません。世の中の流れに目ざとく、目先の利害に飛びつく軽薄なところがあつて、大局に立つて国体に関する論議をするには右顧左眄の傾向に、とても勝海舟の船中八朔を引き合いに出す規模に難色を示しています。大言壯語には大衆は迎合しやすいのですが、しかし国民の無知蒙昧なところを突いて扇動的な手法を使うところが、危ないこと本人自身気が付いていません。同時に欠点を暴かれると、相手がまわづ抱きつく習性でしょうか。

今回も老骨に鞭うつて出てきた老醜然の人を相手に、政治家としての節操をわきまえず

簡単にくつついてしましました。選挙民はこれ
をどう見るでしょうか。良識を持つた懸命な選
挙民ばかりでしたら、このいかさまを見抜くと
ころですが、無知蒙昧の民衆もかなりいて、そ
もそも無党派層なるものがこの類なので、厄介
と云えばこれほど厄介なものはありません。手
八丁、口八丁の輩に会つてはひとたまりもあり
ません。あきんどの世界では口八丁の輩こそ注
意をしなければなりません。人をだますのは朝
飯前です。のんびりしてぼけている人間がだま
されます。昔から泥棒にも三分の理ありの通り、
だまされるのは努力と修行の足りなさもあり
ますが、泥棒に理がありがまかり通つてはたまり
ません。しかし現実には、被害者には、のんび
りぼけ助が多いのです。俄か仕事で出てきたよ
うな大阪維新の会から日本維新の会、その理念
たるや高邁にして時代的であるがゆえに泡沫
で終わってしまうには惜しい気がします。しか
し理念も政策も桁外れに違う二つの集団を一

つにしたからといって、国民はああそうかとい
うわけにはいきません。おさげ髪で、おでこに
垂れ下がつてくる髪の毛をいつも手で搔き上
げていた橋下さんは、髪型を変えて出てきました。
お坊ちやまが急にサラリーマンの紳士に早
変わりで清新な感じになつたのは賛成です。イ
メージ・チェンジで老紳士の石原さんに合わせ
た感じですが、そんなことはどうでもいいので
す。老いたる馬は道を忘れずといいます。山中
で道に迷つたとき老馬を先に立てていくと道
に出ることの意です。経験を積んだ先輩の知恵
を借りることですが、時代は物凄い勢いで進化
発展しています。昨日あつた事柄が今日に通じ
ないぐらいの日進月歩の時代に、昔のことが生
きてこない場合があります。通じてこない時が
あります。価値観も、認識も大きく変化してい
く今日です。

自民党の政策は？

将来原発は廃炉に持つていくのかの一つも

聞きたくなります。消費税の問題、原発の問題、TPPの問題、憲法の問題どれもこれも考え方が違うのです。これがあまり深い論議もせずに選挙に合わせてガチャンコしていくつづいてしました。両方ともこの節操の欠如には驚きました。こりやあ何だと、国民を馬鹿にするのもいい加減にしろと云いたいところです。しかし、これは大同につくための小異ではあります。國の進路を決定する大問題です。こんな認識と判断すらできない体たらくな政治集団に、大切な一票を投じては國民にとつて恥の上塗り、いや失礼、言語道断であります。しかし人気投票、失礼、世論調査では自民党、民主党に次いで三番目にのし上がっています。凋落氣味の民主党を抜く勢いでいます。雑魚も含めて15の政党が乱立する理由を聞きたいのです。これほど被選挙民が混乱していくは、だれを選んでも同じことになつては、何のための選挙かわかりません。自公民の三党合意

を達成した実績があります。ならば、選挙の結果次第では、民主党と自民党が政策協定を結んで一気に合同して、目指す第三極から第二極に昇格の党に対抗したら、ここで二大政党が再構築されるのではないですか。民主党は政権担当を担っているうちにだんだんと大人に成長して、あるところでマニフェスト違反をしてきました。現実の政治と行政の難しさと解決には舵の切り替えが不可避であることにきずいたことでした。信念堅持も大切ですが時に対応することも大切です。鳩山が首相就任直後に沖縄の普天間基地は県外移設と放言したがためにあらぬ混乱を起こし、いまだにめちゃくちゃな状態です。あれは勉強不足か、思いつきのご都合主義が、場当たり的の何物でもありません。潜在的分裂症の病気かもしれません。普段は判らないのですが、本人の自覚と状況のギャップが生じると、それを埋めるために発作的に出る症状です。出生と環境によつて一般社会になじめ

ない思考過程から生まれてくるもので、贅沢な環境の家系に出てくる症状です。こうした事柄は現実の社会によく見かけることです。そうでもない限りああした発言が出るはずがあります。災いして失政の結果になつたことなのです。国民はいい迷惑です。総理の資格ゼロといったものです。

ならば橋下と石原がくついたつていいじやないかということになりますが、あまりにも見え見えで、初めから醜態の都合主義をふるまつてもらつては困るのです。時代の変革を期待した大阪市長が斯くもみつともない有様ですから、他の連中もやりたい放題で激しい離合集散を平気で繰り返して、国民の目を惑わせ欺いています。橋下が小沢に似ているところは、自分は国政に出ないで市長に收まり遠隔操作をして黒子に徹するあたりです。変なところで小沢の真似をしているとしか思えません。国家の仕組み、骨組みを根本的に変えるのだ、それ

を中央集権的官僚打破に始めるのだと云いながら大の遠吠えに終わつたでは物さわがせなとしか言えません。やがてはメツキが剥げてしまします。泰山鳴動ねずみ一匹に終わつてしまふでしょう。突如、橋下と石原が抱き合つて小異を捨てて大同につくといわれても、物には程度というものがあります。選挙のために露骨に抱き合つた政党は、抱き合つた姿を見ても顔をそむけあつていて、しつかりと抱き合つた様子がありません。そもそも政策の違いで必ず分裂します。

選択に困る有権者

「やつてみましようよ、安倍さんに野田さん」、大体が中央集権的官僚集団をぶち壊そうとする点では一致しているのです。総華主義でなく一点重点主義で臨めばいいじやありませんか。それさえ貫徹すればあとは難なく、国民と国家に利して改革、前進のために考えた法律

は通つていきますよ。乱立する政党の諸君の言動をあげつらついていても十五の政党が出てきてそこから選べと言われてみても、こりやあなんだと一人でわめいていても始まりませんが、これから雑魚の言動も含めて、いや切り捨てたほうがいいのではないかと思いますが、しかし少数意見も大切ですが、少数意見の政党が十も十一もあつたりしたでは、それだけで受け入れようがありません。少数意見は一か二が本当な姿なのに雑魚の乱立下では、大事な一票の価値がなくなってしまいます。もう少し選択しやすい形が望ましいのです。しかし現実は現実ですから、やるしかないでしょう。判断は冷静な国民にゆだねるしかありません。慎重に見守つていく必要があります。そしてだまされないで大切な一票行使することでしょう。

ところで国会解散、総選挙が決まってから自民党の優勢が予想される中、株価がそれ以後日経平均で五〇〇円も上がつてきました。加えて

円安が進んで八十二円をうかがう圏内に円が売られてきております。輸出企業にとっては追い風であり、目先は総選挙の結果を期待して、日本経済にとつても良好な風向に変わってきています。安倍さんの超金融緩和発言と国内景気刺激策が結果として買われる材料となつていています。同時にこれはまさしく現在の状況の裏を返した期待が、こうした数字になつたきでいるのかもしれません。今の閉塞感から抜け出したい国民の気持ちと期待を代弁しているのでしょう。ここでの生きて株価の堅調な上昇気流に乗つて、安倍さんの人気も上昇してきています。政治は現実的でなければなりません。びくびくしながらの政策では、二十年も続くデフレ状況から脱却することはできませんし、難問山積の状態を開拓することはできません。安倍さんのいうように旧来型の発想でなくダイナミックな思考が必要でしよう。株を押し上げ、地価を押し上げ、資産価値を押し上げ、購買力

を上げて国民を豊かにし、インフレ目標値を二ペーセントまで引き上げる、やってみようではありませんか。そこまでいけば国民の顔はにっこり顔で勤労意欲もわいて健康な毎日を過ごしていけます。物事に完璧、完全はありません。インフレ目標値が二ペーセントになつたら物価があまり高騰しないように抑えにかかるべきがいいのです。ただし、いくらお金を世の中に供給しても、金融機関の貸し出しが渋ければ活用されません。いくら供給しても人々の間にお金を使う意欲と動機が湧いてこなければ、政府と日銀の思惑は外れてお金の効用を発揮できません。金融機関がお金を貸す場合、担保に必ず土地の提供を求めます。しかしその土地が将来値下がりしてしまうようでは銀行はお金を出し済つてしまふでしょう。今の社会のスキームは土地の値上がりを抑制する形になつてるので、暫定的、長期的にそうした制度や法律を変えて見なければだめでしよう。これに

は革新政党や正義派ぶつた人たちの反発が仰々しく出るに違いありません。総体的な経済の規模を上げていくにはこうした基本的な経済の実力の底上げに踏み込まなければ達成は不可能です。土地を上げる政策を同時に行わない限り、折角の金融緩和政策は尻っぽみになってしまいます。インフレ目標値を二ペーセントに置いた政策です。固定資産税は、バブル時期に上がつたままで、これも重圧になつています。地価が五分の一になつてしまつてゐるのに固定資産税はそのままになつていています。役人は労せずして自動的に入つてくる安定したこうした税金で潤つてゐるのです。払う方は大変です。

誰も語らない土地問題と政策

私の自宅の資産価値、例えば売却価格が今値段より一割上がつたとすれば、なにもその土地を売らないまでも二千万、三千万の所得を得たに等しく、可処分所得が膨れ上がつて消費に

向かう部分が大きくなつて気楽にお金を使うことができます。皆が同じような気分になつてくれば、あきんどはホクホクの顔になつて景気が良くなつてますます商いに力が入つてきます。銀行さんは、融資の枠にゆとりを以て容易に金を貸してくれるでしょう。そればかりではありません。ローンで家を建てた人は地価が上がりません。借金がそれだけ減つた勘定になるでしょう。気分的購買力の向上に跳ね返ってきます。

氣分的な購買力の向上が、いつたん現実的になるといろいろな波及効果をもたらします。企業経営者にとつても同じです。工場の資産価値が上がれば究極的には、結果として工場の生産力につながり、資金が設備投資に振り向けられていくのです。巡り巡つて世の中全体が好循環になつて活気を呈してきます。斯様に経済のと信用の根幹は土地、不動産であつて、この認識なくして経済を論じることはできません。あの古ぼけた理論の、しかも急進的革命家だったマル

クスでさえ経済の基本は、三要素は土地、資本、労働と位置付けております。現代社会を視点にすれば、資本は金融政策です。労働は雇用政策です。さてそこで土地はどのように扱つたらいいのでしょうか。土地こそは経済発展の重要な担保であります。有力な原動力であり、強力な政策的材料となるものです。土地の流通をよくして土地の価値を上げていく政策も合わせて行うべきです。ただし、土地政策に触れて積極的な発言をすると、一般大衆や、旧来型の財務官僚や日銀辺りから猛反発を受けるでしょう。旧来型の役人とは発想の転換が図れないでひたすら前例踏襲をもつてリスクを負うことを嫌う人たちです。改革改善を忌避するグループです。一般大衆とは無知蒙昧な選挙民のことです。表面を撫でた軽薄な議論に対しても、これをうのみにして賛成する善良な一般大衆で、無党派層が多いのです。しかしあたかも金持ち優遇とみられるような提言をすると、社会党や共

産党がすぐにわめきだすのは目に見えています。彼らには多くの場合、正義が含まれていまします。正義は得てして理想を追い続けたままにに消えてしまうことがあります。過大な理想は現実的ではありません。競争を促し、まず富を蓄積してしかる後に配分を考えることが現実的であります。最初から富の格差や、不平等を指摘してこれを是正しようとしても本末転倒ではないでしょうか。競争のあるところに進歩があり発展があります。しかし後に不均衡が生まれてきます。それを是正し改善していくのが政治の世界です。発展があるから格差が出てくるのです。格差はまたこれを活かして次の発展のエネルギーを生む原動力に変質させることになります。そこに政治の英知の發揮が試されてくるのです。

云いにくいくこと、手がけにくいくこと、それは土地政策です。今度の選挙では、15の政党が乱立していますが、どの政党も論じていないの

は土地政策です。土地政策を抜本的に改めて、地価が上昇していかないような社会は魅力ない国土といつていいのではないでしようか。行き過ぎはいけませんが、今の日本の地価の低落と低迷は、異常としか言いようがありません。それを実行したからといって昔日のように土地が投機の対象になつて暴騰していくことはありません。日本の国土はもともと狭いのです。利用できる平野は少なく、非生産的な山岳地帯や山間部地帯が多いのです。気象的条件に恵まれたこの国の緑と水の環境を守り、美しい国土を守り、価値あるものとして保つていかなければなりません。そうした条件を考えると、日本の土地は本来高くて然るべきべきです。将来的にも住宅事情は以前のようにタイトな環境ではありません。そうしてみると銀行が安心して融資をできることができるような環境をまず構築しなければなりません。それに土地の値下がりを防ぎ、物価の値上がりに準じたくらいの

地価の上昇が実現されなければなりません。勿論、金融金利を上回るものでなければなりません。

それに少子高齢化は時代的傾向です。土地の需要は狭まれていく傾向にあります。余計な規制は排除、全廃されるべきものであります。

「約束して、やりましょうよ」。このセリフ、元気があつて適宜を得た発言で、何も党首討論での野田さんの専売特許ではありません。この一言で、年来の念願だった国民的な合意に達しました。時間をかけた無駄な議論はしなくて済みました。そのための無駄な経費は払わなくてもいいのです。そんなことのために国会を開いているといろいろな経費が掛かります。そうではなくとも議員一人当たりの経費は2億円だそうです。私たちもこの言葉を広く、どんどん使っていきましょう。今年の流行語の最優秀賞は、

野田さんと安倍さんの丁々発止から出た言葉、「約束してやりましょうよ、やつてみましょよ」これに決めました。十一月十九日

月尾嘉男先生の講演会

東大名譽教授、月尾嘉男先生の釧路市での演会では先生の有益なお話を伺うことができ、出席者に多大な感銘を与えてくださいました。講演会ならでは聞けない有意義な含蓄あるお話に終始し、多くの会社経営にも示唆に富む話で感謝に耐えません。質疑応答も熱意にあふれ、冬迫る釧路沖の豊かな海浪を想像し、北の光の大地に思いを馳せ躍動感あふれる感想を以て講演を終わることが出来ました。ありがとうございました。

名講演の記録は、できれば新春の昭和経済に掲載し各位の教鞭と学習に供したいと思います。大平洋興発株式会社殿に深く感謝します。

日本国内の政治情勢は、十二月十六日の衆議院選挙を前に混こんとしてきました。混迷の度合

いをますます強めてきたように思います。民主、自公民のほかに第三極を狙う日本維新の会をはじめ少数政党が十三、十四と乱立し主義、主張を争っていますが、こうも多くの政党が乱立していると、投票する選挙民のほうが投票先に混乱しかねない状況となつて、困惑の度合いは極限に達しているといつても過言ではありません。中には全く政策の異なる政党が野合とも思われかねない合併をしたり、小政党が目先の選挙戦を有利にせんがために、節操を欠いた離合集散を繰り返し、目まぐるしい状況となっています。第三極を狙う維新は、橋下が掲げてきた脱原発、消費税増税反対、TPP参加などの主たるスローガンをおろし石原と合流したりして、なりふり構わぬ醜態を演じて信念欠如は明らかになつたりして、この人たちはいったいい政治家として大丈夫かなと疑念を持たざるを得なくなつてきました。先日NHKで全党が参加してテレビ公開討論を試みましたが、はつ

きり申して何が何だかさっぱりわからぬ論議に終始して終わりました。何とも後味の悪い結果で大政党がもつとしつかりしてもらわない相変わらずの百家争鳴ならまだしも、どれもこれも救いようのないおっさん連中の百鬼夜行の有様で救いようがない危機感を持つてしまします。鳴りを潜めていた小沢が原発反対を掲げて、滋賀県知事の嘉田知事を擁立して国民の生活を解党して新党自立に動いています。もともと脱原発、増税反対、反TPPを中心に掲げる点で一致していますが、これに少数政党が参加するという流れが出てきました。脱原発はともかくとして、TPP反対が気がかりなことです。

原発事故で最大の危機を被った日本にとつて、原発の問題は避けて通ることができない最大の課題でしょう。内外の課題が山積の政局です。原発を掲げてきた小沢は、かつて少数政党の細川を担ぎ出して天下をとつた寝業師です。

しかし彼のうごめきは台風の眼とはなりません。彼の時代は終りました。七十歳、彼にとつても最後のチャンスでしょう。今まで黒子に徹して何をするかわからない怪物で下が、段々と神通力がなくなつてきました。ここで国民はまさに日本史始まって以来の国難の時を忘れてはなりません。二大政党の到来の希望は目下のところ砕かれました。鳩山のウロウロ・キヨロキヨロ、ペラペラ・ヘラヘラに勝手に振りまわされた民主党のだらしなさは、いくら自民党からの政権奪取を果し、初めての政権交代にわいたとはい、鳩山、菅を含め大臣の失言やら、交代が目立ち醜態続きでした。折角の二大政党の出現でしたが、続けることが出来ず、国民の期待を裏切ってしまいました。小沢が正面切つて政権を担当していくばこうにもならなかつたでしようが、裏方に回つて黒子を演じる旧態然の姑息な手法が失敗したのです。そこへもつてきて東北大震災と原発事故に見舞われ運の

悪さも重なつて危機管理に未熟さを露呈しました。今、政界は選挙を前に戦国時代さながらの様相です。乱立する政党の数々ですが、離合集散を繰り返しながら、状況は次第に選挙民にわかりやすい方向に收れんされていくようになりますが、党首渡辺率いる「みんなの党」です。政策を掲げ立党の精神を堅持し、さらには合衆連合の波に埋没されずに志を変えることなく現実的であり、初志貫徹に行動する姿勢に大きな信頼感を覚えるのです。

乱立する政党を吟味し、一つ一つ候補者を見て、これから國政を託していくけるかどうか、内外に高まる混迷に立ち向かつて大切な賢明な一票を行使しなければならない責務を負っていることを、私たちは忘れないで前を向いていこうではありませんか。

政権交代

自民党圧勝を受けた金融市場は新政権を歓迎し、安倍晋三総裁が望んだ円安株高が進んでいる。だが市場はしばしば誤ったメッセージを発するものだ。

経済金融政策の新展開

アベノミクス

朝日新聞
編集委員
原 真人

財政と金融の両方でお金をばらまこうといふ「アベノミクス」は、短期の相場を考える金融市場の人々には心地よく響くが、日本の将来にとつては危うい路線である。

量的緩和政策はデフレ解消や成長促進への効果が薄く、副作用が大きい。それがこの10年、日本銀行が試みを重ねた末に学んだ答えである。にもかかわらず安倍氏は「デフレ脱却のため日銀に『輪転機をぐるぐる回してお札を刷る』よう求めている。

このうえ際限なくお金をばらまけばどうなるか。経済は好転せず人々の給料が上がりないまま、金利や物価だけが上昇しかねない。その先にはギリシャのような危機連鎖が待つていてる。

安倍氏には日銀に建設国債をありつたけ
買わせて「国土強靱化」の資金を調達したい
という思惑もあるようだ。自民党が描く10
年間で200兆円（事業費）の公共投資を実
現するなら政府の公共事業予算を2～3倍
に膨らませる必要がある。人口減少国家には
かなりの重荷だ。

今後はただでさえ橋やトンネルなど老朽化
したインフラの維持更新に巨額の費用がか
かる。一方で利用する人口は今後40年間に
3千万人減る。ならば利用率の低いインフラ
をたたみ、維持費を減らす方が理にかなって
いる。社会のダウンサイジングをどう設計す
るか。それこそが日本の長期的な課題なのだ。
民主党政権も理解していたとは言えない。

「コンクリートから人へ」といいつつ、整備
新幹線の着工など大型公共事業を進める逆
行政策が目立つた。

さらにそれを加速させんとする安倍氏に

は、「名目3%成長」という人口増時代の高
い潜在成長率の感覚があるようだ。日本が人
口減少の成熟社会となつた今、そこにこだわ
れば、政策のゆがみは大きくなる。

希望を見いださねばならないのは、別の視
点だ。全体では低成長でも、日本の働く世代
1人当たりの実質国内総生産（GDP）はリ
ーマン・ショック前と今と比べ米欧より伸び
が高い。規制改革などを通じてこうして一人
一人が生みだす価値を増やす勢力を続けれ
ば、人口減少下でも、年金や医療で持続可能
な社会を設計する道は生まれる。

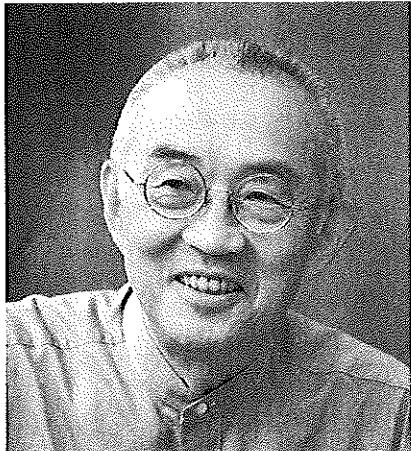
新政権がアベノミクスにとらわれ続けるな
ら、持続可能な社会の実現をさらに遠ざけるだ
けだ。そうなれば、私たちは遠回りのコスト
をまた負担させられることになる。

日本再生への戦略

(十一月九日開催 昭和経済会講演記録)

東京大学 名誉教授

月尾 嘉男



私は北海道を頻繁に訪ねており、釧路も今年は三回来ております。

その契機になったのは、二十五年ほど前、北海道開発局網走開発建設部が、開発局も土木事業だけではなく、新しい方向を目指す必要があると長期戦略を検討され、その構想をお手伝いしたことです。北海道はスポーツなどには日本で最適の場所だと気に入り、スキーやカヌーをするためにも頻繁に訪れております。

先日、北海道選出の国会議員の講演会で、その国会議員よりも私のほうが北海道に詳しいと申し上げました。政治家は票のある地域しか回つておられないが、私は熊や鹿しかいない場所も遊びに行つているという冗談です。釧路川についても、数十回はカヌーで下つており、流域については相当に詳しいと自負しております。

今日お話をさせていただく内容の第一は現

在の世界で日本が置かれた状況、第二は北海道の抱える課題、第三はどのような戦略で日本そして北海道の課題を解決していくかとということです。

インターネットの内部で、日本が消えた世界地図が流布しております。まさに日本沈没ですが、実際にデータを調べますと日本は沈没しそうな状況にあります。

十五歳以下の若者が全人口の何%を占めているかを調べますと、日本は五十五カ国中で五十五位、すなわち若者の比率がもつとも少ない国です。当然ですが、その反対に六十五歳以上の人口比率は世界最大です。

経済について、日本は2008年に中国に抜かれてGDPが世界三位になつたと言われます。それは事実ですが、物価に比例させた購買力平価換算により一人当たりGDPを計算すると、世界十九位になります。

深刻な問題は中央政府と地方政府の膨大

な借金です。昨年、ついに一千兆円を越えましたが、それがGDPの何%に当たるかを計算すると二〇〇%以上で、これは世界最悪の数字です。それでもポルトガル、アイルランド、イスラエル、ギリシャのような財政破綻に直面しないと言われていますが、それらの国々は外国の金融機関が国債を買っているに対し、日本では外国資本の購入比率は五%程で、大半は日本人の貯蓄で国債を購入しているからです。

しかし現在、国民の預金の余裕は二百兆円くらいしかありません。これを突破すれば、日本も財政破綻になります。

そこで期待されるのは経済成長ですが、昨年は五十五カ国中五十三位でマイナス成長でした。

昨年の一位は中国で、二位がアルゼンチンですが、アルゼンチンは二〇〇二年ころには財政破綻直前でした。ところが昨年は世界二

位の経済成長を達成した国に変わりました。

その理由はアルゼンチンの国債の多くは外国資本が購入していたからです。アルゼンチン政府が交渉をして、借金の大半を免除してもらい、ゼロから再出発できたらです。

ところが、日本の国債の大半は国民の貯金ですから、アルゼンチンのような荒業はできないというわけです。

このまま毎年数十兆円ずつ借金を増していくと、十年以内に国民の貯蓄も底をつくというような状態になります。

これまで日本は貿易収支が大幅に黒字でしたが、昨年は三十一年ぶりの赤字になり、世界の二十九位まで低下しました。

もう一つ、日本が外貨を稼ぐ手段は観光だと言われます。ところが、G N P 当たりの国際観光収入比率は五十四位で、日本以下の国はベネズエラだけです。

その一方、日本の生活費用は世界一高いの

です。それぞれの国の首都での生活費用を比較してみると、東京ではニューヨークの一・三倍の費用がかかります。

オフィス賃料も世界一高く、安価なリトニア、エストニア、インドネシア、スロベニア、アイスランドなどと比べて十倍近く高いオフィス賃料です。

携帯電話の料金も世界一高い国が日本です。デンマークという消費税率二五%の国と比べても携帯電話料金は十一倍も高いのです。私は年に二回ほど世界の僻地の僻地という地域へ行つており、最近ではサハラ砂漠やアマゾン川の源流地域を旅行してきましたが、そういう地域でも携帯電話が使用できるようになつております。ほとんど現金収入のない現地の人々が携帯電話を頻繁に使つています。料金の支払いが大変ではないかと心配しますが、安価なので心配することはないようです。

インターネットの利用料金も世界で安い方から二十四番目です。例えばロシアに比べて二・三倍も支払って我々はインターネットを使っているということになります。

工業用電力も世界で二番目に高く、日本より高いのはイタリアだけです。日本の産業界のライバルである韓国が三倍にもなっています。

日本は地域独占企業が電力を供給しているので、価格削減努力の意欲がないからです。早期勧奨退職に応じて五十歳前後で退職した電力会社の社員の退職金が官庁の最高の地位である事務次官の退職金以上です。

それから東京電力は事故発生以前、七十五人の顧問を雇つておりました。その費用もすべて電力料金に反映しています。

このような状態を合計すると日本の現状になります。イスラエルにあるシンクタンクが毎年、世界の五十五カ国について

資料を集め、「国際競争力」を計算しています。今年の順位はアメリカが一位で日本は二十三位です。現状では妥当と思われるかも知れませんが、日本は一九八六年から九二年まで世界一位だったのです。

ところが、九十年を過ぎてバブル経済がはじけて、急速に競争力を失い、二〇〇二年に三十位まで下がってしまいました。さらなる衝撃は、一九九四年に日本は三位で、韓国が二十三位で、中国は三十四位でしたが、現在では韓国にも中国にも抜かれてしまっています。

これが国際社会における日本の現状ですが、国内でもいろいろな問題が発生しています。一九八三年のアメリカ、フランス、イギリス、日本の合計特殊出生率ほぼ同じ数字で一・八一程度でした。それから十五年ほど経ったとき、日本は一・三九に低下し、人口減少が止まらないままでですが、アメリカ、フラ

ンス、イギリスはほとんど二・〇近くまで戻しております。

原因は、過去十年間に少子化担当大臣は一人誕生しており、一年以上続いた大臣がないという状態で、実効的な政策が実施されていないからです。

労働生産性の低下も問題です。日本人は二十五年ほど前までは世界一勤勉で、外国から働き過ぎだと非難され、休日を増やすなど労働時間を減らしてきました。その結果、日本は祝日が世界一多い国になりました。

その影響で労働生産性が落ち、現在、世界で二十四位程度です。とりわけ残念なことは、二次産業、すなわち、ものづくりの分野の労働生産性が一気に下がってしまったことです。九六年には二位でしたが、現在では二十位以下です。

それから日本人の意欲を削いでいるのが、所得格差が拡大していることです。最近、保

険金詐欺の殺人事件が増えていますが、これも所得格差の拡大が影響しているのではないかと思います。

ジニ係数というのは、すべての国民が全く同じ収入のときゼロ、一人だけが全ての収入を得ているときに一となる数字です。したがって、数値が大きいほど格差が大きいということになります。世界の主要な国で、格差が一番開いているのは中国ですが、かつて日本は世界有数の格差のない社会で、世界で唯一成功した社会主義国家と呼ばれるほどでした。一億総中流という言葉が流行していた時代です。ところが最近では、ジニ係数が上がり、生活保護率が急増してきました。昨年は百五十万世帯が生活保護を受けるという国になってしまいました。これが社会を非常に劣化させていると思います。

財政問題も深刻です。今年の日本の歳出は九十兆円くらいですが、そのうち四分の一は

国債費です。会社でいえば借金の利払いの費用です。残念ながら日本は、歳出に占める国債費の比率が世界一高い国です。

一九六〇年、国債費はわずか歳出の二%しかなかつたのですが、今年は二四%になつてあります。それから社会保障費が一一%から一二%に増えています。

五十年前には国家の歳出のうち、七〇%程度は国家の将来のために投資できたのですが、現在はわずか二八%しかないという状態になつてしましました。これには防衛費や教育費も入っています。とにかく、前向きな政策に利用できない固定された費目が四分の三になつてているのです。

そのような事態の結果、一〇〇一年まで、スタンダード・アンド・プアーズの日本の国債の格付けは最高のトリブルAでしたが、それ以後、急速に下がり、現在は上から四番目です。ムーディーズの格付けもかつてはトリ

ブルAでしたが、一〇〇二年には上から六番目まで下げました。その後、やや上昇しましたが、今後、特例債を発行すると、また下がるかも知れません

格付けが下がると、高い金利にしないと国債の引き受け手がなくなりますから、さらに利払いが増えるという悪循環になります。

これらが日本の抱えている主要な問題です。

以下次号

〔時局論壇〕

情報化、『貧困のわな』覆す

九州大学教授

篠崎 彰彦



10年前の景気回復局面では、「新三種の神器」として薄型テレビやデジカメなど情報家電が注目を浴び、日本産業の復活が期待された。企業向けのパソコンが主役だった1990年代には、規格化された汎用品の競争という性格が強く、国際競争で後じんを押しした。一方、消費者向けの情報家電では、きめ細かくニーズをくみ上げ、部品、素材、装置に遡つて高品質の技術開発を進める日本の優位性が發揮できると考えられた。

だがこの期待は大きく外れた。原因の一つは、情報化とグローバル化を並列関係のまま90年代の延長線上に描いてしまい、「情報化のグローバル化」という途上国を巻き込んだ2000年代の大奔流を見誤ったことにある。新興国・途上国も含めて世界経済の発展メカニズムには大変化が起きていた。その原動力が携帯電話に象徴されるIT（情報技術）の爆発的な普及だ。

ITといえば、10年前までは先進国を舞台に語られることが多く、経済再生を実現した米国に追いつけという議論が日欧でも繰り広げられた。新興国や途上国については、

技術革新に取り残されるデジタルデバイド（情報格差）への懸念こそあれ、新市場として発展する可能性はあまり現実視されていなかった。00年の九州・沖縄サミットで、デジタルデバイドの解消が国際社会の共通課題に掲げられたのはその象徴といえる。

ところが、こうした国際論調は00年代半ばに大旋回し、途上国の経済発展に向けた起爆剤になるという認識が一気に広がった。しかもそれは、成長、雇用、教育、医療など広範な領域に適応されて貧困からの脱出に貢献し得るという、まさに多目的技術（GPT）としての課題解決力を見据えた共通認識である。その背景には、新技术とは縁遠かつた途上国の漁師や農民さえも巻き込んだ急速

なITの普及と社会の変貌があった。

筆者が情報通信総合研究所の協力で構築している世界約200カ国・地域のデータベースを用いて、固定電話、携帯電話、インターネットの普及率と1人あたり国内総生産（GDP）や識字率などの指標を分析した。すると、この10年で通信の主役が固定電話から携帯電話に変わり、そのけん引役が先進国以外の国や地域であることがわかった。しかもそれは、教育や所得の水準を問わずあらゆる国と地域に満遍なく及んでいる。

携帯やネットは90年代後半から世界で普及し始めたが、当時はまだ識字率が85%を超える豊かな国に偏っていた。ところが00年代半ばには識字率が50～80%の国々でも一気に固定電話を抜いて普及し、今では識字率50%未満の途上国にも急速に広がっている。

その要因としては、①旧技術となつた第2

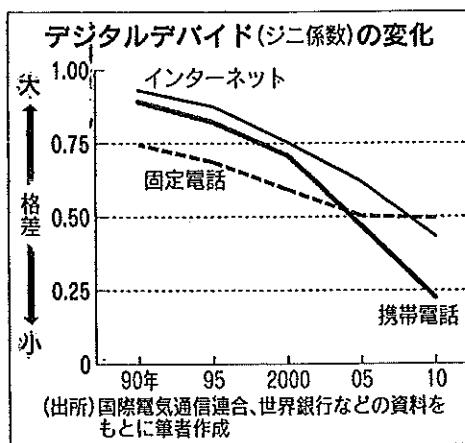
世代へ（2G）の設備と端末が低価格で途上国に供給された②無線施設は山岳地帯などの難所でも「点」で整備できる③文字が読めなくとも音声で利用できる④プリペイド式で面倒な加入手続きや料金徴収が不要である⑤端末の共有が容易で費用負担を軽減できる——ことなどが考えられる。今や途上国では、携帯が日用品を露店で売買する感覚で取引されている。

* * * * *

産業革命後の歴史が物語るように、これまでの新技術は一定の教育水準とそれを可能にする所得水準がなければ社会への普及と定着に限界があつた。この限界がさらに発展を阻む「貧困のわな」は長年人類の課題であり続けたが、ITではかつてみられなかつた現象が起きている。

格差の大きさを示すジニ係数を計算すると、今世紀に入り格差縮小の動きがほぼ止ま

った固定電話を尻目に携帯電話の格差は急速に縮小し、これを5年程度の遅れでインターネットが追っている（図参照）。



貧困撲滅を掲げたミレニアム開発目標で国連事務総長の特別顧問を務めたジエフリ

—・サックス米コロンビア大学教授は携帯電話を「最も有効な機器」に挙げ、その急速な普及で予想外に早く「デジタルデバイドが解消しつつある」と述べている。

グローバル市場を狙う各国の企業はこのチャンスを見逃さない。中国の華為技術（ファーウェイ）や韓国サムスン電子など中韓の企業は、端末や機器類でこれらの市場に深く食い込んでいる。携帯電話による送金サービスでは、英ボーダフォンがケニアのサファリコムと立ち上げたM-PESAが世界各地で事業展開している。米国のツイッターやフェイスブックが途上国で広く利用されることとはアラブの春で実感された。

ハード、ソフト、サービスのあらゆる領域で起きているこの動きを、従来型の先進国市場を中心とした枠組みでとらえるのは危うい。所得水準が大きく異なるグローバル市場では、それぞれ発展プロセスに違いがあるか

らだ。

戦後日本では、所得向上とともに、三種の神器（白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫）から3C（カラーテレビ、クーラー、自家用車）を経て、今日のデジタル機器へと消費が高度化した。だが途上国では、まず安価なデジタル機器が普及し、稼得機会を高めた後に日用品が普及するという全く逆のプロセスが進行している。つまり日本の経験則は通用しないのだ。実際、途上国で存在感を増す中韓企業は、安価なデジタル機器でブランドを浸透させた後に、将来性のある家電市場を開拓する戦略をとっている。

ここでイノベーションが持つ意味は、最先端の財・サービスの追求ではなく、価格が劇的に低下し誰もが利用できるほど豊富な技術の生かし方にある。とりわけ多目的技術としてのIT分野では、次々に生まれる技術を巧みに新結合し、これまで解決困難だった課

題に対する解を示す知恵と行動にこそ価値がある。

アフリカでは、かつて数十キロ離れた地域に通っていた農業指導員がショート・メッセージ・サービスを通じて栽培時期や気象情報を伝え指導エリアを広げた。携帯電話で市場価格を知る農民は仲買人の言い値で買いたたかれることがなくなり、船上で有利な値がつく寄行先を確認する漁師は所得を大幅に増やした。携帯電話による少額送金は、最低預金額や口座管理料が壁となつて銀行口座を持つなかつた人々に多くの恩恵をもたらしたばかりか、国際機関による難民へ食糧支援にも応用され効果を上げている。

* * * *

日本復活という点で「情報化のグローバル

化」から得られる教訓は、世界に広がるIT市場の成長力を取り込むことにとどまらない。より切実なのは、日本も自らの課題解決

にITをフル活用し、経済再生へと導くことだ。最新の情報通信白書によれば、日本は世界最先端の基盤整備は進んだが、利活用の進展は国際比較で立ち遅れが目立つ。

IT投資で閉塞状況を打破できる分野は幅広い。医療の実態を可視化して望ましい診療や投薬の姿を抽出すれば、少ない医療費で質の高いサービスを提供できる。識別情報や安全・安心に活用する共通番号の仕組みが整えば、年金などの個人給付で不正のない確実な手段に応用でき、給付付き税額控除など就労意欲を高める社会保障制度の導入基盤になる。環境・エネルギー分野では、多様な電源と需要の制御に生かすことで電力不安を緩和できる。これらは新事業の創出も促すだろう。

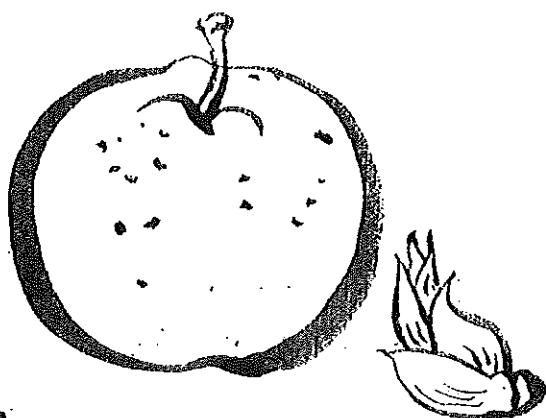
ただし、その実現には利活用分野の抜本的な組織・制度改革が欠かせない。過去にとどまられて改革を怠ると効果は表れず、効果のな

い投資は運用でつまずいて持続しない。中核となる電波・通信行政と併せて、様々な構造改革を多目的技術としての I.T.に結集し、投資機会を広げていく骨太の政策が求められる。

竹條崎彰立彥

九州大経卒、同大博士（経済学）

専門は情報経済



作品 関根常雄

〔時局論壇〕

世界経済危機Ⅲを避けよ

尖閣諸島をめぐる日中間の緊張は、減速する世界経済の大きなリスクである。第2、第3の経済大国どうしの冷却が長引けば、リーマン・ショック、ユーロ危機に続く「世界経済危機Ⅲ」を招きかねない。日中は偏狭なナショナリズム（国家主義を超えて、悪循環を防ぐ共同責任を担っている。

日中が担う共同責任

客員コラムニスト

岡部直明

野田佳彦内閣による「尖閣国有化」決定のさなかに中国・天津市で開いた世界経済フオーラムの夏季ダボス会議は、まるで腫れ物にさわるかのようにこの問題を避けた。会場の隅の方から聞こえる「なぜいまになつて」という声が事態の深刻さを物語つていた。

温家宝中国首相は講演で、この10年で6位から2位になつた中国经济の成功物語を披露し、成長减速にも「中国には財政、金融政策を発動する余地がある」とあくまで強気だつた。

しかし、一部参加者との会見ではユーロの行方に危機感をのぞかせた。驚いたのは温首相がギリシャ情勢やドイツの国内政治事情だけでなく、オランダ総選挙まで注視していることだった。歐州勢の資産圧縮や対欧輸出の落ち込みなどユーロ危機が中国経済の足を引っ張っている。

国際通貨基金（IMF）の朱民副専務理事は、このユーロ危機に、米国の財政の崖、新興国の成長減速、食料品価格の上昇を世界経済の4つのリスクとしたが、それにいま日中冷却を加えなければならないだろう。

世界の成長センターで相互依存による「ウイン・ウイン」の関係を築いてきた日中が対立すれば、ともに敗者になる。それだけではすまない。生産・流通のネットワークが分断されれば、デファクト（事実上）の東アジア経済圏は機能不全に陥る。それは世界経済全体を巻き込む。

日本経済にとって、日本の自動車が攻撃対象となつたのは深刻だ。日本メーカーは世界最大の自動車市場で大幅減産を余儀なくされる。それは日本の産業全体に響く。日中関係に不透明感が漂うかぎり、日銀短観では高めに出た設備投資も下方修正は避けられない。中国からの観光客の落ち込みも大きい。日本は景気後退に直面する。

一方で、中国は「持久戦」には強いという見方はあるが、世界経済は密接に絡みあう。破壊的な反日デモで世界中に「中国リスク」が織り込まれた。中国株価の下降がそれを示す。賃金コストの上昇で「世界の工場」の魅力は薄れしており、中国離れのきっかけになる可能もある。東南アジア諸国連合（ASEAN）など「チャイナ・プラス・ワン」へ投資先を移転する動きは広がるだろう。

中国経済の成功物語は日米欧からの投資に支えられてきただけに、投資リスクは成長

にとつて大きな障害要因になるはずだ。

* * * *

深刻なのは、日中間に事態を打闘する展望がみ見ないことだ。尖閣問題は日米欧先進国から中国など新興国への歴史的なパワーシフトのなかで起きた。中国が強硬なのは、海上進出と資源戦略がからむ「核心的利益」と考えるからだろう。

しかも、胡錦濤体制から習近平体制への政権移行期である。親日派の現政権が尖閣国有化でメンツをつぶされたなら、次期政権は強腰にならざるをえない。

やっかいなのは、中国の強硬姿勢の背景に、高度成長から中成長への成長屈折による矛盾が潜むことだ。反日デモが一部で暴徒化したのは所得格差など国民の不満がある。ローマは1日にして成らずどころか中国では「1週間にローマが2つできる」という急速な都市化が進行中だ。そこにひずみはつきまとう。

ネット社会化が不満を増幅する。

もちろん、日本はどんな政権になつても、尖閣諸島の領有を譲れない。領土・領海の保全は国の基盤であることに変わりはない。

問題は、こうして日中が互いにナショナリズムを背負いながら、対峙し続けることである。偏狭なナショナリズムの応酬は事態を悪化させるばかりだ。中国内にも「次期政権は資本市場改革などに取り組むべきだが、ナショナリズムは改革を損なう」（李稻葵中国世界経済研究センター所長）という指摘もある

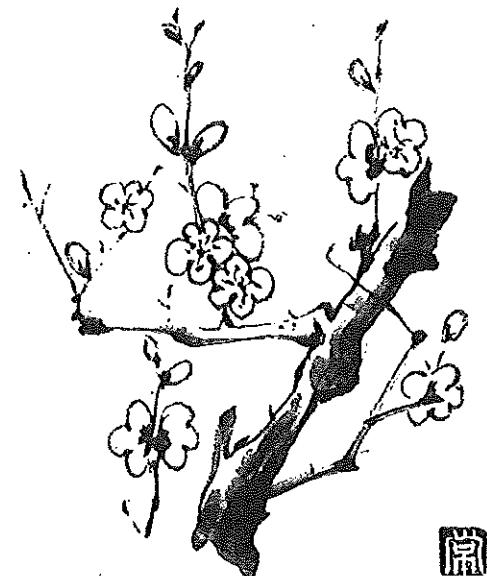
* * * *

こんな時こそ、日本は地球視野で戦略的外交を展開しなければならない。日米同盟の強化はその大前提である。環太平洋経済連携協定（TPP）と日中韓自由貿易協定（FTA）をともに進め、それを統合させる。尖閣諸島周辺での石油・天然ガスの共同開発など日中間で環境・エネルギー協力に取り組む必要も

ある。

重要なのは、重層的な人的交流である。岡崎嘉平太は日中覚書貿易事務所代表として周恩来との協議を重ね国交回復への地なしに尽力した。国交回復後は青年交流による「人の石垣」を唱えた。その信念に貫かれた話しぶりを思い出す。欧洲統合の父、ジャン・モネは「国と国を結びつけるのではなく、人と人を結びつける」と述べている。

今週、東京で開くIMF・世界銀行総会は、世界経済危機をどう打開するかが焦点になる。日中は危機打開に「完全な貢献が期待される」（ラガルドIMF専務理事）。その日本中が新たな危機の芽になるのを世界はどうみるか。日中は厳しい視線にさらされるだろう。日本が担う国際責任はかつてないほど重大だ。



作品 関根常雄

〔時局論壇〕

ギリシャの財政危機に端を発する歐州のソブリンリスク（政府債務の信認危機）問題は対岸の火事なのか。

日本財政 危機回避の条件

高齢世代の協力が不可欠

現役層の受益重視を

改革、成長促進 の視点カギ

日本は巨額の政府債務を抱えながらも、現時点で日本の国債消化に不安はなく、長期金利も1%前後で推移している。政府資産を差し引いた純債務の状況を考えれば、日本のソブリンリスクは心配する必要がないとの見方もある。しかしバブル経済の崩壊後、一貫して特例国債発行の借金を積み上げている日本の財政は健全ではない。高齢化が高進する中で、こうした財政運営を続けて行くことは日本の社会基盤を危うくする。

だからこそ、先の通常国会で消費税増税法が成立した。付帯条件付きながら、地方消費税を合わせた消費税率は、2014年4月から8%、15年10月から10%に引き上げられる。付帯条件は経済状況を好転させることだ。具体的には、11～20年度平均で名

横山 彰

中央大学教授

目経済成長率3%（実質2%）程度を目指した総合的な施策を実施することと、消費税率引き上げ前に経済状況を総合的に勘案することなどだ。

しかしながら、今回の消費税増税だけで財政が持続可能となり、日本のソブリンリスクに対する将来不安を払拭できるとは考えられない。まず対内的には、社会保障関係費を核とする政府歳出や政府債務の膨張に歯止めがかけられない。また対外的にも、日本は大量の米国債などの外債を保有しており、外債が減価すれば政府資産も減り純債務が増大し、日本のソブリンリスクが高まる。国債危機回避に向けてなすべきことを確認したうえで、今できることを実施する必要がある。

* * * * *

仏経済学者ジャック・アタリ氏は著書「國家債務危機」で、過剰な公的債務に対する解決策には、増税、歳出削減、経済成長、低金

利、インフレ、戦争、外資導入、デフォルト（債務不履行）の8つがあると指摘している。今日の日本では、最初の5つの解決策が現実的だが既に低金利なので、増税、歳出削減、経済成長、インフレの4つの解決策が候補になる。つまり、国債危機回避に向けてなすべきことはこの4つである。

経済成長、インフレに関しては、歐州中央銀行（E C B）と米連邦準備理事会（F R B）の大規模な金融緩和を受け、日銀は9月19日に一層の金融緩和を決めた。欧米の金融緩和に追随しないと円高がさらに進み、日本の経済成長にイナスに作用する恐れがあつたことが背景にある。円高の情況では、輸出産業の価格競争力が低下し企業の海外流出による産業空洞化が進み、外需による景気回復が難しい。さらに、円高は輸入財価格を押し下げデフレを加速する。

日銀による外債購入はまだ実施されてい

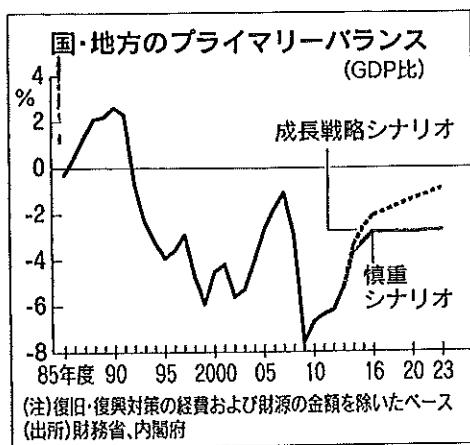
ないが、円高デフレを是正する為替政策の一

療・介護にかかる自己負担分の拡大が急務だ。

手段として民主党と自民党も検討している。いずれにせよ、金融政策としては量的緩和政策を継続し、経済成長と脱デフレを目指す必要がある。

* * * * *

増税・歳出削減に関しては、長期にわたるプライマリーバランス（基礎的財政収支）の赤字体質を早期に改善しなければならない（図参照）。大幅な増税・歳出削減は、新たな特例国債発行を削減するために必要だが、経済成長にマイナスの影響を及ぼす可能性もある。経済成長を損なわないようにするためには、現役世代と比べて相対的に、高齢世代に負担増と受益減を求める改革とならざるを得ない。



同時に、現役世代や児童・青少年のための福祉・教育関連支出を増大させるように政策転換すべきだ。これは民間経済において、生計が別の親子世代間で高齢世代が現役世代に

対して積極的に子育て支援などをしていることを公共経済に反映させるものだ。

そうした取り組みは、技術革新を支える経済的要因を重視する「内生的成長理論」が示唆するように経済成長を促進し、将来の財政健全化に資する。高齢世代よりも現役世代や児童・青少年への経済資源の投下は、社会にとって投資効率が高く、より多くの果実をもたらすと期待できる。

高齢世代に福祉関連支出の縮減について納得してもらうには、高齢世代の生活を若い世代が社会的に支える新たな制度が不可欠だ。中国の律令における租庸調の庸は、労役の義務を免れるために納める税だが、労役の義務が基本だった。それにならい、児童・青少年のための福祉・教育関連支出を増大させるとともに、青少年に介護義務を課すことも検討に値する。それを将来の老後の備えとしてためて、必要なときに使用できるような公的介護バウチャー制度の創設は、財政を通じた介護支出の削減にも寄与するだろう。

あらゆる手を尽くしたうえでも、高齢者福祉開運支出の縮減が難しければ、課税による負担増を高齢世代にも求めざるを得ない。さらなる消費税増税は、現役世代だけでなく高齢世代にも一層の負担を求める点で、世代間の財政の受益と負担のアンバランス（不均

ただし、こうした介護義務を制度として導入するには、現行の介護保険制度や介護福祉制度との整合性も考慮しなければならない。また、介護福祉に必要な知識や技術を取り入れた学校教育や社会人教育の仕組みも必要になる。

また、市町村の公的な介護サービスに貢献した人に、その貢献度に応じて全国共通の介護バウチャー（利用券）を交付することも検討に値する。それを将来の老後の備えとしてためて、必要なときに使用できるような公的介護バウチャー制度の創設は、財政を通じた介護支出の削減にも寄与するだろう。

衡) を是正する。

また中小企業の事業継承に配慮しながら、相続税を重課する抜本的見直しを進めるとともに、相続税収をもとに福祉基金を創設し、同基金から同一世代内の福祉財源を拠出することなども考えざるを得ない。近々に高齢者層の中で突出する団塊世代を他の世代と切り離し、この世代で必要な福祉財源は同じ世代内で賄う必要がある。そうすれば、人口規模の世代間格差によるゆがみも少なくななる。

相続税の増税は、子孫に物的財産を残すよりも、子孫に教育投棄を施して人的資産の形で子孫に財産を残す誘因を与える、経済成長に結びつく。さらに、社会が高齢世代の面倒をみた分について社会が遺産を受け取ることは、高齢者福祉の社会化に対応した負担の求め方ともいえよう。

* * * * *

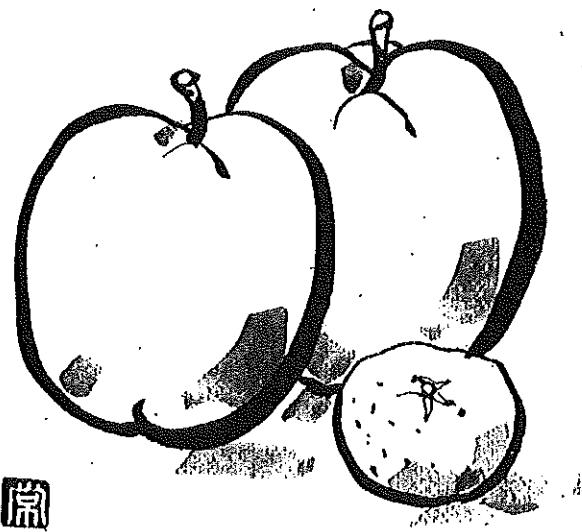
欧洲の税制改革の潮流は、二元的所得税や消費課税を中心とする税制を目指すものだ。スウェーデンなど北欧諸国で採用されている二元的所得税は、労働所得と資本所得に分類し、労働所得には累進税率を適用する一方で、グローバル化の下で足の速い資本所得には労働所得の最低税率で一律分離課税する。欧洲諸国は、国際競争力確保の視点から相次いで法人税減税を実施し、付加価値税中心の税制に移行している。

消費税や環境税の増税とともに、スイスのザンクト・ガレン大学のクリスティアン・コイシュニヒ氏らが提唱する「成長促進型二元的所得税」は日本の税制の目指す方向になる。これは、個人段階の資本所得課税（資産所得税）は二元的所得税型にして、企業段階の資本所得課税（法人税）は正常利潤を上回る利潤のみに課税する成長促進型法人税とする税制だ。

社会保障・税一体改革に基づく今回の消費
税増税は、日本財政の信認リスク回避に向け
た一里塚にすぎない。日本の主権国家として
の信頼性を高めるために、さらなる増税・歳
出削減と経済成長への本格的取り組みが求
められる。

著者
木下
さち

慶應義塾大経卒、同大博士（経済学）
専門は組合政策



作品 関根常雄

〔時局論壇〕

技術変化は格差を縮める
市場は復元力を備える

高齢化の負担
機械化が緩和

先進国では70年代から所得格差の拡大が進んだ。日本でも80年代から格差が拡大し、2000年代から社会問題になった。M I Tのデービッド・オーター教授らの06年の論文などによれば、米国の労働市場は「極化」(キーワード参照)が進んでいくとされる。だがこのトレンド(傾向)が永久に続くとは限らない。

一橋大学教授
小林慶一郎

通常、経済学では技術進歩の指向性は自然

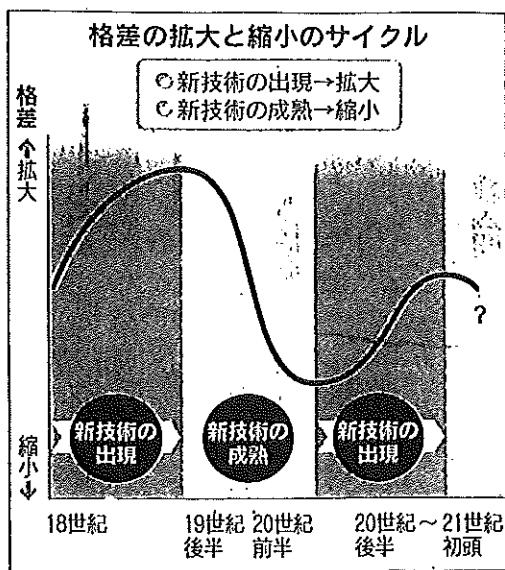
* * * * *

科学や工学によつて決まり、経済や社会の状態とは独立していると想定する。DTC理論が斬新なのは市場経済の状態によつて技術変化の方向が決まると考えた点である。この理論によれば、現在の技術トレンドは格差拡大という市場の状態に反応し、いずれ方向が変わるかもしれない。長期的には格差縮小に向かう技術トレンドになると思われる。

アセモグルの理論のエッセンスは単純である。企業は利潤を最大化するようになり開発を進めるので、豊富に存在する生産資源を使い、希少な生産資源を節約するような技術を開発しようと努力する。結果的に豊富な生産資源を重点的に使い、希少な資源を節約する方向に技術変化が進む。これが市場における資源の多寡によつて「方向づけられた技術変化」の理論である。

例えば米国で大卒労働者と高卒以下の学歴の労働者との賃金格差が拡大した原因は

大卒人材の供給量が増えたことだ、と説明できる。高等教育の普及で大卒者が短期間に増え、大卒人材は以前より相対的に安価になつた。企業は人數の増えた大卒をもつと活用するよう技術開発の方向を変え、その結果、大卒労働力への需要が増加し、賃金が上昇して格差が拡大した。



長期的な所得格差の変動も同じ理論で説明できる。18世紀の蒸気機関の発明による産業革命により技術パラダイム（枠組み）の変化についていけない大量の未熟練労働者が生じた。その結果、19世紀前半には格差が拡大した。

その後、19世紀後半から20世紀前半にかけて格差は縮小する。企業は大量で安価な未熟練労働者を括用し、高価な職人の労働力を節約するため、大量生産などの技術を発展させ、未熟練労働中心の生産技術が普及したためだ。この変化の結果、未熟練労働に対する需要が増え、彼らの賃金が上昇し、中間層を形成するようになつた。

これは「格差循環」と呼ぶべき考え方である。科学の進歩により情報化など技術体系の変化が半世紀～1世紀に1回起きる。その際、少数の勝ち組（新技術体系における高スキル人材）と変化についていけない多くの人々

（低スキル人材）との間で所得格差が開く。だが、やがてそれを縮小させるよう技術進歩の方向性が変わる。その結果、格差の拡大と縮小が繰り返される「格差循環」が発生することになる。格差は拡大の一途をたどることなく、いすれ反転して縮小する。市場は自己復元力を持つのである。

格差の拡大と縮小についてはクズネツ・カーブ（キーワード参照）という説もある。この理論は、格差の拡大と縮小は18世紀から20世紀にかけての近代化とともにもう1回限りの現象だとみる。格差は拡大と縮小を何度も繰り返すとみる格差循環の考え方は、その一般化ともいえる。

技術変革期に格差が広がり、その後、縮小する理論する理論モデルは他にも存在する。例えばハーバード大学のフリーリップ・アギヨン教授の論文は、幅広い分野に応用できる基幹技術が置き換わる過渡期に、企業や労働者

がどのように適応するかを分析した。

それによると請境変化への適応力が問われる初期には学習能力の高い高スキル人材が必要とされ、格差が広がる。しかし新技術が普及すると高スキル人材の必要性が低くなり格差は縮小する。この理論では、新技術の普及自体が賃金格差を縮小させる。これに対し、DTC理論は技術進歩が方向を変えて格差を縮小させるという市場の自己復元力を強調する点で異なる。

* * * * *

では今後の日本や世界で所得格差はどうなっていくのだろうか。近年の研究を総合すると、現在の格差拡大が意味しているのは、情報化という新しい技術パラダイムにおける低スキル労働力が安価に大量に供給されつつあるということである。定期的な事務作業をしていたホワイトカラーは情報化前には中間層だったが、情報技術が普及すると仕

事をコンピューターに奪われ、低ウキル人材となる。一方、情報化時代の高スキル労働力（創造的な知識労働）はますます高価になる。これは19世紀の格差拡大の局面と似ている。

DTC理論から今後数十年を展望すると、高スキルの労働力を節約し、低スキルの労働力の使用を増やす方向に技術変化が進むと思われる。人並み外れた創造性を持つていな普通の人でも、情報技術を使ってなんらかの財・サービス生産できるよう技術体系が変化すると予想される。そうなれば低スキル労働力への需要が高まり賃金を押し上げるので、所得格差は長期的に縮小していくはずである。

* * * * *

少子高齢化の分野でもDTC理論から技術革新について重要な示唆が得られる。今国会で消費税の増税が固まりつつあるが、税や

年金制度の改革はあくまで財政の問題であり、65歳以上人口と現役世代人口の比率がほぼ1対1になる「肩車型」社会が今世紀半ばにはやつてくる。

高齢者の医療や介護を担う若年労働力が高齢者1人当たりで現在の3分の1になる。

もし介護の技術が労働集約的なままなら、サービスの供給不足で価格が高騰し、年金制度が現水準で維持されても高齢者の生活は悪化する。介護の価格を更生労働省の規制で抑え続けても、サービスの供給が減り、待機時間が大幅に増えるなど生活水準が悪化する点は同じだ。

DTG理論によれば企業は希少な労働投入を節約し資本投入への依存度を高める方向に高齢者ケア産業の技術構造を変化させるはずである。したがって日本で企業が追求すべきことは、医療や介護などのサービスを資本集約的な産業に変えるための技術開発

(介護労働者用のロボットスーツや介護ベットの機械化など)であると考えられる。このような技術変化が起きれば、高齢者の生活水準の向上や介護労働者の賃金上昇などが実現し、高齢化をめぐる困難の多くが緩和される。

企業の利潤動機にもとづく技術開発が、最終的に所得格差や高齢化の困難を緩和する。市場経済は単に価格調整によって均衡を実現するだけでなく、技術変化の方向を変えることによって人々の厚生を高め得る。現世代で完全には実現できなくても、次世代では市場の自己復元力が社会を改善する。そこに困難な時代の希望があるといえる。

小林慶一郎

日本の株式相場の低迷が際立っている。

〔時局論壇〕

株式市場再生の視点

低迷期こそ

自社株買いを

大阪市立大学教授

翟林瑜

米ダウ工業株30種平均はリーマン・ショック前の2008年初めの水準を上回り、長期的には1984年初めの10倍以上になっている。一方、日経平均株価は08年初めから約4割、84年初めから約1割低い水準にある。日本企業の自己資本利益率（ROE）の低さが主因だ。

ROEは、自己資本に対する当期純利益の割合を示し、株主から預かっている資本の収益性を表す資本効率指標だ。

まず、リーマン前から直近までの米国企業と東証1部上場企業の資本効率や負債比率のデータを比較してみよう。

* * * *

事業活動を通じて総資産をどれだけ有効に活用しているかを表す総資産営業利益率をみると、米国企業（総資産2500万ドル以上の製造業企業）はリーマン後、急速に回復

した（09年12月期4・0%→11年12月期6・0%）。これに対し、日本企業（銀行、証券、保険を除く）は回復力が弱い（10年3月期3・2%→12年3月期3・4%）。総資産営業利益率よりさらに見劣りするのがROEだ。直近期では、米国企業の16・8%に対して、日本企業は3・6%にすぎない。総資産営業利益率がプラスの場合、負債の税節約効果とレバレッジ（テコの原理）効果でROEを向上させられる。日本企業の低ROEは、総資産営業利益率の低さに加え、負債利用のメリットを十分に生かしきれていないうことも原因だ。負債比率自体は日本企業間に大きな違いがないが、日本企業は業績の悪い企業ほど負債比率が高く、業績の良い企業ほど負債比率が低いという傾向が強い。そのため負債によるROE向上効果が小さい。

日本企業はリーマン後、低いレベルとはい

えROEをプラスに保ってきた。にもかかわらず、株式市場は低迷からなかなか脱却できず、上場企業の多くはRBR（株価純資産倍率）が1倍を大きく下回っている。企業の財務政策にも一因があると考えられる。

企業の財務政策とは、主として資金調達政策と株主還元政策（配当と自社株買い）を指す。ROE向上を目指す企業にとっては、投資では当期純利益を大きくすること、財務政策では自己資本を小さくすることが重要なこととなる。

* * * *

ファイナンス理論では、企業と投資家の間に情報の非対称性が存在するので、企業は投資に必要な資金を、内部留保→負債→増資の順で資金調達をすべきだという説が一般的だ。しかし日本ではリーマン後、株価が最安値を更新する中で、多くの企業は新規株式の発行で資金調達をした。銀行の巨額増資は、

自己資本比率規制の達成のためにやむを得ない側面があつたが、事業会社の公募増資は正当化できるとは考えにくい。

09～11年に公募増資をした東証一部企業（銀行、証券、保険を除く）の負債比率と資本効率を調べたところ、公募増資企業は東証一部企業全体に比べ増資以前から負債比率が高く、資本効率も低い。増資後の1年3月期～12年3月期では依然として負債比率が高く、ROEも悪化した。

リーマン後、株価が最安値を更新する中で、公募増資に踏み切った企業には切迫した財政事情があつたとはいえ、株価への影響を考えるべきだった。図には、公募増資企業の東証株価指数（TOPPIX）超過累積リターンの増資発表前後の動きを示している。増資前からTOPPIX以上に株価が大きく下がり、株価下落最中での増資が株式市場の需給関係をさらに悪化させ、一段の株価下落を

招いたことが読み取れる。

増資した企業は「増資は返済必要のない資金であり、資本コストはゼロ」と誤解しているのかもしれない。しかしROEの分母である自己資本を大きくしたり、将来の配当を多くしたりすることで、そのコストはいざれ跳ね返つてくる。特にPBRが1倍を大きく割り込んだ場合の公募増資は企業価値を大きく毀損させる。財務の安定性のため増資が必要なときは、せめて株価にインパクトの小さい第三者割当増資を選ぶべきだ。

財務に余裕のある企業は、株価が大きく下落したときにむしろ公募増資の逆である自社株買いに積極的に動くべきだ。自社株買いは、短期的には市場にだぶついている株式を吸い上げ、企業の業績に対する投資家の不安を和らげる効果がある。長期的には発行済み株式数と自己資本の減少で将来の1株利益やROEを向上させられる。マイクロソフト

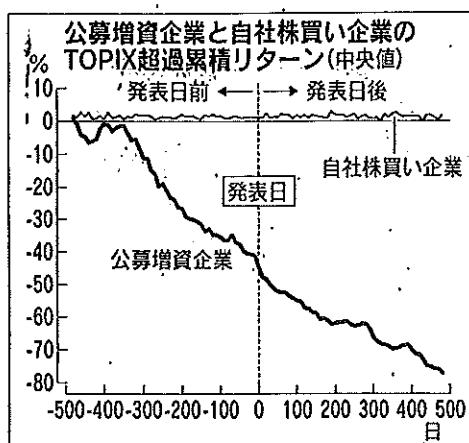
など米国企業はリーマン後、増配と同時に大規模な自社株買いをした。

市境買付けによる自社株取得をした東証一部企業の負債比率と資本効率を調べたところ、財務と資本効率のいずれも優れていることがわかった。こうした企業の自社株買いには、自社の業績を投資家に知らせ、株式の需給関係を改善することで、株価下落を緩和する効果があつた。

図には、09～11年に一定規模以上の市場貴い付けによる自社株買いをした企業のTOPIX超過累積リターンの自社株買い発表前後の動きも示している。これらの企業は発表前後、一貫してTOPIXを若干上回るパフォーマンスを示しており、増資企業の株価の動きとは対照的だ。

自社株買付けの株価押し上げ効果が比較的小さいのは、①各社の自社株買付けの規模が小さい②実際にはごくわずかしか取得しなか

ったか、全く取得しなかつた企業が多い③投資家が極端に悲観して新規の貴い手が現れなかつたことなどが原因と考えられる。



* * * * *

バブル崩壊後、日本の株式保有構造には、株式持ち合いの減少と外国人投資家の台頭

という変化が起きている。外国人投資家の株式保有比率はバブル崩壊後の4%台から昨年度末の約26%に上昇した。一方、個人投資家の直接保有比率は一貫して20%台で推移している。投資信託と年金による間接保有の7%を加えても28%未満にとどまる。米国の73%に比べはるかに低い。

日銀の資金循環統計によると、今年6月末時点での家計が保有する金融資産の残高は1515兆円で、うち現金・預金が1年前より1・8%多い約844兆円と過去最高になった。しかし投資信託は10・6%減、株式・出資金は6・7%減だ。株価低迷を背景に、株式投資に魅力を感じない人が増えている。日本経済のデフレ脱却には、家計の株式投資敬遠と株式市場低迷のスパイラル（悪循環）を断ち切り、企業と投資家の自信を取り戻すことが不可欠だ。

それには、企業は率先して企業価値を高め

るような投資と財務政策をタイムリーに実施することが必要だ。すぐに実行可能な財務政策は自社株買いだ。自社株買いは「企業の大手な資金を流出させる」と思われるがちだが、立派な「投資」としてもとらえられる。例えばPBRが0・5倍の場合、経営者が1株純資産として100円以上の価値があると確信しているならば、自社株買いは1株50円で100円の資産を買うい戻せることを意味する。将来PBRが1倍に回復した時点で、買い戻した自社株を市場で売り出せば高い投資収益率を上げられる。

自社株買いは、株式需給関係の改善、将来のROE向上と配当総額の減少というメリットがあるうえ、株価低迷期の投資としても位置づけられる。特に負債比率が低く、手元資金も豊富だが、ROEとPBRがともに低い企業にとつては、自社株買いによる企業価値向上の効果は極めて高い。多くの企業が大

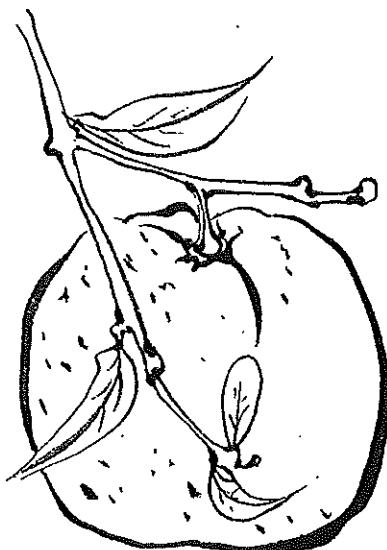
規模な自社株買いに動けば、投資家の株式市場と上場企業に対する信認が高まり、家計の金融資産が株式投資に向かい「貯蓄から投資へ」という政府目標の達成にも近づくであろう。

林 琳



九州大博士（経済学）

専門はコーポレートファイナンス



作品 関根常雄

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

国木田独歩の武藏野

が思い出される名作短編である。その人の碑が「自転車駐車禁止」の掲示板と縄張りのうしろ、横は交番で仕切られた空き地に押しこめられている図は、武藏野の末路を象徴している気がした。

特急「あずさ」号に乗って、八ヶ岳のふもとを過ぎれば山梨県、小仏トンネルを抜けば東京都に入る。多摩の山々が遠ざかれば八

王子、多摩川の鉄橋を渡れば立川である。こらあたりまでは車窓から昔の武藏野のおもかげをとどめた萱原や雑木林をみるとができるが、あとはピッシリ住宅の建てこんだ東京ベッド・タウンの連続になってしまふ。

その一つ三鷹市の中央線の駅から、筆者は八王子と大月の大学に通っているのだが、最近、駅北口に国木田独歩の小さな記念碑があることに気づいた。独歩といえば隨筆「武藏野」で有名であり、「武藏野」といえば独歩

数十年ぶりで「武藏野」を読み返してみた。独歩が明治二十九年秋から翌年春まで渋谷村に住んでいたころの叙景文である。その書きだしは次のとおりだ。

「『武藏野の佛』は今わずかに入間郡に残れり」と自分は文政年間にできた地図で見た事がある」しかし、実際に武藏野を散歩してまわつたら「武藏野の美今も昔に劣らず」と思つたというのだ。

「冬の初め、試みに中野あたり、あるいは渋谷、世田が谷、または小金井の奥の林を訪うて、しばらく座つて散歩の疲れを休めて見よ」

「武藏野」の一部であつた時代なのだ。冬になつて
櫛、樺などの葉が落ちつくせば、
「蒼すんだ冬の空が高くこの上に垂れ、
空気が一段澄み渡る。遠い物音が鮮やかに
聞える」

また彼は「武藏野に散歩する人は、道に迷
うことを苦にしてはならない。どの路でも足
の向く方へゆけば」、たとえば、

「たちまち林が尽きて君の前に見わたしし
の広い野が開ける。足もとから少しだらだら
下がりになり萱が一面に生え、尾花の未が日
に光つていて。……思わず落日の美観をうる
事がある。日は富士の背に落ちんとして未だ
全く落ちず、富士の中腹に群がる雲は黄金色
に染まって、見るがうちにさまざまの形に変
ずる……」

武藏野は、地理的な区分では、東は荒川か
ら、東京二十三区を含んで、西は秩父、多摩
の連山のふもと、入間川、浅川あたりまでの

ことだ。昔はそのいたるところから富士が見
えた。戦前には麹町、九段上の富士見町から
でも、富士をみるとことができた。

学生時代に「武藏野」を読んだときには、
三鷹や早稲田のグラウンドのある保谷あた
りには、武藏野のおもかけが濃く残っていた
ので、かなり実感が持てた。それから半世紀
余り経つたいまでは、独歩の「武藏野」は、
残念ながら、現実から大きく遠ざかつてしま
った。(88.2.13)

* * * * *

武藏野の昔から今まで

「昔の武藏野は葦原のはてなき光景をも
つて絶類の美を鳴らしてはいたよう」に言い伝
えてあるが、今の武藏野は林である。林は實
に今の武藏野の特色といつてもよい」

前回に引用した国木田独歩の「武藏野」の

一節である。武藏野の風景も人間の歴史とともにいろいろ変化してきた。水の乏しい武藏野台地に一万年から五千年くらい前、次第に人間が住み始めたころは、湧水池や河川沿いの台地がまず選ばれたようだ。たとえば、練馬区の西端にある富士見池近くの台地、保谷市下野谷には縄文文化時代のたて穴住居跡がある。

ここから発掘された黒曜石の石器は、信州の人ヶ岳一帯、和田峠あたりからのものだと推定されている。武藏野の西端、西多摩郡檜原村の御前山の南側斜面の洞穴住居跡からも黒曜石の石器が出土している。これも信州から物々交換で運んできたものとみられている。武藏と信濃には太古にこんな結びつきがあつたのだ。

この縄文文化がやがて弥生文化に進化し、米を作り、鉄器を使うようになる。池や川沿いの小さな村落が次第に大きくなり、焼き畑

や野火で繁茂していた常緑広葉樹林が破壊されて、広大な薄の草原が現れた。これは江戸時代に入つても火入れや野火で維持されってきた。「昔の武藏野は萱原のはてなき光景……」と独歩がいつたのはこのことである。さて、広大な草原をもつ武藏野は古代から甲斐や信濃とならぶ馬の産地として知られ、朝廷の「御牧」も置かれていた。『万葉集』卷二十に、防人の女房宇遲部の黒女の詠んだ次の歌がある。

赤駒を山野に放し、
捕りかにて
多摩の横山歩ゆかやらむ

いまの人王子市の南側に横たわる丘陵地帯の広大な草原で馬を逃がして途方に暮れている気持ちが良く現れている。序ながら、八王子市にはいまでも横山町という地名が残っている。

さて江戸が数十万の人口を持つ大都会に成長すると、武藏野台地東部には武家屋敷や神社、お寺が配置されて「山手」となり、それにつづく地域は近郊農村として野菜や木

地された地所は「地上げ屋」の手に渡るのだろうか。武藏野のわずかな名残りも急速に消え去るうとしている今日、」の、」である。

(88・2・20)

炭の供給地になつた。炭の原料に使う雜木の需要がふえ、樺、楡、櫟などが薄野原に植林された。

これが落葉樹を主とする「武藏野の雜木林」であり、独歩が愛した自然と人間との交わりの舞台だつたのである。

これを執筆する途中、用事があつて外出した。保谷市にはまだといへどころに、数百年も経つたかと思われる樺や櫟などの大木に囲まれた農家が残つてゐる。そういう一軒の横を通つたら、裏庭にビル建築に使う大きな高い腕を持つた起重機が入りこみ、次々に切られて行く大枚を地上に下ろしていふところだつた。古木のうめきが聞こえるような気がした。

一二三日後には、古木はみんな切られ、整

明日香風いたゞみに吹く

千二百二十六年前、天平勝宝四（七五二）年四月九日は、聖武天皇の発願によつて铸造された慮遮那仏、通称奈良の大仏が大仏殿に安置された開眼式の日である。

その数日前、私は奈良へ行つて東大寺、興福寺、西の京の唐招提寺、斑鳩の里の法隆寺、飛鳥では例の高松塚古墳、石舞台など有名なといへるをひとまわりした。

だれもが知つてゐる名所ばかりだからそれらについては書かない。強く印象に残つたいちばん小さい」といいちばん大きい」といへるについて述べたい。

まず、春日大社の一の鳥居の近くにある

まず、春日大社の一の鳥居の近くにある
「石子詰」の塚。つい見過ごしそうなほど小

さい。三作という十三歳の少年が鹿を殺した
ため、穴に生き埋めにされ、石を詰めこまれ
て処刑された、という伝説の場所である。こ

れは明和八（一七七一）年、近松半二らの合
作淨瑠璃『妹背山婦女庭訓』にとり入れられ
て有名になった。実録としては天文二十（一
五五一）年に十歳の少女が処刑されており、
これが石子詰め伝説の原型といわれる。

もと藤原氏が茨城児の鹿島神宮から祖神、
武甕槌命を奈良へ勧請したとき、神が鹿
に乗つてきた、という伝説から、このように
鹿を崇める風習が起つたのだそうだが、私
には、「近代以前の権力者の、なんとも殘忍
な人權無視」という、寒々とした現代的な感
想が胸に浮かんだ。

いちばん大きなほうは、明日香村から八木

町へ出るとき、右に天香具山と耳成山、左
に畠傍山を展望したことだ。

香具山と耳成山と会ひしと
立ちて見に來し印南国原

『万葉集』巻一にある天智天皇の有名な三
山歌の舞台である。想像していだより低い山
々だったが、女性に見立てられた畠傍山の山
容は優しかった。これは反歌で、長歌は次ぎ
の通りである。

香具山は畠傍を愛しと耳成と相争いき
神代よりかくなるらし古も然なれこそ現身も妻を争ふらしき

この争いを仲裁しようと山靈の阿菩大神
が出立して、印南国原まで来たら、争いがや
んだと聞いた、という伝説を歌つたもの。古
代人の空想の規模の大きさと、それを厳しい

までに締まつた語調でうたいあげた長歌、反
歌に改めて感じ入つた。

飛鳥を去ろうとしたとき、思い浮かべたのは

采女の袖吹きかへす明日香風都を遠み
いたづらに吹く（『万葉集』卷一、志貴皇子）

「都を遠み」を、距離でなく、千二百年余の
時間と読みかえれば、私自身の感懷であつた。

（88・4・9）



作品 関根常雄

蘭子の心情

原因がわかれれば、答えは簡単

ランコ岩本
(米国ジャーナリスト)

不思議なもので、「原因」探しに本気になると、答えは簡単に見付かった。勝手に決めた固定観念で、自分をがんじがらめに縛つていたわけだ。

「自縛」

書きたいトピックは山ほどあるのに、そ

してそ気になれば、日に何件も「つぶやき」式にブログを書いて更新できるというのに、何故それが簡単に出来ない自分なのだろう？と、真面目に振り返ってみた。

「こういうやり方」でやりたいと、このブログを開始した時、私が自分に課したことは、

(1) 毎月、その中毎週を目標に、書く、
(2) 適切な写真を掲載する、だった。

簡単極まるにみえたこの指標が、そう簡単ではなかつた。

米大統領選で、みなが「チエンジ！」（代えろ、変わろう！）と合唱していることに触発されたのかもしれない。

「毎月」となると、突発的に書きたいトピックが発生しても、「これは、〇〇月のトピックスを書いてから」と、思考の棚にしまい込んでしまう。

「適切な写真」を、がまた楽ではない。あり過ぎて、あれかこれか、と選んだりしているうちに、時は容赦なく飛び去つて行く。

で、あつという間に私の思考の棚のブログのファイルは満載となつてしまい、心理的に、まるで鳥もちか泥沼に足をとられた感じとなつてしまつた。

「固定観念」を捨てれば身軽になる

私達人間は、それが自身で勝手に決めたコトであれ、伝統的しきたりから身に沁み込んだ「常識」であれ、「こうであるべき」観念で自己を自縛しているのではないだろうか？

手じかなところでは、「女だから」「男だから」「この歳で」「学歴もないのに」などなど・・・枚挙にいとまがない。

「そうだ！書きたいことを、その時点で書けばいいのだ！写真も手元にあれば、で良い」と

気付いた途端、私の肩にどっしり乗つていた重荷が、すっと消えて無くなつた。驚くほど身軽になつた私は、これからどんどん「毎月、毎週」などに無関係に、書いていきますので宜しく！

ところで日本人が良く使う「どうぞ宜しく」は、全く便利な表現ですね。その中、「日本人のコミュニケーション」というテーマで書きたく思つています。

「幸せとは」

「幸せとは何ですか？」と、悩む若者から質問されて、心が痛んだ。

モノが溢れ、食べたいモノが食べられ、国は平和ばかりと揶揄されるほどの「日本」の優秀なキャリアウーマン（Mさん）からの質問だった。

多分に彼女は、私が何時も元気で前向きで「幸せな人だ」という意識から、ふと口から出た質問だったのだろう。

日本の各層の友人達（年代、分野）からのメールは、何だか日本人みんなが鬱病気分になつている状態を反映するものが多いことも関連しているだろう。

例外は「精神対話士」（メンタルケアスペシャリスト）対話によつて人の心を支える専門家）を目指す20数年来の友人の恵美子さん。ユング心理学や臨床心理学の研究家でもあり、同じジャーナリスト・ライターなので最近彼女とのやり取りが頻繁になつた。関心はあるものの、正式にそれら心理学を勉強する暇の無かつた私には有難い友達である。

ものすごく深くて、きわめてシンプルな、書くほうも読むほうも、ほつとして、うれしくなるような小さな物語のお話を書くこと——と知るからだ。

これはまさに私自身、永年、人生体験談

をイソップ物語式に書きたいと願ってきた根底にある心情なので、彼女とのメールのやり取りに益々拍車がかかることになった。

やりたいこと（夢）がある、ということ 자체が「幸せ」であろう。

随分前のことになるが、日本の企業リー
ダーから、「どうすれば日本の若者たちに
夢を与えるのでしょうか？」と質問され
てビックリした。「夢」（やりたいこと）
はその人の内部から生まれ突き上げてくる
モノ、と思つていたからだ。

やりたいことが解らない、という若者は
以外と多い。これは「天職」にも関係があ
るテーマだ。だから「どうやって天職をみ
つけるのですか？」と訊かれた時、私は次
の様に答えた。

「これまで来たあなたの人生を振り返っ
て——子供時代からですよ——努力せずともス
ラスラと出来たこと、それをやつていると
楽しかったこと、どんなにやつても疲れな
ど感じなかつたことを思い出してごらんな
さい。案外そこにあなたの天職のヒントが
あると思いますよ」と。

私自身の体験からのアドバイスだった。

昭 経俳壇

選者 佐々木 誠 吾

三 郎

次の間に客の来ており初謡

初明り来るこの年を迎え打つ

書き初めに一を太字に筆下ろし

初空や真白き富士の美しき

丸餅のでつかく坐り雑煮椀

独楽廻し一人舞台のこの宇宙

一の字を初め書に書き志

凧のひもひいてかけゆく孫二人

朝の日の障子の影の初雀

山茶花の花びらおとしもづ二匹

妻の坐の古き小鉢の福寿草

下草を刈りて林に漱氣みつ

寒稽古一本締めで了へにけり

那須岳の曉煙白き初明かり

初詣留守番電話セツトして

悟 風

年の豆民生委員尋ねくる

初富士に大魚旗の帰港かな

飛んでくるヌードボスター春一番

欲もなく十年日記買ひにけり

床の間の鶴亀の軸初明り

数の子や膝から膝へ孫廻し

剣太郎

日の丸の東急バスの播初御空

ふるさとや障子に映る吊るし柿

生涯に泣き笑ひあり初笑

散居村色なき風の渡り往く

東京駅背に黄葉こうよふの儀仗馬車

山人

一夜なり落葉の峠天城越え

魚の目の煮凝り箸にはさみおり

蓮掘りの泥を洗へば夕筑波

煮凝の目玉とろけて飲みおとす

鳥海山目指し渡り来ぬ白鳥の

煮凝りの青磁の皿に收まりて

ヒマラヤの月狼に返る犬

煮凝りに星のきらめく深夜かな

裏店の暖簾掛ければ雪催

寄せ鍋や互ひに古き話のみ

冬紅葉流れ鉢夫の無縁墓

闇汁にしよう今夜の友の席

遠ざかるヒールの音や冬の月

闇汁に得体の知れぬものもあり

闇汁に世のしがらみも煮込みけり

畠替え部屋の匂ひと女房かな

闇汁に狸の肉も入れてあり

新しき茶に入れかえて畠替え

悪夢さり幸せ者のこれにあり

唐紙の穴をあけたり遊廓樓

富貴男

唐紙の隣りの部屋は何者ぞ

大那智の滝の一筋初明り

長谷川

夢殿のほとけたちます初日影

初日影雲海白くうねりけり

敷松葉芸者待つ身や奥座敷

鮫鱗鍋荒磯の波の音のして

敷松葉時雨れて部屋の静かなる

悲しみの酒の喪中の鮫鱗鍋

狸汁客のひとりが姿消す

闇抜けて立つ富士の嶺の漱氣かな

狸汁食べてたらふくなりにけり

初富士に輝く年のめでたさよ

腹たたくせの出でたり狸汁

塩鮭をつる軒下の薄日さす

密談の時の地震や冬座敷

新巻の目よりこぼるる涙かな

帶を解く音のかすかに冬襖

どんぐり

手をひろげ焚き火にあたる子供の輪

天つちにひとり立つ身に漱氣充つ

初見世に一人欠けたり勘三郎

寒灯に得体の知れぬ虫のいて

柿守りに二羽の目白が訪ねきて

どんぐり

鯖を売る河岸は

夕焼け日暮れけり

郭公のうき世離れの声のして

◎郭公や醒めゆく尾瀬の池糖かな

夏の尾瀬鏡の如き燧岳

長茄子の光る紫紺の籠を下げ

念佛を唱へ無に伏す猛暑かな



作品 関根常雄



二十四年の年末は例年になく慌ただしいものだつた。会では幾多の会合や委員会が開かれて案件処理に奔走した。個人的には冠婚葬祭を含め、夜遅くまで飲食を共にしなければならなかつた。例年楽しみに行つてゐる浅草の羽子板市には行けなかつた。そんなありさまだつたから、自家の庭畠の手入れもままならずになつた。しかし親しくしている近所の三井さんの手を借りて、冬菜も栽培に間に合つて、この方は手を抜かなかつたので今は十分に冬野菜を沢山食べている。新菊、チンゲン菜、ホウレンソウ、小松菜、大根つ葉と、冬菜は豊富で、知人や近所の人たちにも分けてゐる。寒暖の差が激しかつたのでなつぱは鍛えられて育つてゐるが、果実の柿は出来が悪かつた。次郎柿、富裕柿と例年は芳醇な

実を堪能できたがことは駄目だつた。野鳥がついばみに来るが、全て訪ねてくる小鳥たちに提供している。金柑はすばらしく甘い実を沢山付けて、この秋の色合いを楽しませてくれてゐる。実も甘酸っぱくてうまいし、もぎ取つては口に頬ばつてゐる。

この時期になると本格的に農園を以て耕作している三井さんの腕の見せ所である。昨日は毬のように大きくなつた真っ白な聖護院大根を二つ頂いた。千枚漬けにしたものと朝食に間に合うように持つてきてくださつた。二個の大玉の聖護院大根には目も覚めるようなふさふさとした青みどりの葉つぱが付けたままであつた。この豊かなみみずみずしい葉つぱは炒めて食べるのが最高である。白いご飯に載せて食べてみてください。和食の素朴な基本に触れる感じである。京都の千枚漬は有名だが、世田谷の三井さんの千枚漬も絶品である。一昨日、その手造りの千

枚漬も頂いたが、京都の千枚漬けのように薄く切った繊細なものではない。三井さんの漬け方は聖護院大根を厚切りにして中に日高の昆布を挟んであるのが豪快な味となつて、田舎的で郷愁を誘うものがある。昆布の肉も厚くこれ自体別な感覚で食するのも乙で、暮れから正月にかけて実に食べ勝手があつていゝものである。毎度のことながら、頂く料理には三井さんのふるさとの暮らしや、田舎への思いが込められている感じである。拙宅では頂いた聖護院大根を一つは千枚漬けに使つてみた。もう一つの半分を煮付けに使つたが、やはり千枚漬に使つた方がいいことが判つたので、大きな白い球を薄く輪切りにして日高の昆布を挟んで千枚漬にした。

+

十二月講演親睦会を八重洲富士屋ホテルで開

いた。講師にはN H K の名解説委員・山田伸二先生にお願いして緊迫する内外の経済問題を中心にお話していくことになつた。十一月解散十二月十六日衆議院選挙となつた慌ただしさである。先生はわたしのお願いに運よく日程が調節できたので快諾された。解説委員長の柳沢先生にはその旨ご報告した。

山田伸二先生の講演会は時局多難な時期を迎えて濃密な知識の吸収を得て、瞬く間に一時間が過ぎてしまった。質疑応答も含め活発に終始し講演会は三時間に及び、九時過ぎに終了する活発さであった。

山田伸二先生は当会の経済講演については専ら親しく、会員諸兄と歓談の時間を通し有意義に過ごすのが常例となつてゐる。親しみやすく、この日も先生の熱のこもつた講演を伺つた後は、会員諸兄は一通り持論、自説を披瀝し先生の解説を熱心に求めていたが、その質疑応答も大変

示唆に富み大いに参考となつた。迎える新年度の経済展望も内外の激しさに加え予断を許さないものとなりそうである。発想の大転換を個人的にも求めるもので、かえつて奮起を促すものとなつた。折しも自民党の優勢を予見して自公民の政権奪還は濃厚な情勢を踏まえ、安倍首相の実現後は超金融緩和と公共事業予算に臨み、景気拡大、デフレ脱却路線に進むことになるが、成功するかどうかが重要な問題だと指摘された。一時的に株式市場はこれを好感して上昇に転じることは間違いない。気分的に交換される相場展開となる。その持続性が担保されないとまたぞろいつか来た道になりかねない。我々は毎日勉強を怠らず、情報の交換を密にして新規市場の開拓に、新規製品の開発に一層の努力を傾注していくべきで、人後に落ちない工夫を内外に発揮すべきことが確認された。

尚、講演親睦会である故、学習の後はにぎや

かな快食晩餐会となつた。富士屋ホテルの調理人か腕を振るつて格別な料理を用意してくれた。出席者の中にはこの日のごちそうを当て込んで見える人だつてある野に聞いているので、力を抜くわけにはいかない。フルコースのフランス料理なので一向になじめない名前の料理が順を追つて出てくるのだが、前菜の盛り付けも上品且つ豪華である。この日の極めつけはステーキだった。産地は気に留めなかつたが、和牛柔らかく、分厚いものでナイフを入れてフォークで刺すあたりの感触がすばらしい。飲み物もあってふんだんだし、酒が入ると気分爽快、気宇壮大になって、人生観、宇宙観も氣前よく大きくなつて悦に入り、声も大きくなるから下らんことなど耳にも入らないし、頭にも浮かんでこない。世の雑念を払いのけ吹き飛ばすにはこの上ない良薬である。親友との会談にも充実感があるし、北大寮歌も口に出したくなる。朗々

と青春讃歌を歌い続けて：厳かに北極星を仰ぐかな、で澄み切つた冬空にきらめく北極星にこの世の奥義を捕えてみることは何と爽快、厳肅なことであろうか。目をつむりし、默然として蒼穹の天を仰ぎ自己の存在を確認してみるとは、生きていく上で大いに奮起、跳躍するところとなるだろう。してみれば雑念を吹き払い今年最後を飾る富士屋ホテルでの会食晚餐の席は何たる豪華番組であったか、執筆に余りあるものである。

ところで普段は、わたしは食事は専ら魚介類中心で、しかも刺身類が好物で気張らない居酒屋の雰囲気を好んでいる。肉を避けている私だが、富士屋ホテルのステーキだけは別格である。この席でも難なく召し上がつたと、少しば貴族的氣分を味わせてもらつていた。自称三十八歳の私が、昔は肉食が多くつた。御馳走の席は必ず肉料理がいろんな形で出てくる席だったが、

ある時コルステロールが高いと医者に言われて急転直下、菜食主義に切り替えた。決断すると徹底的に成し遂げるたちなので、菜食主義が自分の趣向にあつてから久しい。しかし最近はタンパク質が逆に不足していると云われて、家内に忠告方々、嫌味っぽく言われた。いかにも安い食べ物ばかり選んで食べさせているみたいじやないですかと云うのである。朝晩の、料理に腕を振るう家内にしてみれば当然のことではある。聊か独りよがりで反省する点があると思つた。確かに戦後の貧乏生活の食糧不足のときはタンパク質の摂取量の不足が、大きな社会問題だつたことがある。給食の出された味噌汁には何もなかつた。バケツの中を引っ搔き回しても、固形物に当たる者は無きに等しかつた。麦飯の上に沢庵が二キレ、茶碗に一杯、しかも麦飯には芋が刻まれて沢山入つていた。豚かイノシシだつて見向きもしない代物だ。これを食し

ていた少年時代だつたが、餓死者は出なかつた。目はキラキラと光つていた。人間はすべからく痩せていたが、病人は少なかつた。しばらくのこと、東大総長が卒業生を前に「肥えた豚にならず、痩せたソクラテスになれ」と云つたそつだが、苦しい時には立派な哲学者が続出した。病気も住みつけないほどの栄養失調で、栄養失調に住みつきやすい結核が流行したくらいである。食事の肉食、歐米化と云つたことは人々の生活がそれだけ贅沢になつてきしたことの証拠でもある。タンパク質があふれているわけである。なのに医者から不足しているというのであれば、上さんはよほど便乏な暮らしを強いられていふると云う風に映つてしまふ。亭主である私の沽券に係わるものもある。それを払拭するには自分の血液検査の結果がどう出たかを検証する必要がある。それまでにタンパク質を含む食事をする必要に迫れた。肉だ。まず最初に野蛮

的に肉を食することだ。しかも油を抜いた良質の肉を取つていれば体の急激な老化を防ぐことができる。それと肉食の人は長生きすると云うデータもあつて、決して菜食主義がいいというわけではないのである。ことは程ほどにと云うわけで、過ぎたるは及ばざるが如しのたとえ通り、極端を戒める言葉は最もだと感じた次第である。富士屋ホテルでたまに昼食をとることがある。先だつても仕事関係で付き合いお世話になつている大企業のA君とたまたま行つた時がステーキ・ランチデイだつた。ステーキ・ランチを注文するとステーキを何枚注文しても構わないと云う信じがたいもてなしである。これを目当てに行くわけではないのに月一回のこの日にすっぽりとはまつてしまふのである。A君は京都大学卒で京都出身の好青年で人情豊かな好男子ある。面立ちと云い、体型と云いサッカーの本田選手そつくりである。学生時代ラクビー

の選手をしていた。フォワードを勤めて肉弾相打つ突撃隊の一員である。今年財務から営業に帰り咲いた。将来を嘱望されるエリートだが、謙虚な人柄はその片鱗すら見せない正真正銘の実力派である。食事に誘つた日が丁度ステーキ・ランチ・デイーに運よく当たつた。余程金運、食運についているわれわれである。しかもこの日はご婦人のお客様が多くいて、我々は別室の部屋に特別に案内された。Aさん、ゆっくりでできますね。してステーキ・ランチをとりましよう。Aさんは一気に五枚を最初からつけてもらつた。ウエイトレスはにこにこしながらわたしに向かつて何枚にしますかと云つてくれたので、身を乗り出す思いで三枚もらいましたようとお願いしたところ、分かりましたと云つて、暫くのちに豪華なステーキを食べる準備と相成つた。肉食に少しばかり変更して、最近は反つて健啖ぶりを發揮した結果を得ているが、

結局この日はそれがあと一枚追加して都合十枚食べてしまつた。照れくさい感じがしたが定額料金を支払つてきた。但しこれだけでは申し訳ないのでビールのジョッキをそれぞれ二杯ずつ飲んで昼間から一杯機嫌でご機嫌だつた。と云うのも胃がもたれる気配なく、豪傑の好青年に悠々付き合つて後れを取ることなく、ステーキ四枚を食して平然としている吾輩に大いなる自信を得て、昼間から満足の心境に恍惚の気分であつた。斯くなるうえは、これからは富士屋ホテルのステーキも通常の食事の中に入れて健康に資するべく試みて行こうと決心した。ところで肉も適当にとつて老化防止、健康増進のためにと進言してくれた上さんは、一片のステーキにあやかることなく、小生のみがいい思いをしていたでは申し訳ない。食べ物の恨みはでかいとは、昔から聞く言葉である。愚痴を聞く前に銀座の三越のデパ地下によつてステー

キの何枚か土産に買つて行こうと思つてゐる。

但し松坂牛である。

掉尾の一振に期待して年内を健康に過ごし、
来たるべき新年の活躍に備え一同乾杯を以て祝

意を表した次第である。ありがとうございます。
みなさん！来年も良いお年をお迎えください。

十二月六日

追記

N H K の解説委員室のテレビに登場する活動
は極めて活潑で、近時、番組の編成替えもあつ
てのことでしょうが、私は注目を以てスイッチ
を入れております。毎日の午後十一時五十分か
ら始まる時論公論は時局を正確、迅速にとらえ
て大いに参考になり勉強になるので、なるべく
試聴することをお勧めします。解説委員
が集まつて専門的見解を述べ合う番組も大いに
充実しており、我々にとつて更なる勉学の機会
を得、毎日の活動に大変参考になりますので、

各位に視聴するようにお勧めしております。願
わくば、こうした番組の生きた時間など、もつ
と増やしていくほしいと願うものです。

年内の行事

十二月二十日前後に来年度の予算案の審議の
総会を開催します。開催日並びに時間が決まり
次第、各位にご通知いたします。年末多忙のと
ころ恐縮ですが、よろしくお願ひ致します。
十二月六日。従来、予算審議と決議の総会は当
会理事の谷口八稜社長の銀座プロントのフロア
を会場に親しく行つていましたが、解体後、今
は新しいビルの建設中になつてるので会場を
八重洲富士屋ホテルで開催する予定です。年末
の諸般の事情でもしかするとクリスマスを過ぎ
た二十六日辺りの開催となるかもしれません。
それまでにすべての委員会の活動を終了し、事
務局では各位に報告する段取りを鋭意作成中
であります。

* * * * *

どさくさ、びっくり 衆議院選挙の結果。
安倍さんの再登板に期待。

人騒がせな総選挙が終わつた。人騒がせな選挙といつても意味合いが違う。四年に一度のアメリカ大統領選挙のように陽気に夢と希望を託したお祭り騒ぎのようなものを何も期待するわけではない。三年六か月の民主党政権下で鳩山、官、野田と首相が三人も後退している。これでは良い政治ができるわけがない。毎年目まぐるしく変わる日本の首相が、慣れっこになつてしまつた日本の有権者である。飼いならされてしまつたと云つてもいいだろう。有権者の方も鈍感になつてきた。くそも味噌も一緒に云つたらひどすぎるが、魅力ない政党と候補者の中から、とにかく有権者の義務と責任で正しい一票を行

使しなければならない。正しい一票となるからぬか、やつてみないことにはわからない。自分のやりたいことを繰り上げたり、好きに使いたい時間をそのために使つて、やつぱり一票を行使してよかつたと思うのである。しかし一向に盛り上がらなかつた選挙であつた。選挙民にとってどこの政党に投票すべきか、誰に投票すべきか困惑の体に過ぎた一か月であつた。困惑とは、判断に困つて投票するすべがないということで、これが今回の投票率の低迷に終わつた証拠である。国民一人一人の義務であり責任である大切な一票を投じた人々が沢山いたが、しかし又一方では棄権者続出で投票率が最低の数字だつたということである。政治から民意が離れてしまつている証拠で、少子化の問題と一緒に論じるのも馬鹿馬鹿しいくらいである。

選挙に向かつて泡沫政党が離合集散、合從連合を

繰り返し、その間を魑魅魍魎の有象無象の、どうでもいい人間がたむろして職探しに狂奔している姿がそこにあつた。このタイミングを逃すと、あと何年か食いつないでいかなければならない。下手をすれば失業である。そのためにも形振り構わず、目先にブル下がつた職にしがみつかなければならぬ。千載一遇のチャンスである。理念も信念もマニフェストもへつたりもない。選挙民をだまして運良く当選してしまえば、この先何年かは安泰に暮らしていくからである。どうせやることは、その後も碌なことでしかない。国民のために骨身を削つて働いていくと云う奉仕精神は薄れ、各省庁と連携して予算の獲得にしのぎを削つていくようになつてしまふ。利益誘導型の政治に身を崩して行く。つまり国民の納めた税金が、正しく使われずに収奪されて闇の中に消えて行つてしまふ恐ろしい構図である。陳情団の引き受け取次業になつ

てしまふ。昔の政治に戻るのを安倍さんも内心危惧しているに違いない。

人間性を買ってわたしは野田さんが好きだが今回惜しい結末となつたのは、取り巻きに馬鹿が多かつた。彼は人に恵まれないたちで、本人の実力を十二分に発揮できない政治家である。一生懸命やることはやり遂げてきて、歴代首相の中でも実績を積み上げてきている一人だが、独楽の舞い倒れに終わつてしまつたところもあつて、志なかばで憤死した。残念である。彼の将来は、民主党の姿と折り重なつて、安倍さんのように捲土重来の再起は望めないかも知れない。

今回の選挙が象徴するように鳩山元首相は立候補を見送つたし、菅元首相は落選したが、比例代表で難を免れた。親分が憤死したのに命運を共にした子分もいる。悲喜こもごもだが田舎芝居に成り下がつてゐる。政権交代を成し遂げ

た時に、一体だれが民主党の今日を予想したであろうか。悲しい限りである。近代民主国家として大きく成長してきた日本、二大政党時代の到来を切望してやまなかつた日本にとつても大きな損害である。わたしの地元世田谷の第5区でも、首相補佐官をしていた大學O.B.の後輩が落選し、比例でもダメだつた。小選挙区制の恐ろしさ、すさまじさである。人気が低落すると氷河集中的に流れ、間接投票で政党を選択する余地が亡くなり、大統領を直接選ぶような効果を發揮するところは、魔術的である。だからと云つて直ちに今の選挙制度の欠点のみをあげつた拙速さは余りにも幼稚である。

病から立ち上がつた安倍さんは意外に気骨がある。政権を放り出し時は見るに見かねたが、再起に成功した。本人が述懐するように、自らを練磨、鍛錬する期間として見違えるほどの回

復をつけた自信を得たに違いない。時代の風向きが幸いした面もある。長引くデフレ、原発事故の収束の遅延、それに景気回復、TPP、竹島、尖閣諸島と、どれをとつても野田さんでは行き詰まつてしまつていた。まして民主党はガタガタでトップのコントロールが乱れ、子分は云いたい放題のことを行手に放言して憚らなかつた。政権は制御不能に陥つていた。大言壯語、張つたり大臣の失言、醜態の辞任など頻繁し、朝令暮改の有様で、崩壊はもはや時間の問題であつた。ねじれ国会を収束して、国会運営と活動を生きたものとしなければ、被害をもろに受けている国民はたまたものではない。政治が動かなくなつてゐることに自らの認識がなかつた。野田さんははじめ、加担者にはこの理解と認識の欠如で、既にやる気がなくなつていた。世界でも概ねの国々で、指導者が変わって意識改革にちようどいい時期に來ていた。不利な状況

を日を追つて作り出している野田さんも、イラ
イラが昂じて状況判断を間違えて、安倍さんとの
の間答に不覚にも乗つてしまつた。打つて出た
解散、選挙の結果は斯くの如き惨状で、惨敗で
あつた。たつた五十七議席を得て四分の一に数
を減らした。

今日十八日の朝日新聞の二十五、二十六頁の
二面を大きく使つて、新たに当選した四百八十
名の議員諸侯の顔写真が賑やかに載つていた。
これを見て一瞬私は、「こりやあ大変だ」とつぶ
やいていたら、「どうかしたんですか」と妻が訊
ねるのである。此のなかに真正なものが幾人い
るかである。有象無象の乗つた新聞を見ていた
ら、この先が真つ暗になつてしまつた。「そりや
あそだらう、この連中をこれから食べさせて
いかなければならぬんだ。AKB 48みたい
なら楽しいが、張つたり一本の田中真紀子みた
いなかみさんや、予備軍がわんさと紛れ込んで

いるかもしれないし、放り出せば的屋みたいな
連中ばかりで、煮ても焼いても食えるしろもの
じやない連中ばかりさ。この連中を食わせるた
めに一年間で、表面的に二億円の金がかかる。
そのための余分の経費も国民が負担してやらな
ければならない。これらの連中の生活の面倒も
見てやらなきやならんわ」と云つたのである。
妻は目を白黒していた。それだけの働きをして
くれば文句はないが、徒党を組まなければ何
もできない連中である。暇に任せて、あとは税
金をいかに収奪するか、これに目を凝らして暗
躍する連中が多い。困つたものである。この原
理原則が永田町を駆け巡つて地方におよぶから、
福島原発事故の放射能みたいなもので、しかも
これは除染が効かないものである。政治家と役
人の結託、現代の資本主義社会と企業集団との
利権は、この地上で人間が息しているところ必
ずついて回るものである。それに抵抗すると世

の中から弾き飛ばされてしまふスキームになつてゐる。だから生きていくことは難しいのである。

宿命と諦めて、苦しい中にも、遣り切れない中にも、そこに人間の英知と忍耐と胆力が發揮され、果実を得たときのよろこびがある。翻つて経済競争に日夜健闘する企業は、その使命を十分に發揮して社会の発展に寄与し、企業の発展と進歩と厚生を見つけ出して、世に存在意義を以て喜びとしていかなければならぬ。それは自分自身の確立につながり、企業は技術と改革の日夜を通して、与えられた快適な束縛がある。束縛を解いたときの喜びがある。艱難辛苦の克服に、夢と希望を以てこの国に住む眷れをみんなが享受するような社会の構築に励んでいこうと思う。

それにしても自民党の圧勝は堕落していくた民主党のおかげである。古い人間が続々帰り咲

いて百花繚乱の感がするが、悪臭を放ち嫌惡の感もする始末に驚きを隠しきれない。しかし病を克服して再登場を図つた安倍さんの氣骨と力量に期待して、これから日本の進路を確たるものとして邁進してもらおうではないか。内憂外患の日本の状況である。幸い史上最悪の東北大震災の影響も徐々に払拭して、再興、再建への自信も強固に植え付けられてきている。ここで有効に復興の速度を上げる必要がある。政治の空白を懸念した選挙期間も無事に過ぎて終わり、ひと区切りがついた。みんなが清新な気持ちになつて国難を乗り切つていかねばならない。大震災の被害、損失で、ただでさえ大きく乗り遅れている海外との経済競争である。気分一新、世の中の力を少しでも挽回しなければならない。株式市況の明るい動きを以てしても、民間経済は大きく前に動き出している。今ここで後ずさりはできない。期待する政治の活動も早

く

も始動し始めた。大きな揺さぶりの後の、颶爽の登場と云いたいが、しかし奢らず穏やかで謙虚な安倍さんの対応を見て、聊か安心した。

過激に走らずゆっくりと、慎重に事を決めて行つてもらいたい。自民党は生まれ変わつて出てきたと安倍さんは言つている。かつての極端な右傾化も修正されてきたかもしれない。往時の真似事をして、その轍を踏んではいけない。当面は弥じろ兵衛と思つて、しばし動きの止まるのを待つしかない。そのうち何となるだろ、とは往年の植木等のはやり歌であった。安倍さんの健康と活躍を祈つて、今日を祝福するところである。

この国の二大政党の確立に失敗せるは口惜しきかな

経済の成長路線を堅持してデフレ脱却の道を拓かん

四面そか課題山積に立ち向かふ安倍政権に寄する期待は

うちに憂そとに患ひの山積す今立ち上がる好機なるべし

富士山の初の光にあけそめて真白き嶺に眺むまほろま

あかときに昇る初日のほがらかに真しろき嶺ゆ光はなでり

見渡せば駿河の国の朗々と十国峠にひとり立つ我

惨敗の民主党に勝つ自民党世の刷新に

良きや兆しに

積年の鬱積に見る国民の活路打開に

使ふ一票

十二月十八日

表紙絵のことば

復元された東京駅

関根 常雄

が、皇居前の広場の松林は目がくらむ程にすがすがしく、日本風土の独特の風景です。ヨーロッパはもとより、日本が世界に誇れる所以です。この広場と東京駅とおのずと繋がっている。雰囲気はまことに物静か、情趣を人々に感じさせて居るのでしょうか。

復元された東京駅を描きました。日本の玄関口、否、東京都の玄関口、どちらがどちらか本当なのかわかりませんが、素晴らしい駅に蘇つたのは間違ひありません。ヨーロッパの情緒が充分にそなわっている。その雰囲気は、品良く、物静けさが漂つて居ます。私などはこれを一つの風景としてとらえてします。

もとより東京都心に集中してくる列車は数多く、ここに集約され中央駅としての機能を果たしてきました。数々の歴史と思い出の場面を刻んで、日本を代表する、ビジネス街と共に今日に及んでおります。それで平成二

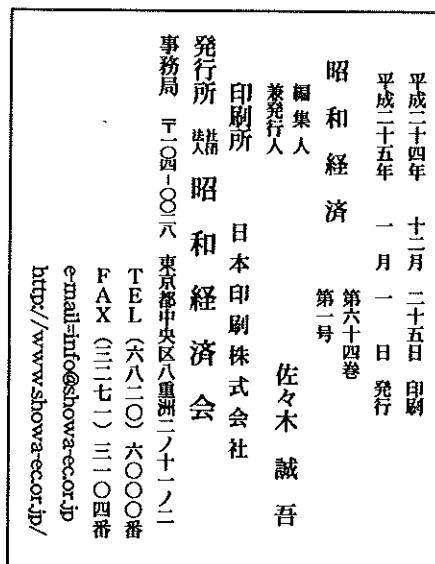
すなわち駅前から皇居に向つて幅の広い道路と、皇居前広場に出るまでの広々とした空間が素晴らしい、画家の心象描写をかきたてるのです。以前は余り知らずに居たのです

十四年（2012年）に国指定重要文化財となりました。それを待つかのように丸の内駅舎創建当時の姿に、復原されたわけです。これからは過去の歴史と、未来の日本と世界が、対話する街として発展していく事でしよう。

私が部分的に感動したのは、南北ドームの内部です。ドーム内部の保存の為の復原の基本方針は、部位によつて異なります。オリジナルデザインに復原する部分は、三階以上の壁面とドーム天井面でありますそして壁面と天井面は創建時の意匠を忠実に再現しました。

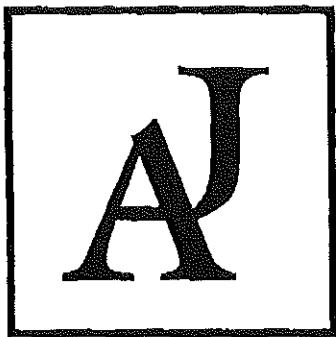
ドーム一階と二階は復原部分の重厚さを残しつつ、機能に即した新しいデザインにしました。ドームを見上げた部分は、ドーム全体として歴史と未来融合したデザインにしました。

北ドームの輝やきは、羅馬ヴァチカン宮殿を髣髴させられたものでした。



取締役社長 佐藤幹介
太平洋興発株式会社

〒111-0011 東京都台東区三元浅草二丁目六番七号
電話 ○三一五八三〇一一六〇一
FAX ○三一五八三〇一一六一三
マタイビル六階



Japan Asia Securities Co., Ltd.
日本アジア証券株式会社
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町1-7-9
Tel : 03 3668 5600

中央建設はこんな会社です

新春のお祝いを申し上げます

葵巳の葵は物事をはかるための原理法則道筋の意があり、巳は物事が一旦終結し新たに出発する意から本年は再出発を図る年です結果を出す行動でお応えします

取締役社長
一級建築士 清水 侃治

中央建設株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2

☎(03)3261-4201(代)

有限会社 日本橋会計事務所内

税理士 板橋則雄
〒103-0013 中央区日本橋人形町三ノ三ノ六
人形町ファーストビルB三階
TEL ○三一三六六一一七七〇一



エレベーターの新設・リニューアル工事には
ダブルブレーキ式巻上機
(製造業者登録第3-146458号)

SECエレベーター株式会社

代表取締役社長 鈴木孝夫

〒110-0016 東京都台東区台東三丁目一十八-十三

SECビル

☎ (03) 3833-1171 (大代表)
FAX (03) 3833-14330

弁護士富田純司

平和と自由を標榜する会の発展は
世界につながる

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一
TEL ○三一三二四一六〇八一
新有楽町ビル十階十三号

LOHASMISSION
ロハスミッション株式会社

代表取締役会長 西村公統

e-mail: nishimura@lohasmission.com

本社 〒130-0015 東京都墨田区横網1-2-28
電話 03-5819-6610 FAX 03-5819-6620
<http://www.lohasmission.com>

株式会社谷口コーポレーション
代表取締役会長
谷 口 八 稔

東京都中央区銀座三丁目7番2号
電話 03(3564)9418
FAX 03(3564)9419

ランコ 岩本

6425 Broadway, #11E
Riverdale, NY 10471

t ADVERTISING
SALES PROMOTION
PLANNING
DESIGN
TOKYO SENKO

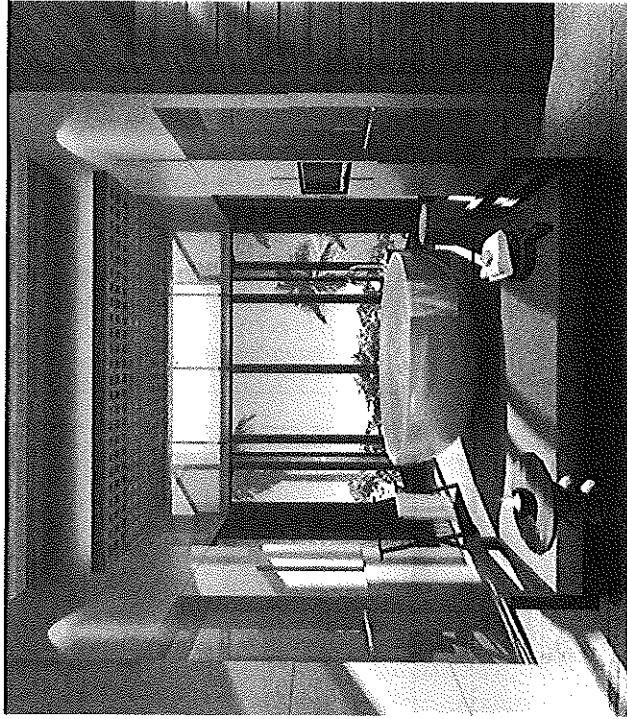
代表取締役会長
鈴木喜佐人
Kisato Suzuki

AD AGENCY 広告・販促企画・制作
株式会社 東京宣広
〒162-0844
東京都新宿区市谷八幡町1番地 新高ビル9F
TEL 03-3267-5531 FAX 03-3267-5534
HP 090-2143-7111
e-mail suzuki@tokyosenko.co.jp

人財育成コンサルタント
サン・レイキヒーリングマスター
株式会社 井浦コミュニケーションセンター

代表取締役 井 浦 康 之
(理事)

〒133-0031 江戸川区北小岩六一〇一-一三
電話 (3672) 3600
FAX (3672) 3599

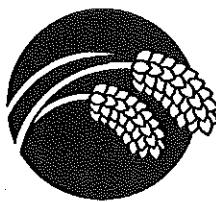


TAKI 滝子デザイン研究所

一般建築士事務所登録 神奈川県知事登録 第12177号
建設業者登録 神奈川県知事許可(般-13) 第65626号
〒231-0862 横浜市中区山手町27-5ペイステージ元町101
TEL045-663-0061 FAX045-663-0761

書籍の発行および販売

株式会社 現代短歌社



代表取締役 道具武志

○毎月短歌についての「現代
短歌新聞」を16頁／年間13
00円にて発行しています。
読者の皆様にご参加いただき
全国に目配りのきいた活気あ
る新聞作りを目指して います。
詳しくは下記にご連絡下さい。

〒一三一〇〇三三
東京都文京区本郷一―三五―二六
電話〇三（五八〇四）七一〇〇
FAX〇三（五八〇四）七一〇一

info@gendaitankasha.com
<http://gendaitankasha.com>

月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十五年一月）（重複有り）

大内義一	早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）	堺谷太一	作家
荻原伯永	（株）日本経済社 日経専務	原田正二	大正大学教授
牛場信彦	外務省顧問	豊田雅孝	当会顧問
広瀬嘉夫	NHK解説委員	安井謙	当会顧問
安井謙	参議院議長	窪田真也	第一勵業銀行産業調査部長
加藤寛	慶應義塾大学教授	宝生あやこ	劇団手織座
豊原兼一	NHK解説委員	山本幸助	通産省産業政策局長
斎藤栄三郎	参議院議員	山田勝久	通産省商政策局国際経済部長
岡村和夫	NHK解説委員	岡松壯三	通産省電子政策課長
石井義昌	櫻桂川精螺製作所 社長	村山祐太郎	鈴木金属工業協同組合長
糸川英夫	組織工学研究所所長	當会理事	当会顧問
宮本四郎	通産省産業政策局長	堀江忠男	早稲田大学名誉教授
豊田雅孝	（社）日本中小企業団体連盟	寺島祥五郎	画家
安井謙	前参議院議長 自民党顧問	安井謙	当会顧問 自民党最高顧問
大来佐武郎	对外経済関係 政府代表	田山晃	元読売新聞政治部次長
藤原弘達	政治評論家	鈴木三子郎	元税務大学教官 税理士
		竹下登	大蔵大臣

福田赳夫	衆議院議員	井浦康之	企業コンサルタント
齊藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治	東海綜合研究所 理事長
河野洋平	參議院議員	バツラフ・ハベル	チエコ大統領
前川春雄	衆議院議員	平野憲一郎	日本經濟新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商產業省 通商政策局長	吉田和男	京都大學教授
堀江忠男	大月短期大学学長	石川忠雄	慶應義塾大學名譽教授 學長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘	元 首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米國企業公共政策研究所 所長	北岡伸一	慶應義塾大學教授
目良浩一	東京國際大學教授	島田晴雄	慶應義塾大學教授
行天豊雄	東京銀行會長	吉田和男	京都大學教授
吉川洋	東京大學教授	塩野谷祐一	一橋大學名譽教授
竹中平蔵	慶應義塾大學教授	宮沢喜一	元 首相
加藤寛	慶應義塾大學教授	山田伸二	NHK解說委員
原田和明	三和綜合研究所 理事長	石井明	東京大學教授
鶴武彦	東京大學教授	加藤寛	千葉商科大學長
大山昊人	東京國際大學教授	伊藤裕章	政府稅制調查會會長
元 N H K 解說委員	朝日新聞	ワシントン特派員	

小宮隆太郎	東京大学名誉教授	北岡伸一	東京大学教授
島田晴雄	青山学院大学教授	石原慎太郎	東京都知事
樋口廣太郎	慶應義塾大学教授	ランコ岩本	ランコ・インターナショナル代表
奥野正寛	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフェルソン	世界銀行総裁
橋本大二郎	東京大学教授	シモン・ペレス	イスラエル外相
福川伸次	高知県知事	山口光恒	慶應義塾大学教授
鈴村興太郎	電通総研研究所所長	岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学経済研究所教授	ポール・サミュエルソン	経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
金大中	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
佐和隆光	京都大学教授	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
茅陽一	慶應義塾大学院教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	山本清治	経済評論家
榎佳之	東京大学医科学研究所	朱建榮	東洋大学
高橋伸彰	大学院教授	アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
月尾嘉男	立命館大学教授		
高橋伸彰	東京大学教授		

林光夫	ナショナル日系博物館ヘリテージセ	土屋堅二	お茶の水女子大学教授（哲学）
ンター理事（前 理事長）	日系プレース基金理事	山崎正和	中央教育審議会 会長
ハワード・H・ベーカー	山本清治	福江等	前 ナザレン神学大学学長 井深記念塾ユーライ
スティーブン・ゴマソール	経済評論家	大田弘子	経済財政担当相
伊藤元重	山口義二	佐藤隆三	ニューヨーク大学名譽教授
公文俊平	立教大学経済学部教授	曾根泰教	東京大学客員教授
伊藤元重	多摩大学情報社会学研究所所長	平野雅章	慶應義塾大学教授
アルビン＆ハイディ・トフラー	東京大学教授	若田部昌澄	早稲田大学教授
中曾根康弘 元 首相	米未来社会学者	浜田純一	東京大学教授
ハワード・H・ベーカー 前 駐日米大使	大西隆	高木新二郎	東京大学教授
竹森俊平	慶應義塾大学教授	中西寛	東京大学総長
岡部直明	日本経済新聞 論説主幹	野村證券顧問	前産業再生機構委員長
加藤寛	千葉商科大学学長	入江昭	京都大学准教授
山口光恒	帝京大学教授	林良造	ハーバード大学名誉教授
斎藤惇	産業再生機構 前 社長		
渡辺智之	一橋大学教授		

クリスティーナ・アーマージャン

一橋大学教授

伊藤元重

今井賢一

東京大学教授
スタンフォード大学

名譽シニアフェロー

吉川弘之

東京大学元学長

池尾和人

慶應義塾大学教授

細田衛士

慶應義塾大学教授

林良嗣

名古屋大学教授

土居丈朗

慶應義塾大学教授

脇坂明

学習院大学教授

関満博

一橋大学教授

古谷浩一

朝日新聞記者

御厨貴

東京大学教授

田中明彦

東京大学教授

西垣通

東京大学大学院情報学環教授

山内昌之

明治大学客員教授

高安秀樹

明治大学客員教授

浜田宏一

エール大学教授

若宮啓文

朝日新聞本社主筆
京都大学教授

植田和弘

京都大学総長

大西隆

東京大学教授
山中季広
深尾京司

山本勲

一橋大学教授
小黒一正
吉川弘之

大村敬一

早稲田大学教授
庄司克宏
ジム・フレアティ

伊藤元重

慶應義塾大学教授
東京大学教授

清家篤

日本私立大学連盟会長
慶應義塾長

藤原帰一

東京大学教授
緒方貞子
田中素香

国際協力機構（JICA）理事長
中央大学教授

申珏秀

駐日韓国大使

加藤弘之 神戸大学教授

新宅純二郎 東京大学准教授

岡部直明 日本経済新聞客員コラムニスト

若宮啓文 朝日新聞主筆

中沢克二 日本経済新聞社 中国総局長

猪木武徳 青山学院大学特任教授

長山浩章 京都大学教授

石川城太 一橋大学教授

鹿野嘉昭 同志社大学教授

岡部直明 日本経済新聞客員コラムニスト

篠崎彰彦 九州大学教授

翟林瑜 大阪市立大学教授

横山彰 中央大学教授

小林慶一郎 一橋大学教授

原真人 朝日新聞編集委員

当会・講演会 講師（敬称略）

昭和五十三年（平成二十四年十月）

堺屋太一 作家

栗栖弘臣 統合幕僚長

加藤寛 組織工業研究所 所長

糸川広洋 大来佐武郎 勤應義塾大学教授

斎藤栄三郎 科学技術省長官

柿沢弘治 大来佐武郎 対外経済担当大臣

浜田幸一 衆議院議員

木元教子 評論家

岡松壯三郎 稲川泰弘 通産省電子政策課長

通産省産業政策局

藤原弘達 山本幸助 商務サービス産業室長

政治評論家 通産省産業政策局長

岡松壯三郎 通産省生活産業局長

山田勝之	通産省国際政治部長	堀江忠男	早稲田大学名誉教授
鈴木幸夫	テレビ東京解説委員長	梅沢節男	国税庁長官
山室英男	NHK解説委員長	田川誠一	進歩党代表
佐野忠克	通産省宇宙産業室長	森直	衆議院議員
河野洋平	寺島祥五郎	藤井康男	東京大学総長
寺島祥五郎	当会理事	水城武彦	龍角散社長
長富祐一郎	大蔵省官房審議官	大山晃人	NHK解説委員
中沢忠義	中小企業庁長官	斎藤栄三郎	国務大臣
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	内田満	科学技術庁長官
天谷直弘	(財)産業研究所顧問	岡松壯三郎	早稲田大学教授
鈴木俊一	元通産省審議官	有馬朗人	東海銀行常務取締役調査部長
黒田眞	東京都知事	松本和男	東京大学総長
上野明	通商産業省通商政策局長	大山晃人	経済評論家
前川春雄	野村総合研究所主任研究員	鈴木淑夫	NHK解説委員
大山晃人	前日本銀行総裁	野村総合研究所副理事長	元日本銀行理事
野坂昭如	NHK解説委員	松永信雄	外務省顧問前駐米大使
水野哲	作家	霍見芳浩	ニユーヨーク市立大学大学院教
水野哲	通産省産業政策局	村松暎	慶應義塾大学名誉教授
産業政策局総務課長			

杏林大学教授

筑波大学付属病院副院長

飯田健一 N H K 解説委員

齊藤精一郎 立教大学教授

前出雲市長

L・A・チジョーフ 駐日ロシア連邦大使
大山晃人 元N H K 解説委員

岩国哲人 浅井隆 岩田規久男

経済ジャーナリスト

東京国際大学教授

久保亘 久保亘 岩田規久男

上智大学教授

小浜維人 青木匡光

前大蔵大臣 浅井隆

元N H K 解説委員
（財）日本証券経済研究所
主任研究員

吉田春樹 副島隆彦
東京国際大学教授
N H K 解説委員

原田和明 和田俊

和田俊 早坂茂三
和光経済研究所理事長

三和総合研究所
朝日新聞編集委員

吉田春樹
N H K 解説委員

大山晃人 木村時夫

木浦康之
井浦コミュニケーションセンター
N H K 解説委員

早坂茂三 山田伸二
中村敦夫 参議院議員

テレビ朝日ニュース・ステーション
元 N H K 解説委員

西澤宏繁 田中角栄
N H K 解説委員

大山晃人 早稻田大学名誉教授

西澤宏繁
N H K 解説委員

木浦康之
井浦コミュニケーションセンター
N H K 解説委員

原田和明
三和総合研究所特別顧問

水谷研治 目良浩一

東京国際大学教授
衆議院議員

山下龜次郎 筑波大学臨床医学系内科教授

鷹井静香
N H K 解説委員

水谷研治 東京国際大学教授

理事長
前大蔵大臣

目良浩一 東京国際大学教授

衆議院議員

山下龜次郎 筑波大学臨床医学系内科教授

水谷研治
N H K 解説委員

武者陵司	ド・イチエ証券チーフストラジト	山田伸一	NHK解説主幹
川崎真一郎	第一生命経済研究所 主任研究員	中谷元	元防衛厅長官 衆議院議員
金子一義	山口義行	林良造	東京大学教授
山田伸二	立教大学教授	渡辺喜美	元経済産業省 経済産業政策局長
斎藤精一郎	NHK解説主幹	山崎淑行	みんなの党代表 衆議院議員
伊藤達也	千葉商科大学教授 元金融担当大臣	中谷巖	NHK科学文化部 記者
高木新二郎	㈱産業再生機構 産業再生委員長	ロバート・フェルドマン	一橋大学教授
斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授 社会経済学者 エコノミスト	月尾嘉男	経済評論家・エコノミスト
佐々木和男	㈱NTTデータ経営研究所所長	山田伸二	東京大学名誉教授 NHK解説主幹
佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長 元三菱商事㈱本部長	サウディ石油化学㈱ 前社長	経済評論家 株式評論家
三原淳雄	経済評論家	石川一洋	NHK解説委員
石川一洋	元モスクワ支局長		

講演会の主な講師（講演時役職）（敬称略）

山黒岡山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
 室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
 莊祐新榮宗
 英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳
 男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫
 N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大
 H産產產藏本H應學織本學田本士大
 K省省省稅京務小H應學織本學田本士大
 生產國企K義工經治議濟濟本二臣
 解產官銀塾產工經治議濟濟本二臣
 活業際序都省業解省術護研新評院術評評内閣總
 説業產政房行大究聞大序研行行
 委審業策治審長知顧所社論議論社論社理頭大臣
 員議局局部議長委教長所顧長
 長官長長官官事裁間家官員授家間官士長間家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小レ霍松鈴有大水森堀水藤井大
 通財藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜今見永木馬来谷江城井浦山
 災省精佐
 指相達一義靜宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信淑朗武研忠武康康昊
 宮也義二香繁三雄彦二直人郎一明俊入浩雄夫人郎治直男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東對東東早N龍井N
 商藏務教京應H和ビH日ヨメ総京角コミュニケ
 産閣大議都治義治大教総朝日Kロク大合大
 業政・学雲国合ニロク使研大濟研
 政策理産經民塾大際研ニ解シ立・解
 研究大業院評評解藏大究・解
 研究再濟銀大學大究・解
 研究会臣生學說市所スア大務所當所
 メンメ補機部議行學論大教理テ大院理總
 ン佐構教頭教委教事シヨ大院顧事
 ババ担教
 ！！官当授員取家授家員臣長授授長ン長使授間長長臣長長授員長！員

昭和經濟 25-1月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別扱承認雑誌第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

財務省 本省許可

社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp